令和２年度業務実績報告書

令和３年６月
独立行政法人国立美術館

目　　次

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上 3
1　美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開 3
（1）多様な鑑賞機会の提供 3
①　所蔵作品展 3
②　企画展 4
③　国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会 6
④　巡回展・巡回上映 6
（2）美術創造活動の活性化の推進 6
①　新しい芸術表現への取組 6
②　公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館） 8
（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上 8
①　情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等 8
②　美術情報の収集，記録の作成・蓄積，デジタル化，レファレンス機能の充実 10
③　インフォメーションデータセンター（IDC）の確立 11
（4）教育普及活動の充実 12
①　幅広い学習機会の提供（講演会，ギャラリートーク，アーティスト・トーク等） 12
②　ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業 14
（5）調査研究の実施と成果の反映・発信 16
①　調査研究一覧 16
②　調査研究成果の発信 17
（6）快適な観覧環境の提供 18
①　高齢者，障害者，外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成 18
②　入場料金，開館時間等の弾力化 20
③　キャンパスメンバーズ制度の実施 22
④　ミュージアムショップ，レストラン等の充実 23

2　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承 25
（1）作品の収集 25
（2）所蔵作品の保管・管理 28
（3）所蔵作品の修理・修復 29
（4）所蔵作品の貸与 30

3　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与 32
（1）国内外の美術館等との連携・協力等 32
（2）ナショナルセンターとしての人材育成 33
（3）国内外の映画関係団体等との連携等 34

Ⅱ　業務運営の効率化 38
1　業務運営の取組 38
2　組織体制の見直し 40
3　契約の点検・見直し 40
4　共同調達の推進 41
5　給与水準の適正化等 41
6　情報通信技術を活用した業務の効率化 42

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画等 43
1　自己収入の確保 43
2　保有資産の有効利用・処分 43
3　予算 43
4　収支計画 44
5　資金計画 45
6　貸借対照表 45
7　短期借入金 45
8　重要な財産の処分等 46
9　剰余金 46

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項 47
1　内部統制・ガバナンスの強化 47
2　施設・設備に関する計画 48
3　人事に関する計画 48
4　関連公益法人 49
5　国立工芸館の移転 50

別表 1　所蔵作品展 51
別表 2　企画展 51
別表 3　映画上映会（国立映画アーカイブ） 53
別表 4　展覧会（国立映画アーカイブ） 54
別表 5　地方巡回展・巡回上映等 54
別表 6　調査研究一覧 55
別表 7　展覧会図録における執筆 60
別表 8　研究紀要における執筆 62
別表 9　館ニュースにおける執筆 62
別表 10　館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信 65
別表 11　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催 77
別表 12　シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築 77

（別紙）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1　美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

（1）多様な鑑賞機会の提供

令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により，作品の輸送等が困難になったことに加え，年度当初より各館で 2～3 か月程度の臨時休館を実施したことにより，5 つの企画展・上映会が中止となり，9 つが翌年度以降に延期となった。そのような状況の中で，各館は既存の企画展・上映会の延長や，新たなプログラムの開催などを通じて，多彩な鑑賞機会を提供することに務めた。所蔵作品展においても，企画展と連動した特集展示を開催しつつ，動画配信などオンラインを活用した所蔵作品の紹介を積極的に行った。

①　所蔵作品展

所蔵作品展は，研究成果，利用者のニーズ等を踏まえ，別表 1 のとおり実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

小企画展「男性彫刻」では，一般に女性像の影に隠れて目立たない，男性を題材とした彫刻作品に目を向けることで，日本の近代彫刻史を従来とは異なる角度から再考し，新聞・雑誌で高評価を得た。また，小企画展「幻視するレンズ」では，同時開催の企画展「あやしい絵」と関連づけ，写真における幻想的傾向を紹介した。そのほか，臨時休館の時期に「#おうちで MOMAT」と題して SNS における所蔵作品の配信に積極的に取り組んだほか，所蔵作品展会場を VR 映像で撮影し配信するなど，外出の自粛を余儀なくされる多くの人々に対し，広く所蔵作品の鑑賞機会を提供した。

イ　京都国立近代美術館

「パンリアル美術協会解散によせて」や「特集：三島喜美代」などの特集展示に加え，小企画として，「キュレトリアル・スタディズ 13：チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより」を開催し，大戦間期の実験的なチェコのブックデザインを紹介した。同時開催の企画展「チェコ・デザイン 100 年の旅」との連携を意図したもので，来館者の幅広い関心に応えることができた。さらに，ヘレナ・チャプコヴァー氏（立命館大学准教授）を共同研究者に迎え，外部との共同研究活動の発展という点でも成果を上げた。同じく小企画の「キュレトリアル・スタディズ 14：須田国太郎　写実と真理の思索」は，これまで京都国立近代美術館が収集してきた須田作品全点を一挙公開する試みであり，京都洋画壇を代表する巨匠須田国太郎を包括的に紹介し，国立美術館の収集・保管事業の成果を広く国民に公開することにもつながった。

ウ　国立西洋美術館

エドゥアール・マネ《嵐の海》(1873 年)やフランシスコ・デ・スルバラン《聖ドミニクス》(1626-27 年)など新規収蔵作品を積極的に展示し，収集・保管事業の成果を広く国民に示すことができた。また，企画展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」の期間に，松方コレクションのイギリス絵画特集コーナーを設け，館内の回遊性を高めつつ，フランス絵画に注目が集まりがちな松方コレクションの重要な一側面に光を当てた。そのほか，小企画展「内藤コレクション展Ⅱ「中世からルネサンスの写本　祈りと絵」」及び「内藤コレクション展Ⅲ「写本彩飾の精華　天に捧ぐ歌、神の理」」において，写本という日本人にとってなじみの薄いジャンルの作品をまとめて展示することで，西洋美術の隠れた一面を紹介し，来館者にも好評だった。

エ　国立国際美術館

異なるテーマを設定し，3 期に分けて所蔵作品展を開催した。各会期のテーマをさらに小テーマに分けて展示することで，展示のコンセプトを分かりやすく紹介し，難解なイメージを持たれやすい現代美術についての国民の理解促進に寄与した。また，研究員による所蔵作品の紹介動画

の配信や，所蔵作品展に関連した作家のオンラインレクチャーの開催など，オンラインコンテンツを充実させ，来館ができない人々のニーズに応える成果を挙げた。

② 企画展

企画展は，来館者のニーズに対応しつつ，以下の観点に留意して別表 2 のとおり実施した。

イ　国際的視野に立ち，アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し，確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに，我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ　展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。

ハ　メディアアート，アニメ，建築，ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ，最先端の現代美術への関心を促す。

ニ　過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。

ホ　その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

「ピーター・ドイグ展」では，世界的に高い評価を受けるイギリスの作家ピーター・ドイグを，日本で初めて個展形式で紹介した。作品の評価額が現存作家としては最高額の1人であることから，展覧会の開催そのものが困難な作家であったが，ギャラリーや海外の文化財団から協賛金を獲得することで資金面の課題を解決し，開催を実現させる成果を上げた。また，図録に多数の作品解説や作家の対談の抄訳等を掲載し内容を充実させたことで，図録の購買率が約2割と他の展覧会と比較して高い水準となったことは，来館者のニーズをとらえた特徴的な成果として特筆される。

「眠り展：アートと生きること　ゴヤ，ルーベンスから塩田千春まで」では，「眠り」という日常的な営みをテーマとし，国立美術館のコレクションから時代や地域を超えて作品を紹介した。広報のターゲットを若年層に絞りウェブ広報に注力したことや，キャンパスメンバーズ加盟校の学生の観覧料を無料としたことが奏功し，大学及び専門学校生の来館比率が例年の企画展の2倍以上と高い水準となり，新しい来館者層の獲得につながったことは成果といえる。また，展示会場の3DVRや，展覧会づくりに関わる建築家やデザイナーのインタビュー動画をオンラインで公開し，来館できない人々のニーズに応えたことも大きな成果といえる。

（国立工芸館）

「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅰ　工の芸術―素材・わざ・風土」では，所蔵作品の魅力を分かりやすく紹介しつつ，工芸の地域性と多様性を紹介することで，国立工芸館の地方移転の意義を展示によって示した。石川県移転後初の展覧会として地元メディアの注目度が高く，オープン 1 週間前に展示室撮影のためのメディア対応期間を設け，事前に移転作業の記録映像を各放送局に提供するなど，メディアが取り上げやすい工夫を凝らした結果，目標を大きく超える入館者数を獲得した。また，近隣美術館や文化施設等と相互割引を積極的に実施したことで，兼六園周辺文化の森エリアの活性化や観光客の誘致に寄与したことは，地方創生という政府の政策に沿うものであり，特筆すべき成果を挙げたといえる。

「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ　うちにこんなのあったら展　気になるデザイン×工芸コレクション」では，工芸とデザインの両分野を横断的に展観し，幅広い国立工芸館のコレクションを紹介した。工芸とデザインの初心者が敷居の高さを感じないよう，親しみやすい広報ビジュアルを用いるなど工夫を凝らした結果，若年層の来館者の割合が高まり，新たな来館者層を獲得することができた。また，全面的に写真撮影可能としたことで，SNS 等での発信による広報効果が得られ，目標を超える入館者を獲得した。

イ　京都国立近代美術館

「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」では，「友禅」の人間国宝・森口邦彦の大回顧展として，「日本人と自然」というテーマをデザインと友禅（伝統）の両面から紹介した。展示の空間構成に工夫を凝らすことで，従来の着物や伝統工芸の愛好者だけではなく，デザインや建築などに関心をもつ新たな層に，友禅の魅力や可能性を伝えることが可能となった。また，広報用リーフレットを日英中韓仏の 5 ヶ国語で作成し，図録は日英仏の 3 ヶ国語表記とした。本展の図録はマクロン・フランス大統領にも献呈され，領事館を通じて大統領から書簡が届けられるなど，日仏文化交流にも大きく寄与した。

「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」では，日本で最初の建築運動とされる分離派建築会を主題に，その周辺の同時代芸術分野との比較も交えて，その活動の再評価を行った。建築資料のみならず、彫刻作品など幅広い分野の作品も展示したことで，建築以外の他芸術分野に関心がある層からも広く反響を呼んだ。また，SF 作家や女優などの建築分野以外の著名人へのインタビューや，分離派建築会のエピソードを紹介する漫画をウェブで公開するなど，建築に関心が低い層にも興味を抱いてもらえるようなメディア戦略を実施した結果，他展と比較して来館者における若年層の比率が高まった。これらは新規来館者開拓という点で特筆すべき成果といえる。

ウ　国立西洋美術館

「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」では，ロンドン・ナショナル・ギャラリーが史上初めてイギリス国外で開催する所蔵品展であり，イギリスとヨーロッパ大陸の美術交流，イギリスにおけるヨーロッパ絵画の受容をテーマとして，ルネサンスから後期印象派に至る名品 61 点を紹介した。西洋美術の通史的な展覧会はこれまでにも開催されてきたが，イギリスを着眼点とした企画は国際的に見ても稀で，我が国においては初となるものであり，国民に希少な鑑賞機会を提供することができた。また，新型コロナウイルス感染症対策のため人数制限や混雑緩和を実施しつつも，一日平均で 2,500 人以上の来館者を得たことは大きな成果といえる。

エ　国立国際美術館

「ヤン・ヴォー　ーォヴ・ンヤ」は，ベトナムに生まれ，世界各地で活躍しているアーティスト，ヤン・ヴォーの日本の美術館における初個展であり，新作を含めた 39 点の作品で作家を紹介した。国際的な評価の高さに比して，日本国内では鑑賞機会の少ない作家を紹介できたことは，世界の美術動向を紹介するという点で国立美術館の役割を果たしたといえる。また，美術館にアクセス出来ず展覧会を鑑賞できない人たちに向けた取組として，作家インタビューや展示風景を含むデジタルコンテンツを製作し YouTube にアップした。

「ミケル・バルセロ展」は，現代アートシーンを牽引する美術家の一人であるミケル・バルセロの，日本初の大回顧展であり，初期から現在に至るまでの制作活動を約 100 点もの作品によって紹介した。作品のみならず，作家のヴィデオメッセージ，映像資料，書籍資料などを展示することで．世界的知名度を持ち国際的に活躍する作家の活動を多角的に紹介した。

オ　国立新美術館

「MANGA 都市 TOKYO　ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮　2020」では，日本独自の視覚文化であるマンガ・アニメ・ゲーム・特撮を，東京というテーマで切り取り，93 タイトル 551 点の作品による大規模展示で紹介した。国立新美術館の，2000 ㎡の企画展示室を活かし，巨大スクリーンと 1/1000 の東京都市模型を配置し，他では見ることのできない大規模な展示を実現した。また，広報展開として，ツイッターライブによる展覧会関連動画の配信や，休館中の館内を活用したコスプレイベントの開催など，これまでにない新しい取組を実施したところ，オンライン上で話題となり，広報効果が得られた。

「佐藤可士和展」では，日本を代表するクリエイティブディレクター佐藤可士和を取り上げ，初期の広告プロジェクトから主要なロゴのデザイン，最新のブランディングプロジェクトまで

約 30 年間の活動を紹介した。クリエイティブディレクターの活動を取り上げる展覧会は，国内では前例のない試みであり，新しい芸術表現を積極的に取り上げるという国立美術館の役割を果たしたことは特筆される。また，広報展開として，展覧会の公式 YouTube チャンネルを開設し作家インタビューや対談等の動画を 10 本以上配信したほか，展示室内の映像シアター以外の全エリアを写真撮影可とするなどの取組を行い，その広報効果により，目標を超える多くの来館者を獲得した。そのほか，これまでにないジャンルの展覧会であったため，来館者のうち国立新美術館に初めて訪れた人の割合が多く，美術館やアートへの関心をより幅広い層に喚起する成果を挙げたことも特筆される。

③　国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は，別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。
取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「松竹第一主義 松竹映画の 100 年」では，100 年に及ぶ歴史を持つ松竹映画を，1921 年のサイレント作品から 2006 年の近年の作品まで 79 作品により紹介した。評価の定まった名作だけでなく，これまで批評的にも言及されることの少なかったアニメーション作品や時代劇作品，松竹が外部プロダクションと提携した作品や配給した作品なども紹介し，松竹映画の多様性を提示した。とりわけ時代劇作品については，小特集を設け，チラシなどの広報物で詳しい解説を付けるなど，積極的に再検証の機会を作ったことで，従来の映画史では言及されることの少なかったその重要性を示すことができた。

上映会「生誕 100 年 映画俳優 三船敏郎」では，三船敏郎の生誕 100 年を記念して，デビュー作『銀嶺の果て』（谷口千吉監督、1947 年）から最後の出演作『深い河』（熊井啓監督、1995 年）まで 27 作品によってその足跡を回顧した。日本映画史を代表する俳優の生誕 100 周年を祝う時宜を得た企画として広報を効果的に展開できたことに加えて，同時期に開催した展覧会「公開 70 周年記念　映画「羅生門」展」との連動が奏功した結果，座席占有率 97%という盛況を博した。また，時代劇のみならずアクション，社会派映画，メロドラマなど多様なジャンルの出演作を上映し，日本映画を牽引した稀代のスターとしての業績を再検証すると共に，監督やプロデューサーとしての活動も検証するなど，国立映画アーカイブならではの多角的な回顧特集を行ったことも特筆される。

展覧会「公開 70 周年記念　映画「羅生門」展」では，黒澤明の名を世界に知らしめた日本映画史上の傑作『羅生門』の世界を，劇場公開から 70 年，監督生誕 110 年の時宜をとらえ，脚本・撮影・美術ほか多様な視点から紹介し，最新のデジタル技術を使った新しい資料展示にも取り組んだ。特筆すべき取組としては，日本映画・テレビ美術監督協会の制作・提供による「羅生門」1/10 セット再現模型が，10 月 20 日から 12 月 27 日まで 1 階ロビーで展示され，多くの来館者の注目を集めたことが挙げられる。

④　巡回展・巡回上映

地方巡回展及び巡回上映等は，別表 5 のとおり実施した。

（２）美術創造活動の活性化の推進

①　新しい芸術表現への取組

新しい芸術表現への取組については，各館以下のとおり実施した。

ア　京都国立近代美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「チェコ・デザイン 100 年の旅」	デザイン，メディア・アート	20 世紀の 2 回の大戦を経験したチェコでは，様々な社会的情勢の変化のなかで，デザイナーも翻弄され，そのデザインの様相は大きく変化した。このような歴史背景を踏まえつつ，玩具やアニメを含むチェコの 100 年にわたるデザインの変遷を紹介した。

企画展「日本・ポーランド国交樹立 100 周年記念　ポーランドの映画ポスター」	デザイン	映画とともに「ポーランド派」として世界的に高く評価された 1950 年代から 90 年代にかけてポーランドの映画ポスター96 点を紹介した。
小企画「キュレトリアル・スタディズ 13：チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s　大阪中之島美術館のコレクションより」	デザイン，メディア・アート	大阪中之島美術館所蔵の 1920 年代から 30 年代にかけてのチェコブックデザインによる企画展示を行った。特に 6 名の作家に焦点を当て詳細な解説を行うことで，作品を通して，デザインと芸術との境界が曖昧な当時の作家のネットワークをも紹介した。
企画展「人間国宝 森口邦彦友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし」	デザイン	友禅の技法で重要無形文化財保持者に認定されている森口邦彦の主要な表現媒体である着物を中心に，それらを制作するための草稿，平面作品，学生時代の習作，そして三越やセーヴルなどと共同したデザインワークなど，創作活動の全貌を紹介した。
企画展「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」	建築	大正時代の社会・芸術文化の動向と建築との双方に比重を置きながら，分離派建築会の８年間に及ぶ活動を紹介した。
ウ　国立映画アーカイブ		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
上映企画「こども映画館」（地方巡回含む）	アニメーション	館内及び巡回上映企画の「こども映画館」で，日本のアニメーションを対象にプログラムを作成・上映した。
展覧会「川本喜八郎＋岡本忠成 パペットアニメーショウ 2020」	アニメーション	日本の人形アニメーション映画の代表的作家を取り上げた展覧会を開催した。
エ　国立国際美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「ヤン・ヴォー ーォヴ・ンヤ」	インスタレーション	現代美術の新しい潮流の一つである「リレーショナル・アート」の作家としても論じられるヤン・ヴォーを取り上げ，優れたインスタレーションをともなう展示を生み出す作家として検証した。
オ　国立新美術館		
事業（展覧会等）名	ジャンル	取組内容
企画展「古典×現代 2020―時空を超える日本のアート」	映像インスタレーション，アニメーション	古い時代の日本美術の名品と現代美術を組み合わせ，時代を超えた類似や親和性を浮上させた。動く照明を用いた仏像の新しい展示，浮世絵のイメージを取り入れたアニメーション作品など，新しい芸術表現を古典的な美術と融合させた。
企画展「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮　2020」	マンガ，アニメ，ゲーム	東京をキーワードに，マンガ，アニメ，ゲームといった日本独自の視覚文化を歴史的に紹介した。2018 年にパリのラ・ヴィレットで開催した同展の凱旋展。巨大な東京の模型と映像，インタラクティブな仕掛けを組み合わせたインスタレーションを展示した。
企画展「DOMANI・明日展 2021　文化庁新進芸術家海外研修制度の作家たち」	映像，インスタレーション	文化庁新進芸術家海外研修制度を経験した，新進作家 7 名と現在アートシーンの最前線で活躍する 3 名を加え，絵画だけでなく従来の絵画材料とは異なる素材を使った作品，映像，インスタレーションによる多岐な表現を紹介した。
企画展「佐藤可士和展」	デザイン，クリエイティブディレクション，インスタレーション	クリエイティブディレクターとして活躍する佐藤可士和の全貌をたどった。ブランド全体をディレクションする活動を紹介するため，製品・パッケージ・内装・販売方法など全てを監修した店舗での販売も含めた展示，車両の展示など，その仕事を立体的に体感できる新しいインスタレーションを展開した。
イベント「六本木アートナイト　スピンオフ・プロジェクト」	インスタレーション	国立新美術館正面入口前で 2019 年 4 月より特別公開している吉岡徳仁氏の《ガラスの茶室―光庵》を，新型コロナウイルスと戦う医療従事者への感謝のメッセージを込めてコバルトブルーにライトアップし，その光景を吉岡氏のインタビューとともに配信した。
		計 13 件

② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：計 34 団体

年間利用室数：延べ 1,428 室／年

稼働率：99.2%（目標：100%）

入館者数：189,008 人

1　公募団体等から寄せられた意見や要望も参考としつつ，効率的な開催準備と運営を実施した。

2　令和 2 年度に利用可能な展示室 3,500 室のうち，令和 2 年 4 月 1 日時点の稼働率は 99.2%（3,472 室）であった。

3　公募団体等の使用辞退について，展示室使用の追加募集を実施し，令和 2・3 年度に展示室を使用する 1 団体，令和 3 年度に展示室を使用する 3 団体を決定した。

4　令和 4 年度に公募展示室を使用する 81 団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定した。

5　新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のための臨時休館により 13 団体，団体の使用辞退により 34 団体の公募展が中止となった。

（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア　ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数（ページビュー）	
	実績	目標
本部	1,133,895	5,952,350
東京国立近代美術館（本館・国立工芸館）	5,295,327	11,613,099
京都国立近代美術館	1,476,478	2,360,880
国立映画アーカイブ	1,280,048	—
国立西洋美術館	4,783,086	10,242,595
国立国際美術館	2,704,147	2,547,497
国立新美術館	9,062,492	10,701,915
計	**25,735,473**	**43,418,336**

イ　所蔵作品データ等のデジタル化と公開

館　　名		画像データ					テキストデータ				
		デジタル化件数		累積公開件数	公開率		デジタル化件数		累積公開件数	公開率	
		新規	累計		実績	目標	新規	累計		実績	目標
東京国立近代美術館	本館	198	11,789	7,685	56.7%	57.2%	376	12,783	11,800	87.1%	87.4%
	国立工芸館	30	4,775	3,481	87.2%	33.7%	84	5,360	※1 4,575	114.6%	98.4%
京都国立近代美術館		443	9,056	7,737	60.1%	18.2%	86	15,859	※1 15,237	118.4%	100.9%
国立映画アーカイブ		—	—	—	—	—	10,648	203,458	—	—	—
国立西洋美術館		2,740	23,484	4,587	71.8%	3.8%	329	※2 6,807	4,893	76.6%	85.7%
国立国際美術館		61	8,417	4,973	61.6%	49.8%	183	9,356	※1 8,377	103.8%	98.7%
計		**3,472**	**57,521**	**28,463**	**63.4%**	**35.2%**	**11,706**	**253,623**	**44,882**	**100.0%**	**94.0%**

【注 1】「デジタル化件数」は，各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては，ローカルシステムである NFAD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。

【注 2】「累計公開件数」は，「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」（http://search.artmuseums.go.jp/）における画像及びテキストデータの公開件数である。

【注 3】上表のほか，国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」（http://nfad.nfaj.go.jp/）において日本劇映画のテキストデータ 7,752 件を，国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」（http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/）において作品のテキストデータ 6,155 件及び画像データ 6,222 件を，国立新美術館では「ANZAÏ フォトアーカイブ」（http://db.nact.jp/anzai/）においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。

※1 国立工芸館，京都国立近代美術館，国立国際美術館では，複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合があるため，テキストデータの公開率が高くなっている。

※2 国立西洋美術館では，1 作品当たりに複数の画像データを登録している例があるため，画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。

ウ 各館の特徴

（ア）法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき，理事長のもとに国立美術館 6 館の情報担当者により組織する「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており，各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行っている。各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法（入力仕様）の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステムの開発を進め，試行版を法人内で共有した。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については，新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに，著作権者情報の整備及び調査を行い，画像掲載許諾申請手続を継続した。また，所蔵作品の歴史情報（来歴・展覧会歴・参考文献歴）について，日英二か国語で順次公開し，国立美術館が所有する美術情報を国内外へさらに広く発信することに努めた。そのほか，所蔵作品情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」へのデータ連携を行った。

（イ）東京国立近代美術館

令和元年度から公開を開始した「東京国立近代美術館リポジトリ」について，令和 2 年度も刊行物の情報を充実させた。また，海外の機関リポジトリ「ERDB-JP」（電子リソース管理データベース）に刊行物の情報を登録し，世界に向けて情報を発信した。これにより，東京国立近代美術館で刊行された紀要論文，『現代の眼』，活動報告等の電子コンテンツへのアクセス性が向上し，研究情報等の発信力が強化された。

（ウ）京都国立近代美術館

公式 YouTube チャンネルを開設し，新型コロナウイルス感染症流行の影響で来館できない方々へ向け，展覧会内容や関連イベントを紹介したほか，教育普及事業のオンライン開催も実施した。

（エ）国立映画アーカイブ

平成 25 年度に開始した所蔵資料公開事業「NFAJ デジタル展示室」については，令和 2 年度中に第 21 回公開として「澤村四郎五郎コレクション」の第 2 回の特集展示を行った。

映画関連資料については，映画研究者塚田嘉信氏旧蔵の初期映画資料や，国立映画アーカイブ所蔵の技術資料等のデジタル化作業を実施した。前年度にデジタル化を実施した戦前の映画雑誌に関しては，平成 29 年度に図書室内に開設した「デジタル資料閲覧システム」にデータを追加し，内容を充実させた。

（オ）国立西洋美術館

公式 SNS で所蔵作品を紹介・解説する「所蔵作品紹介シリーズ」を連載し，利用者が自宅で所蔵作品に触れる機会を提供した。また，既存コンテンツの再利用として，これまで「Google Arts & Culture」内で公開していたギャラリートークの映像 19 本を公式 YouTube チャンネルで公開した。そのほか，収蔵品データベースについて，利用者がデバイスを意識せず快適に閲覧できるよう，画面のレスポンシヴ化を進めた。これにより，SNS での所蔵作品紹介からデータベースの詳細情報への連携・誘導がより効果的にできるようになった。

（カ）国立国際美術館

ホームページのリニューアル作業を完了した。また，公式YouTubeチャンネルを利用して，作家のインタビュー動画や研究員の所蔵作品解説動画を公開した。そのほか，教育普及用の「アクティヴィティ・パレット」ページを作成し，作家が自宅でできる工作などを写真・動画，音声を利用してレクチャーできるページを公開した。

（キ）国立新美術館

日本国内の美術館，画廊，美術団体から継続的に展覧会情報を収集し，展覧会情報データベース「アートコモンズ」において公開した。令和 2 年度は約 2,000 件の展覧会情報を約 1,000 か所から収集し，累計で約 52,500 件の展覧会情報を収集・公開した。また，利用者がスマートフォンなどの端末で視聴できる無料のウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」について，令和 2 年度は英語版，中国語版，韓国語版を新たに配信した。

② 美術情報の収集，記録の作成・蓄積，デジタル化，レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	図書室等利用者数	
				実績	目標
東京国立近代美術館	本館	2,380	148,978	316	2,263
	国立工芸館	1,263	29,611	892	306
京都国立近代美術館		1,455	34,190	1	－
国立映画アーカイブ		897	50,966	1,642	3,681
国立西洋美術館		360	54,024	89	383
国立国際美術館		1,022	54,352	0	－
国立新美術館		2,715	161,318	302	24,392
計		**10,092**	**533,439**	**3,242**	**31,025**

【注１】東京国立近代美術館は本館 4 階，京都国立近代美術館は 4 階，国立西洋美術館は 1 階（令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策のため撤去），国立国際美術館は地下 1 階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けているが，入館者が自由に閲覧できるようにしているため，当該コーナーについては利用者数を把握していない。

【注２】平成 30 年 11 月 3 日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため，予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。なお本事業には，業務運営に関する目標は設定されていない。 また，国立国際美術館は令和 2 年度の資料閲覧を中止した。

イ 特記事項

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

国立情報学研究所が提供している「NACSIS-ILL（図書館間相互利用サービス）」に参加し，遠隔による文献複写サービスの提供を開始した。これにより，全国の美術館・博物館・研究機関

からの文献複写依頼に対応することができるようになった。また，令和元年度から引き続き，アートライブラリ内で資料展示「bauhaus×MOMAT」を開催し，会期後も同展で特集した資料リストを HP で公開した。

（国立工芸館）

石川県への移転に伴い閉室していた閲覧室を，国立工芸館の開館と同時に再開した。東京から石川県へ移送した資料については燻蒸・クリーニングを行ったほか，一部 IC タグによる管理を実施するなど，資料の保存管理状況の改善につとめた。

（イ）京都国立近代美術館

企画展「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」の開催に向けた研究資料として『西陣グラフ』等関連書籍を購入したほか，新収蔵作品研究のための資料として『現代の工芸・伝統と革新』を購入した。また，教育普及事業として進めている視覚障害者との鑑賞プログラム開発のための研究資料として，『視覚障害―その研究と情報』『視覚障害ブックレット』を購入した。

（ウ）国立映画アーカイブ

映画文献に関する網羅性を目指して，映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに，未所蔵の古書や戦前の雑誌など貴重な映画文献の購入に努めた。特筆すべき購入実績として日本映画黎明期の映画会社吉沢商店の発行した『北清事変写真帖』や，『蒲田』『エスエス』『ぽいんとファン』など戦前期の映画雑誌が挙げられる。

（エ）国立西洋美術館

松方コレクションに関連の深いオリジナルの記録文書（作品購入記録）や，ジャポニスム研究に関連する書籍『日本の木版画展』を収集した。松方幸次郎や林忠正に関する記録文書や基礎文献資料のデジタル化を行い，公開準備の整ったものから順次ホームページを通じて公開した。また，国立国会図書館のデジタル化資料のうち，絶版等の理由で入手が困難な資料の利用が可能となる「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に参加しサービスの提供を開始した。

（オ）国立国際美術館

購入候補作品や所蔵作家の関連資料等の収集をおこなった。なかでも，今後の作品研究，展覧会の参考資料等に活用するため『Robert Morris：blind time drawings, 1973-2000』，『Sterling Ruby：chron』などの入手困難な高額図書を収集したことは特筆される。また，長く補充ができていなかったキッズルームの絵本資料についても，国立国際美術館の所蔵作家の絵本を中心に，多くを購入することができ，一般の利用者向けに供することができた。

（カ）国立新美術館

令和元年度までに寄贈・購入により受け入れたアーカイブズ資料について整理作業を進め，特に秋山画廊関係資料，瀬木慎一関係資料，近藤竜男関係資料の物理的整理，編成記述を進めた。国際交流事業としては，海外拠点 4 か所に日本で開催された展覧会の図録を送付する JAC プロジェクトを実施した。

③　インフォメーションデータセンター（IDC）の確立

平成 20 年度に，国立美術館 5 館（当時）全体において VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を導入して以降，情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また，平成 28 年度から外部データセンターが提供するサーバ機能の利用，多重化光回線による VPN の二重化などネットワーク構成を刷新し，ネットワークの，より安定した稼働を実現している。あわせ

て，電子メールやウェブ閲覧の際の情報セキュリティの確保についても外部データセンターが提供するセキュリティ機能を積極的に利用し，より安全な運用の実現に努めた。

（4）教育普及活動の充実

①　幅広い学習機会の提供（講演会，ギャラリートーク，アーティスト・トーク等）

新型コロナウイルス感染症対対策のため，対面での事業の一部を中止又は縮小し，代替としてオンラインや郵送によるイベントを積極的に実施した。

館　　名		実施回数	参加者数	
			実績	目標
東京国立近代美術館	本館	69	758	9,520
	国立工芸館	2	42	2,671
京都国立近代美術館		28	794	3,431
国立映画アーカイブ		62	3,041	13,801
国立西洋美術館		11	54	17,073
国立国際美術館		36	1,135	3,296
国立新美術館		18	2,367	15,823
計		**226**	**8,191**	**65,615**

各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

対面での事業の代替として，企画展おける作家インタビューや所蔵作品展における研究員の作品解説「オンライン・キュレータートーク」を動画配信するなど，オンラインコンテンツを充実させた。企画展「ピーター・ドイグ展」においては課題作品から想起した物語をメールで投稿する「ピーター・ドイグ作品で物語を作ろう！」を実施した。夏休みの時期の実施となり教員への情報提供から宿題としての活用もされ、多くの応募があった。また，英語による異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」の認知拡大のため，動画「Virtual LTA!」を制作し公開したほか，所蔵品ガイドの代替としてガイドスタッフによるオンラインイベント「オンライン対話鑑賞」及び作品解説動画の配信を実施した。

そのほかの新たな取り組みとして，オンラインによる遠隔地の学校との連携授業を実施した。ICT を活用した教育普及活動は今後さらに発展が見込まれる分野であり，その先端的な実例を示したことは大きな成果であり，また遠隔地における鑑賞機会の充実と美術の普及に寄与したという点においても，国立美術館の役割を果たしたといえる。

（国立工芸館）

対面での事業の代替として，来館者自身のデジタルデバイスで作品解説等を読めるカタログポケットを導入したほか，8K モニターによる 2D 及び 3D 鑑賞システムで作品の見どころを開館中常時利用できるようにした。2D 鑑賞システムでは作品の全図とクローズアップや技法解説，３Ｄ鑑賞システムでは底面を含む多方向からの視点を任意の拡大率で示すことで，初学者から専門的知識を持ったさまざまな来館者のニーズに応える成果を挙げた。

また，東京で実施していた鑑賞プログラムを基本構想とする動画「タッチ＆トーク（和英）」や，作家のアトリエでのインタビューを交えた企画展の紹介動画など，動画コンテンツを作成と配信を積極的に行い，来館ができない人々のニーズに応えた。

（イ）京都国立近代美術館

対面での事業の代替として，オンラインや郵送での参加型プログラムを実施した。企画展「京のくらし――二十四節気を愉しむ」に関連して実施した「かるたの読み札，大募集！！」では，出品作品を活用したかるたを作成し，オンライン上の応募フォームで読み札の募集を行ったほか，企画展「チェコ・デザイン 100 年の旅」では，出品作品であるおもちゃに台詞をつけて投稿してもらう企画を実施した。自宅や学校から気軽に参加できる企画を行うことで，来館が難しい状況においても，子どもから大人まで幅広い層の方が作品に触れる機会を提供した。

また，視覚障害のある方と協働しながら，新しい美術館体験や作品鑑賞のありかたを探る「感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」（令和 2 年度文化芸術振興費補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」）では，陶芸作家石黒宗麿の作品を活用し，作品の新たな読み解きや鑑賞方法を提案するプロジェクト「ツボ_ノ_ナカ_ハ_ナンダロナ？」を行いツールボックスの制作を行ったほか，所蔵作品展において体験型展示を開催した。

そのほか，文化庁との共催事業として，岡崎公園の各文化施設及びオンライン上にて，アートを通して共生・多様性について考える「CONNECT⇄　芸術・身体・デザインをひらく」（「令和 2 年度障害者による文化芸術活動支援事業」委託事業）を開催した。

（ウ）国立映画アーカイブ

新型コロナ感染症拡大対策を徹底した上で，上映会に関連した計 27 回のトーク・イベント（講演会，舞台挨拶を含む）を行い，いずれも好評を博した。

また，児童生徒を対象とする教育普及事業としては，「こども映画館」と V4 各国大使館及び文化センターとの共催企画「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催し，「こども映画館」の弁士と楽士には初登壇のメンバーと楽器を依頼した結果，参加者と上映作品の幅を広げることができた。一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映企画「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」では富山，宇和島などアウトリーチ活動を広げることができた。

そのほか，館外での地域連携型教育普及事業として，東京国際フォーラムとの共催企画「月曜シネサロン＆トーク」において，新型コロナウイルス感染症対策として，会場での実施と並行して遠隔でも鑑賞・視聴いただけるよう，オンラインで上映作品と講演の記録映像の配信を行ったことは，特徴的な事業として挙げられる。

（エ）国立西洋美術館

対面での事業の代替として，オンラインコンテンツを充実させた。企画展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」では，予定していた講演会を，オンライン用に 3 部に分けて動画を作成し配信したところ，2 万回以上の視聴実績を挙げた。

また，小中学生用企画展セルフガイド「ジュニア・パスポート」や，今回新たに作った家族向けワークシート「おうちでファミリープログラム」を HP で掲載し SNS でも告知を行ったところ，「おうちでファミリープログラム」については大学のオンライン授業において，2 名の講師により合計 5 つの授業で活用され，学生からのフィードバックを得た。

そのほか，東京都中学美術教育研究会との研修会において，研究員がファシリテーターとなりオンラインで所蔵作品の鑑賞を行った。初の試みとなったオンラインの活用については，知見を共有し，今後の可能性について意見交換を行った。

（オ）国立国際美術館

対面での事業の代替として，研究員による所蔵作品の解説や作家のインタビューなどを動画で配信したほか，オンラインアクティヴィティ「アクティヴィティ・パレット」を公開し，作家などによるアクティヴィティのアイデアを共有することで，外出のできない人々が自宅で美術に触れる機会を提供した。

また，企画展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」では，自宅でワークショップキットに取り組んだ後に展覧会を親子で鑑賞するリモートプログラム「おうちと美術館で楽しむびじゅつあーすぺしゃる　～《ひまわり》調査隊～」を開催し，多くの参加者を獲得した。

そのほか，0 歳から参加できる乳幼児とその保護者対象作品鑑賞プログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー　～絵本もいっしょに～」や，小中学生対象作品鑑賞プログラム「こどもびじゅつあー」については，感染症予防を徹底し，対面で開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により，美術館の活動が制約を受ける中で，様々な年齢を対象とする多様な教育普及事業を展開できたことは成果といえる。

（カ）国立新美術館

対面での事業の代替として，自宅で制作体験ができる「マイ・こいのぼりなう！2020」の制作キットの配信を行ったほか，無料のウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」の広報活動を強化した。

また，企画展「古典×現代 2020―時空を超える日本のアート」の関連企画として，出品作家によるトークイベントの動画を配信したほか，小中学生を対象としたワークショップをオンラインで開催するなど，企画展に関連したオンラインコンテンツも充実させた。

そのほか，毎年恒例の建築ツアーは，「国立新美術館　建築ツアー2020“新しい様式”編 CONIC スペシャルコース」と題し，感染症対策を徹底し，実体験とオンラインの交流を取り混ぜた内容で開催し，参加者から好評を得た。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア　ボランティアによる教育普及事業

館　　名		ボランティア登録者数	ボランティア参加者数(延べ人数)	教育普及事業参加者数
東京国立近代美術館	本館	38	67	270
	国立工芸館	28	0	0
京都国立近代美術館		33	－	－
国立西洋美術館		60	80	0
国立国際美術館		10	0	0
国立新美術館		25	24	127
計		**194**	**171**	**397**

各館の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

新型コロナウイルス感染症対対策のため，ボランティアガイドスタッフによる所蔵品ガイドを中止し，代替としてオンラインによる対話鑑賞プログラムを開催した。また，ガイドスタッフによる所蔵作品の紹介動画をオンラインで公開した。

（国立工芸館）

石川県金沢市への移転開館に伴い，ボランティアガイド活用のあり方について検討し，令和 3 年度よりオンライン配信など，コロナ禍でも実現可能かつ需要が高まりつつあるプログラムの実施に向けて準備を進めた。

（イ）京都国立近代美術館

新型コロナウイルス感染症対策のため，ボランティアによるアンケート調査回収，集計作業が中止となった。

（ウ）国立西洋美術館

新型コロナウイルス感染症対対策のため，ボランティアによる教育普及事業は中止となったが，ボランティア・スタッフを対象にアンケートを実施したほか，オンラインでのボランティア同士の意見交換の場を設けるなど，イベントの再開に向けた準備を進めた。

（エ）国立国際美術館

新型コロナウイルス感染症対対策のため，ボランティアによる教育普及事業は中止となった。

（オ）国立新美術館

ボランティアであるサポート・スタッフに，建築ツアー等のイベントの運営補助のほか，企画展「MANGA 都市 TOKYO　ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020」の大型都市模型の展示・撤収作業に参加していただき，経験の蓄積，知識の向上等を支援した。

イ　支援団体等の育成と相互協力による事業

（ア）東京国立近代美術館

・（株）三越伊勢丹と中元・歳暮を中心としたギフト連携を開始し，所蔵作品画像をパッケージ等に使用したコラボレーション商品を企画販売した。

（イ）京都国立近代美術館

・京都市及びアンスティチュ・フランセとの共催により「ニュイ・ブランシュ KYOTO 2020」を開催し，ル・フレノワ国立現代アートスタジオのキュレーターがセレクトした，気鋭のアーティストによる短篇映像作品を上映した。（1 件 2 回，参加人数 105 人）

・THE COMPE きものと帯実行委員会との共催により，実行委員会と事業連携を行っている大学の在籍者に向けた森口邦彦氏による特別講演会を実施した。（1 件 2 回，参加人数 65 人）

（ウ）国立西洋美術館

・上野文化の杜新構想実行委員会，アーツカウンシル東京主催による社会包摂をテーマとしたオンラインイベント「UENOYES2020」のトーク配信に参加した（1 件 1 回，参加人数 147 人，アーカイブ配信利用 120 人）

・東京･春･音楽祭実行委員会主催による「東京・春・音楽祭 2021」のコンサートにおいて，松方コレクションに関するミニレクチャーを実施した（2 件 2 回，参加人数 132 人）。

（エ）国立新美術館

・企業協賛金を活用して，以下の教育普及事業を実施した。

—JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトにより，海外の日本美術研究拠点（4 箇所）に国内で開催された展覧会図録を寄贈した（鹿島建物総合管理株式会社，三井不動産株式会社，東レ株式会社，住友化学株式会社）。

—ワークショップや建築ツアー等のプログラム，鑑賞ガイドブックの作成及び建築ガイドアプリの制作を行った（株式会社日本設計，キヤノン株式会社）。

—託児サービスを提供した（11 回）（三菱商事株式会社）。

・株式会社日本設計の協力により，ワークショップ「国立新美術館のヒミツ—地震から人と作品を守る工夫を知ろう！」（2 回，参加人数 55 人）と「建築ツアー2020　“新しい様式”編　CONIC スペシャルコース」（1 回，参加人数 64 人）の実施及びスタッフの研修を行った。

（オ）その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 99 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2020」及び関西の美術館・博物館等 96 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2020」に参加し，所蔵作品展観覧料の無料化又は割引や，企画展観覧料の割引などを実施し，全体の利用者は延べ 5,830 人であった。

（5）調査研究の実施と成果の反映・発信

① 調査研究一覧

各館において，下記のとおり調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。

館　　名		調査研究件数
東京国立近代美術館	本館	21
	国立工芸館	13
京都国立近代美術館		13
国立映画アーカイブ		21
国立西洋美術館		7
国立国際美術館		15
国立新美術館		27
計		**117**

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・鈴木勝雄（主任研究員）が令和元年度に担当した企画展「高畑勲展－日本のアニメーションに遺したもの」が，美術館におけるアニメーション展示の結節点となる展覧会でありアニメーション研究において重要な意義を持つとの評価を受け，「日本アニメーション学会賞」の特別賞を受賞した。

（国立工芸館）

・中尾優衣（主任研究員）が令和元年度に担当した企画展「竹工芸名品展：ニューヨークのアビー・コレクション－メトロポリタン美術館所蔵」の企画と構成が評価され，2020 年美連協大賞「特別賞」（美術館表彰）に選ばれた。

イ　京都国立近代美術館

・柳原正樹（館長）が，富山県立近代美術館（現：富山県美術館）の開設当初から 40 年余りにわたり，優れた展覧会の企画等を通じて県美術界の発展に大きく寄与したこと，また京都国立近代美術館長，独立行政法人国立美術館理事長を歴任し，日本の美術振興の中核を担ってきたことを評価され，令和 2 年度北日本新聞文化賞を受賞した。

・牧口千夏（主任研究員）が，令和元年度に担当した展覧会「ドレス・コード？――着る人たちのゲーム」の，ファッションと社会の関係を，現代美術作品を織り交ぜながら問いかけた斬新な企画と構成が評価され，第 15 回西洋美術振興財団賞・学術賞を受賞した。

・大長智広（研究員）が令和 2 年度に担当した企画展「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし」の図録が，製版・印刷・加工技術及びデザインを高く評価され，第 62 回全国カタログ展で審査員特別賞（左合ひとみ賞）及び金賞を受賞した。

・本橋仁（特定研究員）が令和元年度に担当した企画展「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」の図録が，展覧会の世界観をうまく図録に反映したデザイン企画と写真製版・印刷技術のクオリティを高く評価され，第 62 回全国カタログ展で経済産業大臣賞及び金賞を受賞した。

ウ　国立西洋美術館

・陳岡めぐみ（主任研究員）と川口雅子（主任研究員）が，令和元年の企画展「松方コレクション展」の企画，構成及びその基礎となった『松方コレクション　西洋美術全作品』全二巻の調査研究を評価され，第 15 回西洋美術振興財団賞・学術賞を受賞した。

②　調査研究成果の発信

ア　館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において，下記のとおり展覧会図録，研究紀要，館ニュース等を刊行し，研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 7～9 を参照。

館　　名		展覧会図録		研究紀要	館ニュース	ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ・ｶﾞｲﾄﾞ等	その他
		実績	目標				
東京国立近代美術館	本館	3 冊	5 冊程度	1	1	4	2
	国立工芸館	2 冊	4 冊程度			0	0
京都国立近代美術館		5 冊	6 冊程度	0	5	5	2
国立映画アーカイブ		1 冊	1 冊程度	0	3	13	2
国立西洋美術館		1 冊	4 冊程度	1	1	1	2
国立国際美術館		3 冊	4 冊程度	0	4	5	2
国立新美術館		3 冊	6 冊程度	0	―	2	1
計		**18 冊**	**30 冊程度**	**2**	**14**	**30**	**11**

【注】「パンフレット・ガイド等」には，小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ　館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

各館において，下記のとおり学会，学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10 を参照。

館　　名		学会等発表件数	論文等発表件数			
			学術書籍，研究報告書等の発行	学術誌論文掲載【査読有り】	学術誌論文掲載【査読無し】	その他
東京国立近代美術館	本館	19	6	1	11	19
	国立工芸館	6	1	0	6	19
京都国立近代美術館		8	6	1	5	17
国立映画アーカイブ		13	3	0	2	11
国立西洋美術館		4	1	2	5	15
国立国際美術館		1	1	0	2	14
国立新美術館		5	1	1	1	4
計		**56**	**19**	**5**	**32**	**99**

ウ　インターネットによる調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館

・『研究紀要』及び美術館ニュース『現代の眼』の収録論文を，ホームページ上及びインターネット上の東京国立近代美術館リポジトリを通じて公開した。

（イ）国立映画アーカイブ

・「NFAJ デジタル展示室」において，「澤村四郎五郎コレクション」第 2 回を公開した。

・「ピクチャレスク・ジャパン――世界が見た明治の日本――」の調査研究成果として、上映作品解説資料と講演採録をホームページ上で公開した。

（ウ）国立西洋美術館
・『研究紀要』の収録論文をインターネット上の国立西洋美術館出版物リポジトリを通じて公開した。

（エ）国立国際美術館
・『国立国際美術館ニュース』の収録論文をホームページ上で公開した。

（オ）国立新美術館
・『令和元年度活動報告』をホームページ上で公開した。

エ　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

館　　名		開催回数
東京国立近代美術館	本館	0
	国立工芸館	4
京都国立近代美術館		0
国立映画アーカイブ		0
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		1
計		**5**

※詳細については別表 11 を参照。

（6）快適な観覧環境の提供

館　　名		観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率
東京国立近代美術館	本館	85.0%
	国立工芸館	72.7%
京都国立近代美術館		48.0%
国立映画アーカイブ		86.3%
国立西洋美術館		―
国立国際美術館		75.0%
国立新美術館		84.6%

①　高齢者，障害者，外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数：60 件（施設ごとにカウント。以下，多言語化に向けた取組には下線を付する。）

〈令和 2 年度の新規実施事項〉
・オンラインによる日時指定チケットの販売【東京国立近代美術館，国立国際美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
・所蔵作品展において，「デジタル版こどもセルフガイド」を公開【東京国立近代美術館（本館）】
・特別展におけるスマートフォンアプリによる 4 ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供【東京国立近代美術館（国立工芸館）】

・館内リニューアルに伴うピクトグラム、デジタルサイネージの導入【国立映画アーカイブ】
・上映企画における前売指定席券の導入・販売【国立映画アーカイブ】
・「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」の英語版、中国語版、韓国語版の配信を開始【国立新美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉
・多言語による館案内表示
・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
・英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）
・所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）
・所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
・多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレータ），スロープ（手摺り）の設置
・車椅子の貸出，ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
・身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
・自動体外式除細動器（AED）の設置
・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）対応の設備を設置
・無料Wi-Fiの提供
・インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置

〈各館ごとの継続実施事項〉
・国立美術館６館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】
・電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立新美術館】
・クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（本館），国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
・クレジットカードによる観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（国立工芸館），京都国立近代美術館】
・QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館（本館），国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
・多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館，京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館（本館），国立映画アーカイブ，国立西洋美術館】
・多言語による所蔵作品展チケットのオンライン販売を実施（Tiqets）【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立国際美術館】
・地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館（本館），国立西洋美術館】
・授乳室の設置【東京国立近代美術館（国立工芸館），京都国立近代美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
・QR コード読み取り式の電子アンケート（日本語・英語）を導入【東京国立近代美術館（本館），国立新美術館】
・館内サインの拡大，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展・企画展における小中学生向けこども

セルフガイドの配布,自主企画展における無料音声ガイドアプリの提供，所蔵作品展におけるスマートフォンアプリによる 4 ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国 語）の章解説・作品解説の提供【東京国立近代美術館（本館）】

・美術館ニュース『視る』の配布，免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置【京都国立近代美術館】

・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布，所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を実施（視覚障害者向け音声ガイドの使用，聴覚障害者向け字幕投影及び磁気ループシステム使用），バリアフリー上映後に聴覚障害者向けの手話通訳及び UDTalk（音声認識システムを使用してトーク内容をリアルタイムで文字化し投影する）を用いたバリアフリーのトークを実施，所蔵作品上映における字幕投影による 3 ヶ国語（英語・韓国語・中国語）字幕付き上映を実施，長瀬記念ホール OZU での企画上映について，前売券の販売【国立映画アーカイブ】

・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布，館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載，「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布，グーグル「Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施，企画展におけるスマートフォンアプリによる 3 ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説の提供【国立西洋美術館】

・安全仕様のキッズルーム（地下 1 階）の設置，同所における幼児向け絵本常設【国立国際美術館】

・点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，託児サービスの実施，文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布，企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子ども向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載，地域の学校を対象として休館日の展示室を無料で開放する「かようびじゅつかん」を実施，外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を導入，講演会・シンポジウム等における手話通訳の導入，利用者がスマートフォン等の端末で視聴できるウェブアプリ「国立新美術館建築ガイドアプリ CONIC」を配信【国立新美術館】

② 入場料金，開館時間等の弾力化

〈令和 2 年度の新規実施事項〉

・8 月 1 日から 8 月 30 日の期間に，美術品補償制度活用の国民への利益還元策として「ピーター・ドイグ展」の高校生・大学生の観覧料を無料とし，大学生については同期間の所蔵作品展も観覧料を無料とした。【東京国立近代美術館（本館）】

〈各館共通の継続実施事項〉

・所蔵作品展，自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び 18 歳未満の観覧料を無料化

・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（毎週金曜・土曜日 20 時まで）を実施

〈各館ごとの継続実施事項〉

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し，毎週土曜，日曜に優待券を提示した高校生以下の子どもを連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施

・東京メトロ，都営地下鉄ワンデーパスによる所蔵作品展の観覧料割引を実施

・JAF 会員券の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施（企画展も展覧会により割引実施。）
・企画展（「ピーター・ドイグ展」，「眠り展」，「あやしい絵展」）において，各種観覧料割引を実施
・所蔵作品展については引き続き「5 時から割引」（夜間割引）を実施
・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
・アートフェア東京 2021 特別協力美術館として，令和 3 年 3 月 27 日～28 日の期間について，所蔵作品展観覧料を無料化又は割引を実施

（国立工芸館）
・通訳案内士の所蔵作品展・企画展（展覧会による）の無料観覧
・企画展「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅰ　工の芸術―素材・わざ・風土」及び「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ　うちにこんなのあったら展　気になるデザイン×工芸コレクション」において各種観覧料の割引を実施。

イ　京都国立近代美術館
・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
・「関西文化の日」（11 月 14 日，15 日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
・京都国立博物館，京都市美術館，京都文化博物館と組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において，各館の友の会と相互割引を実施
・奈良国立博物館，国立民族学博物館及び MIHO MUSEUM の友の会と相互割引を実施
・近隣の京都市美術館，細見美術館と連携し，相互割引を実施
・京都伝統産業ミュージアムと相互割引を実施
・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施
・朝日新聞グループ 朝日友の会，京都新聞トマト倶楽部，阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
・上記割引のほか，企画展（「チェコ・デザイン　100 年の旅」，「日本・ポーランド国交樹立 100 周年記念　ポーランドの映画ポスター」「京（みやこ）のくらし――二十四節気を愉しむ」，「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」，「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」）において，各種観覧料割引を実施
・第 2 回所蔵作品展及び「京（みやこ）のくらし――二十四節気を愉しむ」において，金曜日の 17 時以降の入館者に対して，夜間割引を実施
・第 3 回所蔵作品展及び「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」において，金，土曜日の 17 時以降の入館者に対して，夜間割引を実施。
・企画展「チェコ・デザイン　100 年の旅」において，6 月 27 日，28 日，7 月 4 日，5 日の開館時間を 18 時まで延長。
・企画展「京（みやこ）のくらし――二十四節気を愉しむ」において毎週金曜及び 8 月 16 日を除く日の開館時間を 18 時まで延長。
・企画展「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」において、3 月 6 日、7 日の開館時間を 18 時まで延長。

ウ　国立映画アーカイブ
・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し，毎週土曜，日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に展覧会観覧料割引を実施
・上映会において原則平日 19 時からの夜間上映を実施

エ　国立西洋美術館

・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し，毎月第三土曜・日曜日に優待券の提示による所蔵作品展の観覧料を無料化

・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施

・「東京・ミュージアムぐるっとパス」に参画し，所蔵作品展の観覧料割引を実施

・6 月 18 日から 10 月 18 日までの金曜・土曜，10 月 13 日から 10 月 15 日について開館時間を 21 時まで延長

・以下のとおり臨時開館を実施

―夏季休暇期間（7 月 13 日，7 月 27 日）

―お盆期間（8 月 10 日）

―シルバーウィーク（9 月 21 日）

オ　国立国際美術館

・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施

・原則毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化(コレクション１、コレクション２会期中は中止)

・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施

・京都国立博物館，奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施

・近隣の大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪大学適塾記念センターと連携し，相互割引を実施

・朝日新聞グループ 朝日友の会，大阪市高速電気軌道株式会社，大阪大学カード，OSAKA メセナカード，京阪カード，阪急阪神カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施

・近隣ホテルとの連携を強化し，ホテル利用者に入場割引券を配布し，展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また，提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供

・企画展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」会期中において，会場内の混雑緩和を図るため以下臨時開館及び開館時間延長を実施。

―毎週日曜日から木曜日までの開館時間を 9 時半から 17 時半に延長。

―11 月 9 日、12 月 7 日、12 月 21 日、12 月 28 日、12 月 29 日、1 月 3 日、1 月 4 日、1 月 11 日及び 1 月 25 日を臨時開館

カ　国立新美術館

・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布

・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施したほか，企画展において、各種観覧料割引を実施

③　キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として実施している，大学，短期大学，高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については，令和 2 年度は 7 校の新規加盟と 1 校の退会があり，前年度比 6 校の増加となり，合計 102 校が入会したことで，制度発足以来最多の会員数となった。

また，(株)マイナビ，明治大学商学部福田ゼミ（マーケティング専攻）と協同したキャンパスメンバーズ制度のプロモーションプランに関する産官学連携プロジェクトを実施した。プロモーションのターゲットでもある学生自身に広報プランを策定してもらうことを目的としたもので，ゼミ生にはキャンパスメンバーズ制度を知らない学生に，制度に興味を持ってもらったり，実際に来館してもらったりするための広報プランを企画するという課題に取り組んでもらった。

プロジェクトの成果として提案された広報プランのうち「美術館 de 大喜利」企画については，新たな美術館の楽しみ方を提案したとして，実際にマイナビ「学生の窓口」に記事広告として出稿したところ多くの方に視聴いただき，プロモーションとしても成果を挙げた。

そのほか，会員校の学生や教職員に，国立美術館の所蔵作品を認知してもらうきっかけとなるよう，合同企画展「眠り展」について，特例的に全会員区分の観覧料を無料にしたところ，約 3,400 人の学生の利用があったことは特筆される。

④　ミュージアムショップ，レストラン等の充実

ミュージアムショップについては，企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め，ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては，企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。令和 2 年度の各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

・エレベータ内にグッズを紹介する掲示を貼出したほか，「美術館の春まつり」期間にエントランスに特設ショップを出店し，花にちなんだ作品をモチーフとした商品を販売したりするなど，ミュージアムショップの販売促進に努めた。また，合同企画展「眠り展」においては，各館から出品作品の絵はがきを取り寄せ販売し，特に国立西洋美術館の出品作品については 1,000 枚近く売上げるなど，来館者に好評だった。

（国立工芸館）

・ミュージアムショップにおいて，国立工芸館開館に合わせ，北陸地方の伝統的工芸の手法を取り入れたオリジナルグッズ（エコバック・一筆箋）を開発し，来館者の興味関心に応えた。また，所蔵品作家をはじめとする国立工芸館ゆかりの作家の小品や，日本各地の工芸の伝統を基盤とするデザインアイテムを幅広い価格帯で揃え，来館者が買い物を楽しみながら日本のものづくりの魅力に触れる場の構築を目指したところ，多数の利用や喜びの声が届いて好評だった。さらに開館記念展に合わせ，オリジナルポストカードを開発・販売することで，作家と所蔵作品の知名度を高めることに貢献した。

イ　京都国立近代美術館

・ミュージアムショップにおいて，全ての企画展の，内容に合わせた関連書籍及びグッズのコーナーを設け，幅広い層の来館者のニーズに応えた。企画展「人間国宝　森口邦彦展」においては，出品作家の森口邦彦氏に監修いただき，ポストカード等のグッズを制作したところ来館者に好評だった。企画展「分離派建築会 100 年展」では，京都会場限定グッズとして京都の老舗和菓子店『塩芳軒』とコラボした出展作品のレリーフを再現させた和三盆を製作したところ，話題を集めて企画展の集客にもつながった。また，文化庁委託事業「CONNECT⇄　」では，岡崎公園 7 施設プログラム「岡崎公園でミュージアムショップめぐり」へ参加し，NPO 法人「Salut（サリュ）」の協力のもとオリジナル商品を販売した。

・レストランにおいて，京都観光を楽しんでいただくメニューとして抹茶体験を実施し，日本茶メニューのラインナップを充実させた。特に，秋の行楽シーズンには，和菓子と緑茶セットも販売し，観光客のニーズをとらえ好評を得た。

ウ　国立映画アーカイブ

・1 階エントランスホールの総合受付に併設したミュージアムショップを開設し、刊行物等の販売を実施した。

エ　国立西洋美術館

・ミュージアムショップにおいて，小企画展「内藤コレクション展Ⅱ「中世からルネサンスの写本　祈りと絵」」「内藤コレクション展Ⅲ「写本彩飾の精華　天に捧ぐ歌，神の理」」にちなみ，内藤コレクションの彩色写本リーフをモチーフとしたブローチ等の新商品を開発・販売した。また，オンラインショップを開設し，これまで図録等，数十点を現金書留で販売していたところを，グッズを含め約 200 点まで取り扱いを広げ，クレジットカード決裁等を導入したことで，利用者の利便性を向上させた。

オ　国立国際美術館

・ミュージアムショップにおいて，展覧会に合わせ，関連グッズ及び関連書籍の特設コーナーを設置し，来館者の知的関心や需要に応えた。また共催展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」では関連グッズの種類を増やし，来館者のニーズをとらえて運営を行った。

カ　国立新美術館

・教育普及室とミュージアムショップの連携によりアーティストの個展を開催し，ミュージアムショップにおいて，作品の販売を行った。また，「佐藤可士和展」に関連したオリジナルグッズを開発し，販売を行った。

・レストランにおいては，オリンピックイヤーに向けて，"Taste Nippon"と題し，ニッポンの名物にインスパイアされた料理を開発し，提供を行った。

2　我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

（1）作品の収集

館　　名		購入点数	購入金額（円）	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館	本館	31	919,000,437	47	13,549	242
	国立工芸館	24	145,656,500	21	3,991	90
京都国立近代美術館		69	1,363,985,800	61	12,876	1,005
国立西洋美術館		182	334,187,520	26	6,388	250
国立国際美術館		66	758,905,974	9	8,069	110
計		**372**	**3,521,736,231**	**164**	**44,873**	**1,697**

館　　名		令和２度の収集方針
東京国立近代美術館	本館	・1970 年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900－1940 年代の日本画作品の収集
	国立工芸館	・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現，クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集
京都国立近代美術館		・近・現代美術史の将来的検証に資する作品・資料の収集 ・絵画，彫刻，版画，素描類，工芸（陶芸・漆芸・金工・染織など）・デザイン，写真など，芸術の動向に係る作品・資料をジャンルの区別なく収集するだけなく，複数のジャンルを横断する作品も積極的に収集 ・日本の作品については，全国の動向に目配りしつつも，京都を基盤とし，関西さらには西日本での芸術活動に重点を置いた所蔵作品の充実 ・国外の作品については，日本の芸術と世界の関係に鑑み，日本へ／からの影響関係が認められる作品の収集に重点を置いた所蔵作品の充実。特にダダイスムのような，芸術におけるパラダイムシフトに大きな役割を果たした動向の作品に注目
国立西洋美術館		・15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集 ・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実 ・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集
国立国際美術館		・1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

〈購入〉

ピエール・ボナール《プロヴァンス風景》（1932 年）を購入した。ボナール後期の作品は 20 世紀後半の抽象絵画に与えた影響が注目されており，所蔵作品とさまざまに組み合わせることで，同時代の風景表現との比較，戦後抽象絵画における色彩表現への影響など，近現代絵画の展開を比較考察する展示が可能となった。また，鏑木清方，椿貞雄，野口弥太郎など近代を代表する画家たちの重要作品を購入し，所蔵作品展でそれぞれの作家について厚みをもった紹介が可能になったほか，現代の作家として舟越桂や木下晋など，重要でありながらこれまでコレクションとして欠けていた作家の作品を補い，また千葉正也，村上早，加藤翼ら若手の

作品も積極的に購入し，多様化する現代の表現をより多面的に紹介することが可能となった。なお，舟越桂と千葉正也の作品については，早くも他館で開催される回顧展に貸与を実施し，収集の成果を広く全国の美術館に還元する成果を挙げた。

〈寄贈〉

小茂田青樹の《写生画巻》2 点（1911 年頃，1929-30 年頃），小牧源太郎・吉加江清・原田潤・小石原勉による共同制作《鴨川風土記序説》（1942 年）を受贈した。前者は戦前の日本画における細密描写の傾向を知る上で貴重であり，また後者は戦前における珍しい共同制作の作例として，それぞれ所蔵作品展での活用が可能となった。また，脇田和の数少ない戦前の作例《画室の子供》（1943 年）や難波田龍起の高村光太郎との関係を示す《スケッチブック》（1953 年）など，すでに収蔵している作家の新たな一面を示す作品を受贈し，各作家をより多面的に紹介することが可能となった。そのほか，写真では戦後を代表する写真家のひとり奈良原一高の初期の仕事《Tokyo the 50s》（1950 年代）及び代表作《ヨーロッパ・静止した時間》（1963 年）の連作を一括して受贈したことで，作家の活動を体系的に紹介することが可能となった。

（国立工芸館）

〈購入〉

明治期の輸出工芸の典型を示す作品として，初代山川孝次の《金銀象嵌環付花瓶》（1877 年頃）を購入した。金属本来の色を引き出し象嵌技法で装飾が施された本作は，中国由来の紋様がちりばめられ，明治の輸出工芸の在り方を示している。政府による図案指導の原本となる『温知図録』との関係も明確になっており，資料的価値も高い貴重な作例である。これにより，近代日本の工芸の出発点を明確に展示で示すことができるようになった。また，近代陶芸を代表する作家・加藤唐九郎の《鼠志野茶盌　銘 鬼ガ島》（1969 年）を購入した。本作は加藤唐九郎の代表作で，赤土に志野釉を掛けた鼠志野の技法の一種が用いられている。加藤唐九郎は桃山時代等の古い陶器に規範を求めて作陶し，近代作家としての自己の表現を確立していった作家として，荒川豊蔵や金重陶陽らとともにその後の陶芸家に影響を与えた一人であったが，いまだ十分な評価がなされていない。これまで人目に触れる機会が限られていた本作を購入し，国民の鑑賞機会を確保するとともに，作家の研究を進めることが可能となった。

〈寄贈〉

重要無形文化財「志野」の保持者に認定された荒川豊蔵の《志野茶垸　銘 不動》（1953 年頃）や十三代今泉今右衛門(善詔)による《色鍋島草花更紗文八角額皿》（20 世紀）を含む陶磁器 7 点の寄贈を受け入れた。前者は，生涯で多数の志野茶碗を手掛けた荒川豊蔵の作品のなかでも，半筒形をした珍しいタイプであり，既に収蔵している荒川豊蔵の作品と組み合わせて，作家の活動をより多面的に紹介することが可能となった。また，ガラスの分野では，内田邦太郎《赤彩オブジェ足付キャンドルスタンド》（1995 年）や高橋禎彦《蜜のような》（1998 年）など 9 点を受贈した。後者は，表現素材としてのガラスに期待が寄せられた 1980 年代後半の傾向を映し出したものであり，工芸の近現代史を展観する展示に活用することが可能となった。そのほか，漆工でも初代村瀬治兵衛の作品を筆頭に初めての受入れとなる作家が多く含まれており，コレクションの充実につながった。

イ　京都国立近代美術館

〈購入〉

29 件の岸田劉生作品を購入した。本作品群は岸田劉生の活動を支援し作品を収集していた森村義行・松方三郎兄弟の旧蔵品であり，代表作である《外套着たる自画像》（1912 年）や《麗子裸像》（1920 年），《舞妓図（舞妓里代之像）》（1926 年）が含まれるだけではなく，初期から晩年の作風を網羅している点でも希有な作品群である。同時に寄贈された 13 点の作品及び既存の所蔵作品を加えて岸田劉生作品の収蔵点数は約 50 点となり，東京国立近代美術館に次ぐ規模の劉生コレクションとなった。近代日本洋画の重要作家の核となる作品群を所

蔵することは国立美術館の収集活動における大きな成果であり，研究への活用のみならず，今後作家の重要な回顧展などに活用することも可能となった。また，令和元年度の展覧会を開催したイタリアの現代陶芸家ニーノ・カルーソの代表作 2 点を購入したほか，染織家皆川月華の第 14 回帝展出品作《染彩繍樹下誕生屏風》（1933 年）や，漆芸家迎田秋悦の作品など，日本の近代工芸を検証するために必要な作品も幅広く収集して所蔵作品全体を充実させた。

〈寄贈〉

上記の岸田劉生作品群の購入にあわせ，同所蔵者から《麗子提灯を喜ぶ之図》（制作年不詳）をはじめとする 13 点の劉生作品の寄贈を受けた。令和 2 年度購入作品，寄贈作品及び既存の収蔵作品を合わせることで，所蔵作品だけで岸田劉生の画業をたどる大規模な展示が可能となった。また，日本画については，富岡鉄斎の 5 作品や下村観山《十牛之図》（1909 年），橋本関雪《月下帰牧図》（1938 年頃），西川一草亭《赤松と椿》（1920 年）など多彩な作品の寄贈を受けることができた。そのほか，油彩画では，花を主題とした須田国太郎の代表作《夏の花》（1954 年）の寄贈を受け，令和 2 年度の小企画「キュレトリアル・スタディズ 14：須田国太郎」で公開した。さらに工芸については，京都縁の作家である陶芸家の近藤豊や宮下善爾，金工家の加藤忠雄，漆芸家の伊藤裕司らから代表的作品の寄贈を受け，コレクションを充実させた。

ウ　国立西洋美術館

〈購入〉

17 世紀イタリアのジェノヴァ派を代表し，ヴェネツィアでも活躍したベルナルド・ストロッツィの《聖家族と洗礼者聖ヨハネ》（制作年不詳）を購入した。この購入により，17 世紀ジェノヴァ派・ヴェネツィア派の絵画作品に乏しい国立西洋美術館のオールドマスター・コレクションを補完することができた。常設展示においては，ストロッツィに影響を及ぼしたルーベンス，カラヴァジェスキ（カラヴァッジョの追随者たち），ヴェネツィア派，あるいは続く世代のジェノヴァの画家であるマニャスコ等と関連づけた展示が可能となった。また，ヴィクトリア朝イギリスを代表する画家ジョン・エヴァレット・ミレイの《狼の巣穴》（1863 年）を購入した。本作は画家の重要作であり，すでに国立西洋美術館が所蔵する空想的性格の強い《あひるの子》（1889 年）とは異なったリアリスムの要素が強い風俗画的な作品であるため，展示や研究において幅広く活用することができる。本作は松方コレクションに含まれていた作品であり，松方コレクションの紹介や研究にも寄与する収蔵となった。

〈寄贈〉

15－16世紀の写本紙葉14点の寄贈を受けた。2015年度の写本作品の一括寄贈に続くものであり，いずれも鮮やかな色彩や巧みな装飾模様といった写本挿絵の特徴を見せている。写本のまとまったコレクションを有するのは国内においては国立西洋美術館のみであり，その収蔵の成果として令和元年度から令和2年度にかけて3回に分けて行った写本の小企画展を開催し，大きな反響を得た。今回の寄贈により，国立西洋美術館の写本コレクションがより一層充実し，わが国の写本芸術の展示及び研究の拠点となることは大きな成果といえる。また，エミール＝アントワーヌ・ブールデル《友愛の鳩たち》（制作年不詳）をはじめとした，松方幸次郎旧蔵のブールデルの水彩3点を受贈した。このうち2点は新出作品で，いずれも現在ブールデル美術館に関連素描が残されており，今後の詳しい調査によってブールデル研究に寄与することが期待される。

エ　国立国際美術館

〈購入〉

第二次世界大戦以降の重要な芸術家のひとりであるヨーゼフ・ボイスの《小さな発電所》（1984 年）を購入した。既に所蔵している同作家の小品と組み合わせることで，所蔵作品などにおいて様々なテーマ設定による展示が可能となった。また，令和 2 年度に個展を開催したヤン・ヴォーの彫刻《無題》（2019-2020 年）を購入したほか，令和元年度に開催した「抽

象世界」展に出品した作家であるスターリング・ルビーの近作絵画《BC（4964）》（2014 年）を購入した。ヤン・ヴォーとスターリング・ルビーは，国際的に注目されている作家であり，これらの作品を購入し展示することは，現代美術を紹介する上で意義深い収蔵となった。

〈寄贈〉

野見山暁治の洋画《太古のはなし》（2011 年）を受贈した。野見山暁治の作品はすでに数点を所蔵しているが，近年の作品は未収蔵であり，本受贈によってコレクションを補完することができた。また，野村仁の写真《A Spin in Curved Air （曲がった大気中の自転）より 1981.6.8[34°51′]》（1981 年）を受贈した。本作は既に所蔵する野村仁の同一シリーズであり，国立国際美術館で既に収蔵している同シリーズ作品に追加して展示することによって，これまでにない新しい展示の方式が可能となった。

（２）所蔵作品の保管・管理

①　収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア　東京国立近代美術館

（本館）

収納率：約160%

従来どおり，館外の倉庫2か所に作品の一部を預け，作品貸与と所蔵作品展示により作品を収蔵庫外に出すことで収蔵スペースを確保している。

（国立工芸館）

収納率：約 70%

これまで収納率が限界を上回っていた北の丸公園の東京分室（旧東京国立近代美術館工芸館）収蔵庫から，石川県の国立工芸館収蔵庫へと作品を移動させたことにより，収納率が大きく改善した。また，国立工芸館では，収蔵庫面積が 170 ㎡ほど拡張できたこととあわせて，棚の収納面積を可能な限り最大となるように設計したことによりスペースを確保した。空調装置なども新しくなったため，これまで懸案となっていた染織収蔵庫の空気環境も大きく改善した。

イ　京都国立近代美術館

収納率：約 190%

収蔵品の運用を妨げる可能性がある大型作品や，展示・貸与の機会が比較的低い作品については館外の民間倉庫を活用し保管している。また，館内収蔵庫内での収蔵方法を適宜見直し，保存環境の改善と維持に努めている。

ウ　国立西洋美術館

収納率：約 90%

作品が虫害被害に遭わないよう，トラップを仕掛けて文化財害虫のモニタリングを定期的に行い，現状調査を行った。

エ　国立国際美術館

収納率：約 130%

作品の大きさや重量，活用頻度を考慮して配架場所を変更，調整し取り扱いの安全性を確保しながら可能な限り多くの作品を収納できるよう整理を行った。また，収納棚の棚板を増設して収納スペースの拡充に努めたほか，絵画ラックについても隙間を有効活用するため，作品の安全を考慮しながら配置換えを行い，可能な限り多くの作品を収納するよう努めた。そのほか，過密な収納状態による作品への負担を軽減するため，劣化を抑制する梱包材を活用しながら安全に作品を保管できるよう努めた。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では，令和 3 年 3 月 16 日に消防訓練を実施した。分室では，令和 3 年 2 月 17 日に消防訓練を実施した。

京都国立近代美術館では，令和 2 年 11 月 2 日に消防避難訓練を実施した。

国立映画アーカイブでは，令和 3 年 2 月 16 日に京橋本館の地下 3 階収蔵庫での火災発生を想定した通報訓練及び二酸化炭素消火設備の操作方法についての訓練を実施した。相模原分館においては，令和 2 年 11 月 24 日に火災発生を想定した避難訓練，水消火器及び消火栓による放水訓練を実施した。

国立西洋美術館では，令和 2 年 11 月 10 日に台東区役所にて実施された集合型自衛消防訓練に参加し，模擬消火器を使用した初期消火訓練，応急救護訓練，通報訓練等を実施した。また，

令和 3 年 2 月 8 日から 2 月 22 日までの期間で，東京消防庁の自衛消防訓練動画の閲覧によるオンラインでの消防訓練を実施した。

国立国際美術館では，令和 2 年 6 月 4 日に隣接する大阪市立科学館と合同で地震発生を想定した避難訓練を実施した。また，令和 2 年 9 月 23 日に火災発生を想定した避難訓練を実施し，併せて地震による水害発生を想定した防潮扉・防潮堤の開閉訓練を実施した。そのほか，令和 2 年 9 月 28 日～29 日，令和 3 年 3 月 29 日～30 日に収蔵庫の消防用設備等の点検を行った。

国立新美術館では，令和 2 年 10 月 9 日及び令和 3 年 3 月 22 日に自衛消防訓練を実施した。

（3）所蔵作品の修理・修復

館　　名		修理・修復点数
東京国立近代美術館	本館	21 点（絵画 18 点，素描 1 点，版画 1 点，彫刻 1 点）
	国立工芸館	35 点（デザイン 35 点）
京都国立近代美術館		27 点（絵画 21 点，素描 1 点，彫刻 1 点，工芸 1 点，資料・その他 3 点）
国立西洋美術館		58 点（絵画 17 点，素描 3 点，版画 31 点，彫刻 5 点，書籍 2 点）
国立国際美術館		60 点（絵画 12 点，水彩 3 点，素描 2 点，版画 16 点，彫刻 8 点，写真 8 点，デザイン 11 点）

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

草間彌生《残骸のアキュミレイション（離人カーテンの囚人）》《集積の大地》（ともに 1950 年）は，初期の代表作であるが画面，木枠，額いずれも劣化が認められていた。修復処置により，2021 年 4 月からの海外での回顧展（ベルリン，グロピウスバウ）へ出品可能な状態とした。また，新型コロナウイルスのため展覧会の中止・延期が相次いだが，ドイツで開催予定の上記の草間彌生回顧展（ベルリン，グロピウスバウ）に 5 点を貸し出し，オンラインでの開梱点検立会いなど新しい試みを行った。

（国立工芸館）

戦後日本のグラフィックデザイン史における貴重なポスター作品 20 点について，令和元年度からの 2 ヶ年計画の修復を完了した。裏打ちの変形修正を施すとともに，裏打ちを除去し，亀裂箇所を接着，補彩をし，鑑賞に堪えうる自然な状態にすることで，今後の展示等に活用できる状態とした。また，工業デザインのうちクリストファー・ドレッサーとウィリアム・モリスのテキスタイル計 3 点について，ほつれの補修と補強及び演示具の制作を行い，より安全に展示できる状態とした。そのほか，グラフィックデザインのうち，使用頻度の高い杉浦非水のポスター 12 点について，低反射アクリルへの交換を行った。

イ　京都国立近代美術館

油彩 4 画点を修復し，国立美術館巡回展へ出品した。修復が地方における鑑賞機会の拡大につながったことは成果といえる。また，フェリーツェ・“リチ”・上野＝リックスの画巻 2 点については，修復を完了し令和 3 年度の企画展に出品可能な状態とした。そのほか，山元春挙《空磧帰牛之圖》（1908 年）をはじめとする日本画 17 点についても，所蔵作品展や作家の回顧展での活用を見越して修復を行い，展示に活用可能な状態とした。さらに，彫刻作品である清水九兵衛《Figure》（1986 年）についても修復を完了し，将来の回顧展等へ出品が可能となった

ウ　国立西洋美術館

これまで展示・貸出の希望があったものの，状態の悪さから希望に添えなかった作品 2 点ウジェーヌ・カリエール《自画像》（1895-1900 年頃）（作品と額縁）とジャン＝ポール・ローランス《墓室の中の女》（制作年不詳）（額縁）の保存修復を行い，貸出が可能な状態とした。また，過去 20 年にわたり継続して設置していた屋外彫刻作品 3 点　オーギュスト・ロダン《考える人（拡大作）》（1881-82 年（原型）），オーギュスト・ロダン《カレーの市民》（1884-88 年（原型）），エミール=アントワーヌ・ブールデル《弓をひくヘラクレス》（1909 年（原型））について，屋外彫刻内外及び台座内外の状態調査を行い，来年度に行う保存修復作業計画と移動・再設置時の安全な作業計画を立案した。そのほか，2011 年東日本大震災時に石巻で被災した文化財レスキュー作業を継続して実施した。預かっている紙作品約 660 点，絵画・版画額約 40 点について，来年度に石巻へ返却する予定になっていることから，紙作品の保存修復作業を外部保存修復家が国立西洋美術館内で行い，作業や返却にむけた調整，情報整理への協力を実施した。

エ　国立国際美術館

サイ・トゥオンブリー《版画集『博物誌 1 きのこ』》（1974 年）について，コラージュに用いられているテープの剥離について，再接着を行った。近現代美術に特徴的な素材の修復を確実に実施し，今後同様の作品の修復方針を検討するための知見を蓄積した。また，田中田鶴子《Microcosm VII》（1961 年），山崎つる子《Work》（1961 年）について，絵具層の亀裂の安定化と裏板の取り付けを行った。両作品はこれまで海外等からの貸出依頼を受けながらも輸送時の安全面に不安があり実現していなかったが，今回の処置で展示活用が可能な状態となった。

（4）所蔵作品の貸与

館　　名		貸出		特別観覧	
		件数	点数	件数	点数
東京国立近代美術館	本館	42	141	177	329
	国立工芸館	6	27	23	49
京都国立近代美術館		34	221	79	161
国立西洋美術館		9	37	52	85
国立国際美術館		15	199	26	324
計		**106**	**625**	**357**	**948**

特記事項

ア　東京国立近代美術館

（本館）

渋谷区立松濤美術館で開催された「舟越桂　私の中にある泉」展や，東京オペラシティーギャラリーで開催された「千葉正也展」など，作家の回顧展に，近年新規購入した作品を貸与し，各作家の顕彰に寄与するとともに，国立美術館の近年の収集事業の成果を広く地方美術館に還元する成果を挙げた。

（国立工芸館）

石川県金沢市への移転のため，作品等貸与受付を停止しているが，作家の回顧展など，国立工芸館の所蔵品がなければ展覧会が成り立たない場合などは例外として対応を行った。重要無形文化財の織技法「友禅」保持者の森口邦彦氏の回顧展（京都国立近代美術館）や同「白磁」保持者の前田昭博氏の特集展示（MOA 美術館）への貸出は，展覧会を充実させるために重要なものとなり，各作家の顕彰に寄与した。

イ　京都国立近代美術館

兵庫県立美術館開館 50 周年記念展「超・名品展」や徳島県立近代美術館開館 30 周年記念「ドイツ・20 世紀・アート」展，京都市京セラ美術館リニューアル開館記念展「京都の美術 250 年の夢 総集編」展など，美術館の節目となる重要な展覧会に作品を貸与し，展覧会内容の充実化に寄与した。また，東京国立近代美術館・大阪歴史博物館を巡回する「あやしい絵」展に甲斐庄楠音《横櫛》（1916 年頃）をはじめとする 21 点を貸与した。《横櫛》が展覧会内容を象徴する作品として，ポスターのメインビジュアル等に使用されたことで，展覧会広報に寄与するとともに，作品の認知度の向上にもつながったことは成果といえる。

ウ　国立西洋美術館

国立美術館 6 館共同展「眠り展 : アートと生きること　ゴヤ，ルーベンスから塩田千春まで」に絵画 6 点及び版画 15 点を出品した。ゴヤの版画をはじめ，西洋のオールドマスターは他の国立美術館にはない分野であり，このテーマ展の内容に歴史的な厚みを持たせることに貢献しつつ，国立西洋美術館の所蔵品の独自性を広く示すことができた。また，オルセー美術館（フランス・パリ），ワシントン・ナショナル・ギャラリー（アメリカ）を巡回した展覧会「Degas at the Opera」にエドガー・ドガ《舞台袖の 3 人の踊り子》（1880-85 年頃）を貸与した。舞台芸術というドガの最も重要なテーマの一つを学術的に掘り下げた展覧会に出品し，国際的な所蔵作品の知名度向上に寄与した。

エ　国立国際美術館

東京オペラシティアートギャラリー及び高知県立美術館で開催された「生誕 100 年　石元泰博写真展」へ石元泰博《伝真言院両界曼荼羅》（1973/78 年）118 点を貸与した。展覧会においては本作品のみで 1 セクションを構成するという重要な位置づけがなされており，展覧会の開催に欠かせない重要な貸与となった。また，京都市京セラ美術館の「開館記念展「京都の美術 250 年の夢」第 1 部～第 3 部総集編―江戸から現代へ―」へ中ハシ克シゲ《どんまいアンブレラ》（1992 年）等計 8 点を貸与した。

3　我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（1）国内外の美術館等との連携・協力等

①　国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等

- シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

館　　名		国内外の研究者の招へい等に基づくセミナー・シンポジウムの開催回数
東京国立近代美術館	本館	1
	国立工芸館	0
京都国立近代美術館		4
国立映画アーカイブ		1
国立西洋美術館		0
国立国際美術館		0
国立新美術館		7
計		**13**

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については 20 ページ及び別表 11 を参照。

特記事項

・新型コロナウイルス感染症の影響により，当初予定していたシンポジウムの一部が中止又はオンラインでの開催となった。

・国立美術館から FIAF 年次総会（オンライン開催）に出席した。

②　我が国の作家，美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

新型コロナウイルス感染症の影響により，当初予定していた一部の事業が中止又は令和 3 年度以降に延期となった。

なお，大館現代美術館（香港）で開催された「They Do Not Understand Each Other（言葉が通じない）」（主催：大館現代美術館，国立国際美術館，シンガポール美術館）において，国立国際美術館の植松主任研究員が展覧会企画を担当し，国立国際美術館の所蔵作品を貸与した。

③　全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア　地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は，別表 5 のとおり実施した。

イ　企画展・上映会等の共同主催・共同研究

館　　名		共同主催件数	共同研究件数
東京国立近代美術館	本館	1	1
	国立工芸館	0	0
京都国立近代美術館		5	7
国立映画アーカイブ		10	10
国立西洋美術館		1	1
国立国際美術館		2	2
国立新美術館		2	2
計		**21**	**23**

ウ　国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

国立西洋美術館において，以下の取組を実施した。

・東京藝術大学が主催する「アフガニスタン仏頭の調査と保存修復に関するオンライン研究会」では，研究員が発表を行い，参加者らと情報交換を行った。

・研究員が全国美術館会議保存研究部会の事務幹事に就任し，部会員同士で，保存・修復に関する意見交換を行った。

（2）ナショナルセンターとしての人材育成

①　美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア　教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について，各館から学校へ貸し出しを行うほか，教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど，国立美術館全体として取り組んだ。

イ　美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は，15 年目の節目を迎えるにあたり，記念のシンポジウムを WEB 配信で開催し，325 名が視聴した。本シンポジウムの記録はウェブサイトで公開した。また，シンポジウム当日視聴申込者及びシンポジウム終了後のオンデマンド視聴申込者 391 名に対して，当日の配信内容を 1 週間の期間限定で公開した。

・タイトル：「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」15 周年記念シンポジウム　～美術館と学校　鑑賞教育の今と未来～

・配信日時：令和 3 年 2 月 14 日（日）13:00～17:30　※Zoom ウェビナーを利用

・配信拠点：国立新美術館

・参加対象：教育関係者・美術館関係者・学生・美術館を活用した鑑賞教育に興味をお持ちの方・子どもの鑑賞教育に興味をお持ちの方

・参加者の満足度：94%（目標：96.6%）

京都国立近代美術館では，京都市教育委員会・京都市図画工作教育研究会・京都市中学校美術研究会と連携して，美術館を活用した鑑賞授業の実践力向上に向けたレクチャー動画を作成した。動画は京都国立近代美術館 HP と京都市教育委員会の教員向けポータルサイトで公開し，教員や保護者が活用した。

国立西洋美術館では，学校における美術館利用，連携を推進することを目的として小学校及び中学校の教員を対象としたオンライン研修会を 2 回実施し，計 16 名が参加した。

国立国際美術館では，幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職員を対象に，美術館の活用や鑑賞教育についてのオンライン講演会等を行う，「先生のための鑑賞プログラム」を 2 回実施し，計 108 名が参加した。

②　今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

館　　名		キュレーター研修受入人数	インターンシップ受入人数	博物館実習受入人数
東京国立近代美術館	本館	1	0	－
	国立工芸館	0	0	－
京都国立近代美術館		1	4	－
国立映画アーカイブ		－	1	12
国立西洋美術館		0	5	－
国立国際美術館		1	7	－
国立新美術館		0	6	－
計		**3**	**23**	**12**

（３）国内外の映画関係団体等との連携等

① 映画フィルムの収集については，国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

購入本数	購入金額（円）	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託本数
82	120,939,758	553	83,744	19,322

令和元年度の収集方針
映画を芸術作品のみならず，文化遺産として，あるいは歴史資料として，網羅的に収集することを目標に，日本映画の収集を優先しながら，時代を問わず散逸や劣化，滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお，収集にあたっては，自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし，受贈については，デジタル素材の受入れも視野に入れながら，映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については，日本映画に関わるものを中心に，作品レベルでの網羅性を向上させるとともに，映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて，本年度は特に次の点について留意する。 ア　歴史的に重要な映画作品のデジタル復元を実施する。 イ　フィルム，デジタルともにオリジナルフォーマットを優先した収集を行う。

特記事項

〈購入〉

企画上映に伴う映画フィルム等の購入に関しては，松竹映画の 100 年間の足跡を振り返る上映企画「松竹第一主義 松竹映画の 100 年」に関連して，『風雲金比羅山』（大曾根辰夫監督、1950 年）等 23 作品，30 本のフィルムを購入した。また，戦後の日本映画を代表するスターとして活躍した三船敏郎の生誕 100 年を回顧した上映企画「生誕 100 年映画俳優三船敏郎」に関連して，『黒部の太陽』（熊井啓監督、1968 年）等 6 作品，6 本のフィルムを購入した。さらに 1980 年代の日本映画を回顧する上映企画「1980 年代日本映画―試行と新生」では，『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』（森崎東監督 1985 年）や『ウンタマギルー』（高嶺剛監督、1989 年）等，独立系のプロダクションが 1980 年代に製作した作品を中心に，14 作品，14 本のフィルムと，『風たちの午後』（矢崎仁司監督、1980 年）のデジタル上映用及び保存用素材を購入した。

〈受贈〉

映画フィルムの寄贈受入本数は 553 本，67 件であった。『ライブイン茅ケ崎』（1978 年，8mm）をはじめ森田芳光監督の自主映画時代の 16 作品，16 本の原版や，石井輝男監督の『ねじ式』(1998 年)や『地獄』(1999 年)等 3 作品，14 本の原版など，1970 年代以降の個人映画や独立系プロダクション作品の原版寄贈を受けたことが大きな特徴である。また，日本最初の映画カメラマンである浅野四郎が撮影した『日本橋』（1897-1899 年頃）や『浅草観音』（1897-1899 年頃）等の可燃性のフィルムコマ 4 本が日本大学芸術学部映画学科から寄贈された。さらに，松竹蒲田草創期の撮影技師・田中欽之の遺族から寄贈された『田中欽之葬儀』（1937 年）等，希少価値の高い戦前の映画に関してコレクションの欠落を補うことができた。

② 映画フィルムの保管・修復・復元については，国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

修理・修復本数
81 本（映画フィルムデジタル復元 4 本，ノイズリダクション等 8 本，不燃化作業 8 本，映画フィルム洗浄 61 本）

特記事項

映画フィルムのデジタル復元については，1899（明治 32）年に九代目市川団十郎，五代目尾上菊五郎の至芸を記録した『紅葉狩』について，二度目のデジタル復元を実施し，最長版を作成した。国立映画アーカイブが 2006 年に日活株式会社から寄贈を受けた可燃性 35 ㎜白黒デュープネガ（1927 年製造）は，2009 年に映画フィルムとして初めて国の重要文化財の指定を受けるとともに，同デュープネガを復元元素材として，最初のデジタル復元が実施された。しかし 2018 年に映画史家の本地陽彦氏が所有する可燃性 35 ㎜プリントについて調査を実施したところ，『紅葉狩』［日活版］より多くの欠落部分が認められるものの，オリジナルに近い世代のフィルムであることが明らかになった。今回の新たな復元では『紅葉狩』［本地版］を主素材として，その欠落部分を『紅葉狩』［日活版］で補った。また，ドイツ・キネマテークと『除夜の悲劇』（1924 年，ルプ・ピック監督）の［デジタル復元・最長版］を 3 年がかりで共同復元した。国立映画アーカイブが 35mm 可燃性ポジの 4 K スキャンデータを主素材として提供する一方，ドイツ・キネマテーク側では，このデータに欠落する部分について，オリジナルの脚本やクラウス・プリングスハイムの楽譜等を参照しつつ，シネマテーク・フランセーズ等に残存するフッテージで補填し，最も完全なバージョンを回復させたうえで，修復作業を行った。そのほか，山中貞雄監督 2 作品『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』（1935 年），『河内山宗俊』（1936 年）のデジタル復元に際し原版提供と技術的監修を行った。

映画関連資料については，ポスター，雑誌，写真アルバムなどの専門家による修復を実施して，資料保存ケースを活用して保存を図っている。また，スタッフによる作業としても，公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターなどへの和紙を用いた簡易修復，脆弱なシナリオ等冊子に対する中性紙保存ケースの作成，接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなどの措置を講じた。

③ 映画フィルム等の貸与等については，以下のとおり実施した。

● 映画フィルム

貸出		特別映写観覧		複製利用	
件数	本数	件数	本数	件数	本数
42	73	29	115	23	45

● 映画関連資料

貸出		特別観覧	
件数	点数	件数	点数
3	55	30	670

特記事項

コロナ禍の影響により，海外への映画フィルム等の貸与件数は例年に比べて大幅に減少したが，北欧（フィンランド国立視聴覚協会，ノルウェー映画協会，デンマーク映画協会）で開催された松竹映画 100 年を記念した上映会や，第 34 回ボローニャ国際映画祭，フォルッサ無声映画祭等の映画祭に国立映画アーカイブの所蔵作品を提供することができた。また，東アジア諸国（台湾映画祭，韓国シネマテーク協会，韓国映像資料院，香港映画批評家協会）やオーストラリア（オーストラリアン・シネマテーク）に対しても，令和元年度に引き続き所蔵作品を提供した。国内では，4 月の緊急事態宣言の発出により，中止や会期延期を余儀なくされた上映企画が続出したものの，適切な感染対策を講じたラピュタ阿佐ヶ谷，シネマヴェーラ渋谷，新文芸坐，神保町シアター，ユーロスペース，シネ・ヌーヴォ，鎌倉市川喜多映画記念館等の名画座やミニシアター，映画関連施設に対しては，当館所蔵作品を貸し出すことができた。

映画フィルム等の特別映写についても申請件数の大幅な低下が見られたが，国内からは明治学院大学，京都大学，日本映画大学，早稲田大学等の研究教育機関のほか，日本映画撮影監督協会や黒澤明研究会等の団体から，また海外からは，チューリヒ大学の申請に応じることができた。

映画フィルム等の複製利用については，著作権者等によるデジタル化，テレビ番組や映像作品のためのフッテージ使用に加え，今年はコロナ禍でオンライン開催となったポルデノーネ無声映画祭やマニラ国際無声映画祭，京都市主催「京都映画賞創設祈念特別上映会」に対して，配信用の上映素材を提供した。テレビ番組では NHK「歴史秘話ヒストリア」の「小津安二郎 日常というドラマ」に対して，野田高梧撮影のホームムービーを提供。また，学研発行の学習漫画シリーズ「学研まんが New 日本の歴史」の付録 DVD，そして大学オンライン授業用ライブラリーや東京都立高等学校向け英語科授業「東京イングリッシュエンパワーメントプログラム」の配信教材に，学習・教育目的で当館所蔵作品が利用された。

映画資料の貸出については，日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っている。資料の特別観覧については，出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し，資料画像の提供や研究者による熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じている。

④ 英国映画協会所蔵作品を上映する「ピクチャレスク・ジャパン――世界が見た明治の日本――」を，令和 2 年 10 月 24 日から 25 日にユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベントとして当館にて，また令和 3 年 2 月 20 日から 21 日に MoMAK Films 番外編として京都国立近代美術館にて開催した。明治の日本の風景や文化が映画で世界にどのように表現されてきたのかを，映画上映と専門家の解説を通して紹介した。

⑤ 海外における共催上映については，新型コロナウイルス感染症の影響により中止又は令和 3 年度以降に延期となった。

⑥ 映画フィルムの保存・修復等に関する協力等については，ドイツ・キネマテークの復元担当であるユリア・ワルミュラーの協力を得て『除夜の悲劇』（1923 年）のデジタル復元を実施した。また，令和元年 10 月に発生した台風 19 号による川崎市市民ミュージアムの浸水被害に際し，川崎市からの要請により，映画フィルム及び映画関係資料のレスキュー活動並びに修復作業への助言を行った。そのほか，研究員が，文化庁の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）」の検討委員として，検討委員会での提言やシンポジウムへの参加を通じ，映画関連資料のアーカイビング事業についての協力を行った。

⑦ 企画上映においては，一般社団法人 PFF，公益財団法人川喜多記念映画文化財団，公益財団法人ユニジャパンとの共催企画「第 42 回 ぴあフィルムフェスティバル」，ワーナーブラザースジャパン合同会社との共催企画「35mm フィルムで見るクリント・イーストウッドの軌跡」を開催し，館外上映においては，一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催企画「F シネマ・プロジェクト こども映画館　スクリーンで見る日本アニメーション！」を開催した。展示企画においては，映像産業振興機構，京都府京都文化博物館との共催企画「公開 70 周年記念 映画『羅生門』展」を開催した。また「松竹第一主義 松竹映画の 100 年」では松竹株式会社の，「川本喜八郎+岡本忠成 パペットアニメーショウ 2020」では株式会社 WOWOW プラスの企画協力を得た。

⑧ 国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（国立映画アーカイブ利用校）が，国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」については，新型コロナウイルス感染症の影響により利用はなかった。

⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては，公開データベースへの接続に関する協力を行った。

⑩ FIAF の正会員として，コロナ禍で中止となった第 76 回 FIAF メキシコシティ会議にかわり，オンラインによる年次総会及びシンポジウムに岡島尚志（国立映画アーカイブ館長）が参加した。また， FIAF 加盟機関である中国電影資料館との共催により上映会「中国映画の展開――サイレント期から第五世代まで」を開催した。

⑪ 映画関連資料に関する情報収集については，研究員が水戸市中央図書館深作欣二記念室や須賀川特撮アーカイブセンターを訪問するなど，各地の映画資料館・専門図書館・研究機関とノンフィルム資料の保存に関する情報収集や情報交換を行った。また，研究員が文化庁事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（撮影所等における映画関連の非フィルム資料）」に参加，映画関連資料のアーカイビングについて提言を行った。そのほか，新型コロナウイルスの影響で前年度から延期されていた「全国映画資料アーカイブサミット 2020」及び「全国映画資料アーカイブサミット 2021」がオンライン開催され，いずれも研究員が主導的な役割を果たした。さらに，文化庁との共同発行，映像産業振興機構との共同編集により 5 年ぶりとなる「全国映画資料館録 2020」を刊行，全国の資料館・図書館・映画関係者に配布された。

Ⅱ　業務運営の効率化

1　業務運営の取組

（1）一般管理費及び業務経費の削減状況

（単位：千円）

区分	前中期目標期間 最終年度	当中期目標期間	削減率
	平成 27 年度	令和 2 年度	
一般管理費	679,240	563,169	△17.1%
業務経費	2,790,837	2,527,003	△9.5%

特記事項

当中期目標期間終了年度において，前中期目標期間の最終年度と比べて，一般管理費 15%，業務経費 5%を削減することを目標としている。（ただし，美術作品購入費，美術作品修復費，土地借料等の特殊要因経費及び目的積立金による支出はその対象外。）

令和 2 年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館に伴い支出が減少したこと，目的積立金を財源とした支出が一般管理費 225,465 千円，業務経費 257,493 千円あったことなどから，平成 27 年度比で一般管理費については 17.1%減少し，業務経費については 9.5%減少している。

（2）省エネルギー

● 使用量の削減割合（対平成 27 年度比）

館　　名		使用量		
		電気	ガス	合計
東京国立近代美術館	本館	82.2%	109.5%	92.9%
	工芸館（国立工芸館）	－	－	－
	工芸館東京分室	86.1%	－	86.1%
京都国立近代美術館		143.5%	224.1%	160.2%
国立映画アーカイブ	京橋本館	102.4%	－	102.4%
	相模原分館	97.2%	－	97.2%
国立西洋美術館		91.4%	96.1%	93.2%
国立国際美術館		98.2%	－	98.2%
国立新美術館		75.1%	92.5%	80.0%
計		87.7%	97.7%	92.4%

※東京国立近代美術館工芸館（国立工芸館）は令和 2 年 4 月に石川県金沢市へ移転したため，対平成 27 年度比の削減割合を掲載していない。

※東京国立近代美術館工芸館東京分室･国立映画アーカイブ京橋本館・相模原分館及び国立国際美術館は，ガス設備を設置していない。

※使用量は，電気は一般電気事業者からの昼間買電に 9.97GJ/千 kWh，夜間買電に 9.28GJ/千 kWh，特定規模電気事業者からの買電に 9.76GJ/千 kWh を乗じて得た熱量及び都市ガスに 45GJ/千㎥を乗じて得た熱量の合計に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を，各施設の延床面積で除した値（原単位）を基礎とする（エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく）。

特記事項（増減の理由等）

国立美術館全体においては，業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの，引き続き，美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化（夏季 28℃，冬季 19℃），夏季における服装の軽装化，不使用設備機器類の停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また，エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき，エネルギー管理統括者のもとで，省エネルギー計画策定等を行い，各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い，省エネルギー効果を高めた。特に，国立新美術館においては，引き続き，BEMS（Building and Energy Management System）により，詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い，その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し，省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

具体的内容は以下のとおり。

(1)　設備・機器等の使用抑制

①　空調に係る節電

・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
・設定温度夏季 28℃，冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
・節電にも役立つ服装の励行
・ブラインドを調節し，夏季は直射日光を遮光，冬季は暖気を確保
・空調機のフィルター清掃

②　照明に係る節電

・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
・昼休みの消灯を徹底
・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③　エレベータ，エスカレータ

・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④　衛生設備に係る節電

・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
・自動販売機の消灯，設定温度の変更
・暖房便座，温水洗浄の停止
・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤　OA 機器等

・一定期間使用しない場合の電源の切断
・節電モードでの使用を徹底
・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥　その他

・ノー残業デーの推進
・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
・各テナントへの節電の協力要請
・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2)　夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

・夏季休暇の完全取得，夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3)　その他

・超過勤務の一層の縮減
・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館の電気及びガス使用量は，平成 27 年度に工事のため 1 ヶ月半休館していたために使用量が少なかったことから，対平成 27 年度では例年増加傾向にある。

なお，法人全体については，新型コロナウイルス感染防止対策としての換気増強運転を行ったことなど，コロナ禍においても快適な観覧環境の提供及び作品保護等に取り組む一方で，省エネルギ

ーへの取組，工事休館及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館等により，電気及びガスの使用量は減少した。エネルギー使用量は平成 27 年度に対し 7.6%削減している。

2　組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし，より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため，適宜組織体制を見直し，その強化に努めた。

3　契約の点検・見直し

（1）調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成 27 年 5 月 25 日総務大臣決定）に基づき，事務・事業の特性を踏まえ，PDCA サイクルにより，公正性・透明性を確保しつつ，自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため，令和 2 年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

①　令和 2 年度の調達実績

ア　令和 2 年度の調達全体像　（単位：件，千円）

	令和元年度		令和 2 年度		比較増△減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	（24.0%） 65	（25.6%） 1,925,002	（26.9%） 71	（35.7%） 3,077,549	（9.2%） 6	（59.6%） 1,152,547
企画競争・公募	（9.6%） 26	（2.6%） 196,609	（11.7%） 31	（3.4%） 293,920	（19.2%） 5	（45.0%） 97,311
競争性のある契約（小計）	（33.6%） 91	（28.2%） 2,121,612	（38.6%） 102	（39.1%） 3,371,469	（12.1%） 11	（59.0%） 1,249,857
競争性のない随意契約	（66.4%） 180	（71.8%） 5,399,364	（61.4%） 162	（60.9%） 5,240,905	（△10.0%） △18	（△3.0%） △158,459
合　計	（100.0%） 271	（100.0%） 7,520,976	（100.0%） 264	（100.0%） 8,612,374	（△2.6%） △7	（14.5%） 1,091,398

（注 1）　計数は，それぞれ四捨五入しているため，合計において一致しない場合がある。

（注 2）　比較増△減の（　）書きは，令和 2 年度の対令和元年度伸率である。

イ　令和 2 年度の一者応札・応募状況　（単位：件，千円）

		令和元年度		令和 2 年度		比較増△減	
2 者以上	件数	58	（63.7%）	66	（64.7%）	8	（13.8%）
	金額	1,589,729	（75.0%）	1,357,048	（40.4%）	△232,681	（△14.5%）
1 者以下	件数	33	（36.3%）	36	（35.3%）	3	（9.1%）
	金額	531,883	（25.0%）	2,014,421	（59.6%）	1,482,538	（279.2%）
合　計		91	（100.0%）	102	（100.0%）	11	（12.1%）
		2,121,612	（100.0%）	3,371,469	（100.0%）	1,249,857	（59.0%）

（注 1）　計数は，それぞれ四捨五入しているため，合計において一致しない場合がある。

（注 2）　合計欄は，競争契約（一般競争，指名競争，企画競争，公募）を行った計数である。

（注 3）　比較増△減の（　）書きは，令和 2 年度の対令和元年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し，改善が見込めない案件については，慎重に検討のうえ，公募への切替えを実施することとしている。

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を 2 回実施（書面審査 1 回含む）し，令和 2 年度調達等合理化計画策定及び令和 2 年における契約の点検見直しを行ったところ，指摘事項はなかった。

・一者応札の検証実施件数：34 件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について，本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行った。

・事前点検：6 件

④ 内部監査の実施件数

令和 2 年度は，本部事務局，東京国立近代美術館，東京国立近代美術館工芸館，京都国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館を対象として監査員による内部監査を行った。

・内部監査実施件数：8 件

（2）民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

（ア）会場管理業務，（イ）設備管理業務，（ウ）清掃業務，（エ）保安警備業務，
（オ）機械警備業務，（カ）収入金等集配業務，（キ）レストラン運営業務，
（ク）アートライブラリー運営業務，（ケ）ミュージアムショップ運営業務，
（コ）美術情報システム等運営支援業務，（サ）ホームページサーバ運用管理業務，
（シ）電話交換業務，（ス）展覧会アンケート実施業務，（セ）省エネルギー対策支援業務，
（ソ）展覧会情報収集業務，（タ）映写等請負業務

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

（ア）情報案内業務，（イ）広報物等発送業務，（ウ）交通広告等掲載，
（エ）ホームページ改訂・更新業務，（オ）特設サイト等，
（カ）ラジオ CM 等を利用した総合的な広報宣伝業務，
（キ）講堂音響設備オペレーティング業務，（ク）画像貸出業務

4 共同調達の推進

国立西洋美術館は周辺の機関と連携し，コピー用紙及びトイレットペーパー，廃棄物処理，古紙等売買契約について共同調達を実施し，東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパー，電気の共同調達を実施した。東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ及び国立新美術館は周辺の機関と連携し，コピー用紙の共同調達を実施した。京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、それぞれ周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

① 人件費決算

決算額 875,632 千円（対令和元年度比較 88.2%）

※人件費は常勤職員を対象とし，退職金，福利厚生費を含まない。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して，平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに，級の構成の見直し，きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか，調整手当を廃止し，地域手当を新設するなど，国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお，令和２年度においては，国家公務員の給与改定に準拠し，人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ，諸手当にかかる給与改定を実施した。

また，国立美術館の職員が行う職務は，国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし，給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に，これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（令和元年度）」総務省公表資料を参照）。

ア　一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国及び他の独立行政法人との比較〉令和元年度実績

項　　目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	6,271 千円	7,027 千円	6,345 千円
ラスパイレス指数　※1		102.2	101.2

※1　国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ　研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

〈国及び他の独立行政法人との比較〉令和元年度実績

項　　目	国	全独立行政法人	国立美術館
平均年間給与額	9,402 千円	9,389 千円	8,990 千円
ラスパイレス指数　※2		99.7	95.6

※2　国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

ウ　常勤役員の年間報酬

令和元年度実績

項　　目	国立美術館
法人の長	18,587 千円
理事	15,548 千円

※「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（令和元年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

③ 令和２年度の役職員の報酬・給与等について

別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6　情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内で VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを引き続き採用しており，特にテレビ会議システムについては定期的な会議等に積極的に活用している。

また，法人内ネットワークのみで運用してきたテレビ会議システムに加え，クラウド型オンライン会議サービスを併せて活用し，在宅勤務者や外部関係者とのオンライン会議を積極的に実施し、業務の効率化を図った。

そのほか，メール利用等のおいて外部データセンターが提供するサーバ機能により，安全かつ安定した業務運用を実現した。また，法人内ネットワークの回線多重化により，通信障害を回避するようにネットワークを構成した。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画等

1　自己収入の確保

入場料収入 370 百万円，公募展事業収入 126 百万円，不動産賃貸収入 51 百万円，その他事業収入 81 百万円等により，633 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

2　保有資産の有効利用・処分

保有する資産について，美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また，保有する資産のうち不要な資産はない。

3　予算

（単位：百万円）

区　　分	予算額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	7,552	7,792	239
展示事業等収入	1,581	633	△948
施設整備費補助金	1,381	1,906	525
文化芸術振興費補助金	－	20	20
受託収入	－	290	290
寄附金収入	650	687	37
計	**11,164**	**11,328**	**164**
支出			
運営事業費	9,133	9,309	△176
管理部門経費	1,130	1,401	△271
うち人件費	435	406	29
うち一般管理費	695	995	△300
事業部門経費	8,003	7,909	95
うち人件費	753	730	23
うち美術振興事業費	3,294	2,663	631
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,563	3,903	△340
うちナショナルセンター事業費	393	613	△219
施設整備費	1,381	1,906	△525
文化芸術振興費	－	20	△20
受託事業費	－	290	△290
寄附金事業費	650	296	354
計	**11,164**	**11,822**	**△658**

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費，美術振興事業費，ナショナルコレクション形成・継承事業費及びナショナルセンター事業費を合わせた物件費は，臨時休館等による美術振興事業に係る支出の減少，前年度から繰り越した作品購入に係る運営費交付金債務による支出の増加，目的積立金の取崩しによる支出の増加，期中に補正予算として措置されたナショナルセンター事業に係る運営費交付金債務による支出の増加により，予算に比べ 176 百万円の支出増となった。

運営費交付金は，補正予算として措置されたアートコミュニケーション推進事業経費により，予算に比べ 239 百万円の収入増となった。展示事業等収入は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館等により，予算に比べ 948 百万円の収入減となった。

施設整備費補助金は，前年度から繰り越された工事の完了により，予算額より 525 百万円の支出増となった。

寄附金については，687 百万円を獲得した。前年度からの繰越額 2,419 百万円と合わせた 3,106 百万円のうち，令和 2 年度に 296 百万円を支出した。

4　収支計画

（単位：百万円）

区　　分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	6,753	6,258	495
管理部門経費	1,107	1,339	△232
うち人件費	435	411	24
うち一般管理費	672	928	△256
事業部門経費	4,836	4,497	339
うち人件費	753	744	9
うち美術振興事業費	3,275	2,935	340
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	594	379	214
うちナショナルセンター事業費	215	439	△224
寄附金事業費	650	295	355
減価償却費	160	127	33
収益の部			
経常収益	6,753	5,963	△790
運営費交付金収益	4,363	4,448	86
展示事業等の収入	1,581	628	△953
受託収入	－	290	290
寄附金収益	650	295	△355
資産見返負債戻入	160	134	△25
補助金等収益	－	19	19
施設費収益	－	2	2
引当金見返に係る収益	－	141	141
雑益	－	5	5
経常損益		△295	
臨時損益		239	
当期純損益		△56	
前中期目標期間繰越積立金取崩額・目的積立金取崩額		427	
当期総利益		372	

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

5　資金計画

（単位：百万円）

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	11,164	11,811	647
業務活動による支出	9,714	9,690	△24
投資活動による支出	1,450	2,121	671
財務活動による支出	－	－	－
資金収入	11,164	11,650	486
業務活動による収入	9,783	9,581	△202
運営費交付金による収入	7,552	7,792	240
展示事業等による収入	1,581	624	△957
受託収入	－	271	271
補助金等収入	－	207	207
寄附金収入	650	687	37
投資活動による収入	1,381	2,069	688
施設整備補助金による収入	1,381	2,069	688
資金増減額		△160	
資金期首残高		4,660	
資金期末残高		4,499	

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

6　貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
Ⅰ　流動資産	5,014	Ⅰ　流動負債	4,194
Ⅱ　固定資産		Ⅱ　固定負債	1,340
1．有形固定資産	202,024		
2．無形固定資産	37	負債合計	5,534
3．その他の固定資産	712		
固定資産合計	202,773	純資産の部	
		Ⅰ　資本金	81,019
		Ⅱ　資本剰余金	120,045
		Ⅲ　利益剰余金	1,188
		純資産合計	202,253
資産の部　合計	207,787	負債及び純資産の部　合計	207,787

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

7　短期借入金

実績なし。

8　重要な財産の処分等

実績なし。

9　剰余金

（1）当期未処分利益の処分計画

（単位：円）

区分	金額
Ⅰ　当期未処分利益	371,665,502
当期総利益	371,665,502
Ⅱ　積立金振替額	374,630,465
前中期目標期間繰越積立金	374,630,465
Ⅲ　利益処分額	746,295,967
積立金	746,295,967

（2）利益の生じた主な理由

支出の抑制及び目的積立金の取崩による。

（3）目的積立金の使用状況

目的積立金について，令和 2 年度は以下のとおり使用した。

区　　分	金額（円）	使用内容
前中期目標期間繰越積立金	51,863,064	展示事業に係る経費，資料収集事業に係る経費，教育普及事業に係る経費，施設の整備に係る経費，固定資産の取得
収蔵品積立金	45,619,335	収蔵品に係る経費
展示事業積立金	108,045,593	展示事業に係る経費
調査研究事業積立金	2,000,000	調査研究事業に係る経費
資料収集事業積立金	41,681,800	資料収集事業に係る経費
教育普及事業積立金	1,000,000	教育普及事業に係る経費
入館者サービス積立金	8,560,482	入館者サービスに係る経費
施設設備積立金	224,186,868	施設の整備に係る経費，固定資産の取得
計	482,957,142	

（4）積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況

（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	388,735,964	53,382,382	0	442,118,346
前中期目標期間繰越積立金	426,493,529	0	51,863,064	374,630,465
目的積立金	431,094,078	0	431,094,078	0

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1　内部統制・ガバナンスの強化

（1）内部統制の充実・強化

①　理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するため，前年度に引き続き理事長裁量経費を計上している。また，理事長のガバナンスを強化するため，理事長及び理事をもって組織し，国立美術館の運営に関する基本方針のほか，中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議し，理事長の意思決定を補佐する理事会を 8 回開催した。

そのほか，平成 29 年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき，国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため，国立美術館内部統制委員会を開催した。本委員会では，国立美術館各館の美術作品購入手続きの透明化のため情報共有と意見交換を行い，内部統制機能の強化に努めた。

更に，外部の有識者で組織し，国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し，理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を 2 回開催し，令和元年度事業実績並びに，令和 2 年度事業の実施状況及び令和 3 年度事業計画（案）について説明聴取の上，意見交換を行った。なお，令和年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，第 2 回運営委員会を書面により開催した。

また，外部有識者で構成し，国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を 2 回開催し，令和元年度事業実績について説明聴取の上，審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。なお，令和年度は新型コロナウイルス感染症の影響により，外部評価委員会は全て書面により開催した。

②　組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議（館長等会議，研究系管理職を中心とした学芸課長会議，事務系管理職を中心とした運営管理会議）において情報共有及びリスクの把握に努めているほか，法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため，リスク管理委員会を開催し，7 のリスク管理計画を策定した。これにより国立美術館は，法人で取り組むべき重要な 17 の課題（リスク）すべてに対してリスク管理計画の策定を完了した。今後，各館において詳細なマニュアルの策定等を進めるとともに，すでに策定した法人のリスク管理計画の見直しと改善を進める。

そのほか，外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて，外部の視点からのリスクの把握に努めるとともに，監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

（2）情報管理の安全性向上

情報資産の安全な運用管理実現のために，平成 30 年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき，法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに，情報セキュリティ委員会を 4 回開催し，国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど，情報セキュリティの実現に取り組んだ。

令和 2 年度は，在宅勤務時における情報セキュリティ対策を決定し職員に周知したほか，京都国立近代美術館及び国立国際美術館において情報セキュリティ自己監査を実施した。自己監査の結果については，情報セキュリティ委員会において報告され，現状の情報セキュリティ対策上の課題等を共有した。

また，近年世の中で頻発している情報漏えい，情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに，全職員を対象に情報セキュリティ研修としてオンライン研修及び標的型メール訓練を実施した。

（３）内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか，役職員から事業の報告を聴取し，重要な決裁書類等を閲覧し，財務及び業務についての状況を調査している。また，会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け，会計帳簿等の調査を行い，財務諸表，事業報告書及び決算報告書について検討を加え，いずれも適正であることを確認するとともに，業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

令和 2 年度においては 7 月 17 日に定期監査を実施したほか，各館に対し臨時監査を以下のとおり実施した。

令和 2 年 11 月 27 日：本部事務局，東京国立近代美術館
令和 2 年 12 月 10 日：京都国立近代美術館
令和 2 年 11 月 20 日：国立映画アーカイブ
令和 2 年 11 月 20 日：国立西洋美術館
令和 3 年 2 月 19 日：国立国際美術館
令和 2 年 11 月 13 日：国立新美術館

なお，監査結果報告については速やかに法人内に周知している。また，報告書において意見が付された場合には，各館における対応状況を随時監事に報告している。

このほか，「独立行政法人，特殊法人等監事連絡会」第 3 部会（書面開催）へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局，東京国立近代美術館，東京国立近代美術館工芸館，京都国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立国際美術館及び国立新美術館を対象として，契約方法の妥当性，固定資産等の管理，債権・債務の管理，前年度指摘事項のフォローアップ等について，監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

令和 2 年 9 月 1 日：本部事務局，東京国立近代美術館
令和 2 年 8 月 14 日：東京国立近代美術館工芸館
令和 2 年 8 月 21 日：京都国立近代美術館
令和 2 年 8 月 3 日：国立映画アーカイブ
令和 2 年 8 月 17 日：国立西洋美術館
令和 2 年 8 月 20 日：国立国際美術館
令和 2 年 8 月 6 日：国立新美術館

なお，監査結果報告については速やかに理事長，監事，理事及び各館長へ周知している。また，監査結果報告書において意見が付された場合には，改善措置を講じている。

2 施設・設備に関する計画

平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

（１）職員の研修等

① 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

・「令和２年度ハラスメント研修（管理職向け）」（93 人）
・「情報セキュリティ研修」（207 人）
・「令和２年度接遇・クレーム対応研修」（50 人）
・「令和２年度メンタルヘルス・ハラスメント研修」（50 人）
・「企画立案のための思考力強化研修」（74 人）

このほか，産業医による個別面談により，職員のメンタルヘルスケアを実施した。

② 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア　東京国立近代美術館

・財務会計センター主催「第 58 回政府関係法人会計事務職員研修」（１人）

・国立公文書館主催「令和 2 年度公文書管理研修Ⅰ」（1 人），

・一般財団法人公務人材開発協会人事行政研究所主催「給与実務研修会」（1 人），

イ　京都国立近代美術館

・近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」（1 人）

・国立公文書館主催「令和 2 年度公文書管理研修Ⅰ」（1 人）

・京都ユニバーサル観光講習会事務局主催「京都ユニバーサル観光講習会」（6 人）

・財務省会計センター主催「第 58 回政府関係法人会計事務職員研修」（1 人）

・京都市主催「手話及び聴覚障害の理解促進に向けた業種別合同研修会」（1 人）

ウ　国立西洋美術館

・一般財団法人公務人材開発協会主催「勤務時間・休暇関係実務研修会」（1人）

・文化庁著作権課主催「令和2年度図書館等職員著作権実務講習会」（1人）

・文化庁著作権課主催「令和2年度著作権セミナー」（1人）

・国立大学法人東京大学「2020 年度東京大学職員階層別研修（課長級・副課長級・係長級（初任者））」（1 人）

・公益財団法人財団法人文化財虫菌害研究所主催「文化財の虫菌害・保存対策研修会」（中止）に代わる「郵送方式試験」（1 人）

エ　国立国際美術館

・人事院主催「第 54 回近畿地区係長研修」（1 人）

・国立公文書館主催「令和 2 年度公文書管理研修Ⅰ」（3 人）

・国立公文書館主催「令和 2 年度公文書管理研修Ⅱ」（1 人）

・文化庁著作権課主催「令和 2 年度図書館等職員著作権実務講習会」（1 人）

・大阪労働局主催「公共団体業務委託・請負適正化／改正労働者派遣法セミナー」（1 人）

オ　国立新美術館

・放送大学「科目履修生」（1人）

（２）人員に係る指標

職種別人員の増減状況（過去 5 年分）

（単位：人）

職種	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
定年制研究系職員	55	54	56	57	56
定年制事務系職員	48	50	53	57	57
定年制技能・労務系職員	1	1	1	1	1
指定職相当職員	2	4	5	4	5

「公務員の給与改定に関する取扱いについて（平成 18 年 10 月 17 日閣議決定）」に基づき，公務員の例に準じて措置，対処している。

事務系職員については，文化庁，国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い，組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

4　関連公益法人

該当なし

5　国立工芸館の移転

国立工芸館は，石川県金沢市への移転し，4 月 1 日にロゴタイプを，9 月 4 日にシンボルマークを発表した。10 月 24 日には開館記念式典を開催するとともに，同日付では中田英寿氏が名誉館長に就任し，翌 25 日から一般公開を開始した。開館後は，近隣施設等との相互割引制度やスタンプラリーなどの連携事業を積極的に推進し，観光振興や地域活性化に寄与するとともに，北陸地域における認知度の向上や工芸の発信につとめた。その結果，第 1 回移転開館記念展は，開催日数 65 日間で 30,553 人の入館者となった。

また，移転開館後の地域との連携協力のために「国立工芸館・いしかわ・かなざわ連携協力者会議」を 3 月 5 日に会議を開催し，移転開館後の事業実績や今後の連携協力等についての意見交換を行った。

※新型コロナウイルス感染症対策のため，令和２年度は，年度当初より全館で２～３か月程度の臨時休館（以下「感染症対策臨時休館」という。）を行った。

別表１　所蔵作品展

館　名		開催日数	展示替回数		出品数（点）	入館者数		満足度※	
			実績（回）	目標（回程度）		実績	目標	実績	目標
東京国立近代美術館	本館	226	6	4	1,513	74,967	184,000	88.5%	88.4%
	国立工芸館注２	—	—	—	—	—	—	—	—
京都国立近代美術館		241	5	5	666	47,890	118,000	82.4%	54.8%
国立西洋美術館		109	3	5	613	117,718	321,500	注３—	89.0%
国立国際美術館		205	3	3	301	129,916	102,500	64.6%	55.7%
計		**781**	**17**	**17**	**3,093**	**370,491**	**726,000**	**81.5%**	**67.4%**

※「満足度」とは，アンケートによる満足度調査における「良い」以上の回答率を指す。以下同じ。
【注１】感染症対策臨時休館のため，各館において開催日数及び展示替え回数が当初予定から変更となった。
【注２】令和２年度は所蔵作品展の開催なし。
【注３】感染症対策のため，アンケートによる満足度調査を中止した。

別表２　企画展

※以下の表の（　）内は会期全体の数値，（継続）は令和３年度に継続開催する展覧会を意味する。

館名	展覧会名	開催日数	入館者数		満足度		企画観点	共催者
			実績	目標	実績	目標		
東京国立近代美術館（本館）	①ピーター・ドイグ展	105 (108)	68,496 (70,632)	49,000 (71,000)	91.5%	89.8%	イ	読売新聞社，ぴあ
	②眠り展：アートと生きること　ゴヤ，ルーベンスから塩田千春まで	74	26,512	41,000	78.9%		ロ	主催：独立行政法人国立美術館
	③あやしい絵展	9 (継続)	14,840 (継続)	15,000 (継続)	未実施		ニ	毎日新聞社，日本経済新聞社
	隈研吾展　新しい公共性をつくるためのネコの５原則【令和３年度に延期】	—	—	83,000	—		—	—
	計	188	109,848	188,000	83.2%	89.8%		開催数3回 (目標：5回程度)
東京国立近代美術館（国立工芸館）	①国立工芸館石川移転開館記念展Ⅰ　工の芸術― 素材・わざ・風土	65	30,553	11,000	80.0%	88.0%	ホ	文化庁，独立行政法人日本芸術文化振興会
	②国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ　うちにこんなのあったら展　気になるデザイン×工芸コレクション	53 (継続)	13,101 (継続)	10,000 (継続)	未実施		イ ホ	—
	国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ　近代工芸と茶の湯のうつわ－四季のしつらい－【令和３年度に延期】	—	—	11,000	—		—	—
	計	118	43,654	32,000	80.0%	88.0%		開催数2回 (目標：4回程度)

京都国立近代美術館	①チェコ・デザイン　100 年の旅	36	11,899	20,000 (33,000)	注3—	77.6%	ニ	読売新聞社，チェコ国立プラハ工芸美術館
	②ポーランドの映画ポスター注2	42	11,582	14,500 (20,000)	注3—		ハ ホ	国立映画アーカイブ
	③京のくらし―二十四節気を愉しむ	54	13,082	27,000	注3—		イ ホ	NHK京都放送局，KBS京都，京都新聞
	④人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし	48	12,706	20,000	90.9%		イ ロ	文化庁，独立行政法人日本芸術文化振興会，日本経済新聞社，京都新聞
	⑤分離派建築会 100 年　建築は芸術か？	53	12,999	28,000	66.7%		ニ	朝日新聞社
	ピピロッティ・リスト : Your Eye Is My Island―あなたの眼はわたしの島― 【令和３年度に延期】	—	—	20,000	—		—	—
	計	191	50,686	115,500	78.3%	77.6%		開催数5回 (目標：6回程度)
国立西洋美術館	①ロンドンナショナルギャラリー展	109	293,418	240,000 (320,000)	注3—	79.5%	イ	ロンドン・ナショナル・ギャラリー，読売新聞社，日本テレビ放送網
	スポーツ in アート ―ギリシャ彫刻×印象派の時代 【開催中止】	—	—	206,000	—		—	—
	計	109	293,418	446,000	—	79.5%		開催数1回 (目標：4回程度)
国立国際美術館	①ヤン・ヴォー ーォヴ・ンヤ	114	17,051	15,000	71.4%	71.0%	イ	—
	②ロンドン・ナショナル・ギャラリー展	81	193,579	236,000	85.7%		イ	ロンドン・ナショナル・ギャラリー，読売新聞社，読売テレビ
	③ミケル・バルセロ展	10 (継続)	2,606 (継続)	2,000 (継続)	100.0%		イ	読売新聞社
	ボイス＋パレルモ 【令和３年度に延期】	—	—	14,000	—		—	—
	感覚の交差展（仮称） 【令和３年度に延期】	—	—	18,000	—		—	—
	計	205	213,236	285,000	79.0%	71.0%		開催数3回 (目標：6回程度)
国立新美術館	①古典×現代 2020―時空を超える日本のアート	54	32,525	110,000 (147,000)	95.6%	86.6%	ロ ハ	國華社，朝日新聞社，文化庁，独立行政法人日本芸術文化振興会
	② MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮　2020	73	55,514	110,000	91.7%		ロ ハ	文化庁，独立行政法人日本芸術文化振興会
	③DOMANI・明日展 2021 文化庁新進芸術家海外研修制度の作家たち	32	10,059	14,000	84.2%		ハ	文化庁
	④佐藤可士和展	49 (継続)	94,955 (継続)	139,000 (継続)	未実施		ロ ハ	SAMURAI，TBSグロウディア，BS-TBS，朝日新聞社，TBSラジオ，TBS

	カラヴァッジョ《キリストの埋葬》展　【開催中止】	—	—	53,000	—		—	—
	ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会【令和３年度に延期】	—	—	96,000	—		—	—
	オルセー美術館展（仮称）【令和３年度以降に延期】	—	—	164,000	—		—	—
	イヴ・サンローラン展（仮称）【令和３年度以降に延期】	—	—	14,000	—		—	—
	計	208	193,053	700,000	86.0%	86.6%		開催数4回 (目標：9回程度)
合計		**1,019**	**903,895**	**1,766,000**	**85.1%**	**82.1%**		**開催数18回** **(目標：34回程度)**

【注 1】感染症対策臨時休館のため，各展覧会において会期及び開催日数が当初予定から変更となった。
【注 2】コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため，開催日数，入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。
【注 3】感染症対策のため，アンケートによる満足度調査を中止した。

別表３　映画上映会（国立映画アーカイブ）

タイトル	会場	上映日数	上映回数	入館者数		満足値		企画観点	共催者
				実績	目標	実績	目標		
①松竹第一主義 松竹映画の 100 年	OZU ホール	54	128	10,477	16,500	93.9%	85.4%	ニ	—
②第 42 回ぴあフィルムフェスティバル	OZU ホールル	12	36	2,661	4,500	96.2%		ロ ニ	一般社団法人 PFF，公益財団法人川喜多記念映画文化財団，公益財団法人ユニジャパン
③生誕 100 年 映画俳優 三船敏郎	OZU ホール	18	54	5,810	8,000	96.2%		ニ	—
④サイレントシネマ・デイズ 2020	OZU ホール	6	12	1,295	1,500	92.3%		ニ	—
⑤生誕 100 年 映画女優 原節子	OZU ホール	22	44	5,817	6,500	95.1%		ニ	—
⑥生誕 100 年 映画女優 山口淑子	OZU ホール	14	28	3,979	4,000	93.8%		ニ	—
⑦中国映画の展開――サイレント期から第五世代まで	OZU ホール	30	50	5,130	5,500	95.5%		イ	中国電影資料館
⑧1980 年代日本映画――試行と新生	OZU ホール	36	72	8,395	12,500	85.7%		ニ	—
⑨35mm フィルムで見るクリント・イーストウッドの軌跡	小ホール	33	74	3,807	3,500	100.0%		ニ	ワーナー ブラザース ジャパン合同会社
⑩「再映：戦後日本ドキュメンタリー映画再考」「川本喜八郎＋岡本忠成 アニメーション作品上映」	小ホール	18	36	1,718	—	100.0%		ニ	—
EU フィルムデーズ 2019【開催中止】	OZU ホール	—	—	—	9,500	—		—	—
アメリカ映画特集（仮称）【令和３年度以降に延期】	OZU ホール	—	—	—	3,500	—		—	—
レパートリー上映 2020 秋（仮称）【開催中止】	小ホール	—	—	—	1,500	—		—	—

レパートリー上映 2020 冬（仮称）【開催中止】	小ホール	—	—	—	1,500	—		—	—
計		243		49,089	78,500	94.1%	85.4%		開催数10回（目標：13回程度）

【注】感染症対策臨時休館のため，各上映会において会期及び開催日数が当初予定から変更となった。

別表 4　展覧会（国立映画アーカイブ）

展覧会名	日数	入館者数		満足度		企画観点	共催者
		実績	目標	実績	目標		
①松竹第一主義 松竹映画の 100 年	48	2,274	5,000	95.9%	86.4%	ニ	—
②公開 70 周年記念 映画『羅生門』展	74	5,120	5,500	98.7%		ロニ	京都府京都文化博物館，映像産業振興機構
③川本喜八郎＋岡本忠成 パペット・アニメーショウ 2020	74	2,735	4,500	97.4%		ハニ	—
計	196	10,129	15,000	97.6%	86.4%		開催数3回（目標：3回程度）

【注】感染症対策臨時休館のため，各展覧会において会期及び開催日数が当初予定から変更となった。

別表 5　地方巡回展・巡回上映等

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
国立美術館（担当館：京都国立近代美術館）	①京都国立近代美術館所蔵品展 京（みやこ）の美術―洋画，日本画，工芸	①北海道立旭川美術館	45	3,726
	①京都国立近代美術館所蔵品展 京（みやこ）の美術―洋画，日本画，工芸	②高崎市タワー美術館	43	5,655
合計			**88**	**9,381**

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
国立映画アーカイブ	①MoMAK Films 2020	1	9	234
	②令和 2 年度優秀映画鑑賞推進事業	73	153	15,783
	③F シネマ・プロジェクト こども映画館　スクリーンで見る日本アニメーション！	2	3	218
	④第 19 回 中之島映像劇場「野田真吉の暁」	1	3	221
	⑤東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ　月曜シネサロン＆トーク	1	2	324
	⑥中国映画の展開【注 1】	2	29	1,618
	⑦MoMAK Films 番外編　ピクチャレスク・ジャパン―世界が見た明治の日本―	1	2	60
	⑧公開 70 周年記念 映画『羅生門』展	1	32	11,794
	日本・ポーランド国交樹立 100 周年記念　ポーランドの映画ポスター【注 2】	1	42	11,582
計		**81**	**230**	**30,173**

【注 1】プログラムの一部を「①MoMAK Films 2020」として実施しているため，重複する分については会場数，開催日数及び入館者数をそれぞれの合計に含めていない。

【注 2】京都国立近代美術館のコレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため，会場数，開催日数及び入館者数はそれぞれの合計に含めない。

別表６　調査研究一覧

ア　東京国立近代美術館			
（本館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	美術における眠りと夢	企画展「眠り展：アートと生きること　ゴヤ，ルーベンスから塩田千春まで」の開催	独立行政法人国立美術館全館
2	幕末から昭和初期における女性イメージの調査研究―エロ・グロ・ナンセンスの視点から	企画展「あやしい絵展」の開催	大阪歴史博物館
3	隈研吾と新しい公共性の概念	企画展「隈研吾展新しい公共性をつくるためのネコの５原則」の長崎県美術館での開催及び東京国立近代美術館での開催準備	隈研吾建築都市設計事務所
4	オンラインによる所蔵作品の鑑賞教育に関する調査研究	遠隔授業の実施	千代田区立九段小学校，小笠原村立母島中学校，筑波大学附属大塚特別支援学校，他
5	児童生徒を対象とする所蔵作品鑑賞ツールのデジタル化	MOM@T Home こどもセルフガイド	―
6	コロナ禍のボランティア活動としてのオンライン代替プログラムの開発	オンライン対話鑑賞の実施，YouTube 動画配信	―
7	英語による対話型異文化交流プログラムの実施に向けた調査研究	英語による異文化交流プログラム「let’s Talk Art!」の記録動画制作と広報	―
8	オンラインによるビジネスパーソン対象鑑賞プログラムの開発	有料オンライン対話鑑賞の実施	―
9	MOMAT コレクション	所蔵作品展「MOMAT コレクション」を開催	―
10	MOMAT コレクション　特集:美術館の春まつり	「MOMAT コレクション　特集：美術館の春まつり」を開催	―
11	コレクションによる小企画「男性彫刻」	コレクションによる小企画「男性彫刻」を開催し小冊子を発行	―
12	コレクションによる小企画「幻視するレンズ」	コレクションによる小企画「幻視するレンズ」を開催し小冊子を発行	―
13	ソル・ルウィットのウォール・ドローイング	ウォール・ドローイングを設置し制作記録映像を作成	―
14	デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	作品の調査撮影とデータ比較を実施	―
15	装潢分野の修理における旧修理材料のクリーニング・剥落止め方法の検討	献納画の作品修復	東京文化財研究所
16	国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発	国立美術の公開情報資源の多面的かつ広範な検索可能性の実現	―
17	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に）	国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化	―
18	美術館非来館者層に関する動向調査をもとにした分析と広報計画の策定	分析結果の法人内共有と広報戦略立案及び活動での活用	株式会社インテージ
19	海外向け広報に関する調査	海外向けプレスリリース配信及びウェブ広告等での活用	共同通信ＰＲワイヤー
20	戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究　1945-1955（科研費　基盤Ｃ　研究代表者：大谷省吾，平成 30 年度～令和 3 年度）	作家の日記等自筆資料の調査と分析	―
21	1990 年代から 2000 年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究（科研費　若手研究　研究代表者：桝田倫広，令和元年～令和 4 年）	ピーター・ドイグ展カタログにて研究成果の一部を発表	―
（国立工芸館）			
	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	近代日本の工芸におけるデザイン思想	企画展「うちにこんなのあったら展 気になるデザイン×工芸コレクション」の開催，小冊子を発行	―

2	バウハウスと1930年代頃の日本の工芸・デザインの影響	MOMATコレクション（令和2年2月11日～6月14日）における「バウハウス特集」の開催	―
3	戦後日本のポスターデザイン	グラフィックデザインの保管・修復に関する調査実施	―
4	児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進について	「タッチ＆トーク」動画コンテンツの作成と公開ならびに「図鑑カード」（ワークシート）のデジタルアーカイブ作成	―
5	近代日本の美術と工芸に通底する芸術表現についての研究	MOMAT コレクション（令和 2 年 6 月 16 日～8 月 23 日）テーマ展示「美術・工芸における風景表現」の開催	―
6	近代日本の工芸における道具と表現の関係及び関連資料の保存修復について	国立工芸館「松田権六の仕事場」エリアにおける展示構成及び解説執筆，デジタルコンテンツ作成と公開	富山大学芸術文化学部附属技藝院（文化財保存・新造形技術研究センター）
7	近現代工芸の歴史展開と産地の関連性	企画展「工の芸術―素材・わざ・風土」の開催，図録を発行	―
8	近・現代の竹工芸の歴史と展開	企画展「竹工芸名品展」の開催	大阪市立東洋陶磁美術館，大分県立美術館
9	備前焼の歴史と近・現代の陶芸家による表現	企画展「The 備前」展の開催	兵庫陶芸美術館，愛知県陶磁美術館，岡山県立美術館
10	国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	誘客に向けた近隣館との連携協力策の構築	石川県立美術館，石川県立歴史博物館，石川県立伝統産業工芸館，金沢 21 世紀美術館，金沢市立中村記念美術館，金沢ふるさと偉人館
11	国立工芸館の環境整備	広報活動への展開	石川県，金沢市
12	日系アメリカ人二世によるデザイン活動について：グラッフィックデザインを中心に（令和２年ポーラ美術振興財団助成　研究代表者：客員研究員・野見山桜）	調査報告書を令和 3 年度に発行予定	―
13	「綾錦」に関する総合的研究（令和２年度ポーラ美術振興財団調査研究助成研究代表者：主任研究員・中尾優衣）	『綾錦』の木版画と原画の調査，調査報告書を令和 3 年度に発行予定	一般財団法人西陣織物館，川島織物文化館

イ　京都国立近代美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	1918年以降100年間のチェコ・デザインについて	企画展「チェコ・デザイン 100年の旅」の開催	世田谷美術館，神奈川県立近代美術館，岡崎市美術博物館，富山県美術館，チェコ国立プラハ工芸美術館
2	大戦間期のチェコスロヴァキアにおけるブック・デザイン	小企画「キュレトリアル・スタディズ13:チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより」の開催	大阪中之島美術館，立命館大学
3	1950～1990年代におけるポーランドの映画ポスター	企画展「日本・ポーランド国交樹立100周年記念　ポーランドの映画ポスター」の開催	国立映画アーカイブ
4	須田国太郎の絵画論における「模倣」の多義性	小企画「キュレトリアル・スタディズ14：須田国太郎　写実と真理の思索」の開催	きょうと視覚文化振興財団
5	森口邦彦の友禅とデザイン・ワーク	企画展「人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン　交差する自由へのまなざし」の開催	メトロポリタン美術館，ロサンゼルス・カウンティ美術館，ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館，セーヴル磁器製作所
6	二十四節気に基づくコレクション作品研究	企画展「京のくらし――二十四節気を愉しむ」の開催	―
7	ピピロッティ・リストの映像作品における身体	企画展「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island―あなたの眼はわたしの島―」の開催準備	水戸芸術館現代美術ギャラリー

8	分離派建築会の研究を通した大正期における文化・芸術運動と建築運動との関係性についての考察	企画展「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」の開催	パナソニック汐留美術館，京都大学
9	児童生徒を対象とする鑑賞教育	美術館を活用した学習支援活動の実施など	京都市図画工作教育研究会，京都市立中学校教育研究会美術部会
10	ユニバーサルな美術鑑賞プログラム	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施など	国立民族学博物館，京都市立芸術大学，京都府立盲学校
11	美術館の教育普及活動	展覧会に関連したワークショップの開催	—
12	感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業（「令和2年度文化庁　地域と共働した博物館創造活動支援事業」採択事業　＜実施中核館：京都国立近代美術館＞）	ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施，盲学校と連携した鑑賞教育の研究，さわって学ぶ所蔵品紹介ツールの作成など	国立民族学博物館，京都府立盲学校，京都市立芸術大学、他
13	郷土資料館のたてられた時代の再検証—建築はどのように集められ・展示されてきたか—（科研費　若手研究　研究代表者：本橋仁，平成31年度～令和2年度）	展示手法についての調査成果を展示（分離派建築会 100 年）に反映	馬路村、他

ウ　国立映画アーカイブ

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	松竹映画の歴史	特集上映「松竹第一主義 松竹映画の100年」及び展覧会「松竹第一主義 松竹映画の100年」の開催	—
2	日本の自主映画	特集上映「第42回ぴあフィルムフェスティバル」の開催	一般社団法人 PFF，公益財団法人ユニジャパン，公益財団法人川喜多記念映画文化財団
3	映画俳優三船敏郎の出演作	特集上映「生誕100年 映画俳優 三船敏郎」の開催	—
4	外国映画を中心とする無声映画	特集上映「サイレントシネマ・デイズ2020」の開催	—
5	映画俳優原節子の出演作	特集上映「生誕 100 年 映画女優 原節子」の開催	—
6	映画俳優山口淑子の出演作	特集上映「生誕 100 年 映画女優 山口淑子」の開催	—
7	中国映画の歴史	特集上映「中国映画の展開——サイレント期から第五世代まで」の開催	中国電影資料館
8	1980 年代の日本映画	特集上映「1980 年代日本映画——試行と新生」の開催	—
9	クリント・イーストウッドの監督・出演作	特集上映「35mm フィルムで見るクリント・イーストウッドの軌跡」の開催	ワーナーブラザーズジャパン合同会社
10	映画『羅生門』の生成と分析	展覧会「公開 70 周年記念 映画『羅生門』展」の開催	映像産業振興機構，京都府京都文化博物館
11	川本喜八郎・岡本忠成監督の人形アニメーション	展覧会「川本喜八郎＋岡本忠成 パペットアニメーショウ 2020」の開催	—
12	国際フィルムアーカイブ連盟（FIAF）会員，その他同種機関，現像所等からの情報に基づく，未発見の日本映画フィルムの所在調査	英国映画協会（BFI）所蔵の『かぐや姫』（1935 年）の収集に伴う調査	FIAF 会員，国内外の同種機関，現像所
13	可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録，アナログ及びデジタル技術を活用した復元，及び映写	『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』や『紅葉狩』のデジタル復元等	FIAF 会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，美術館・博物館，映像機器メーカー，現像所等
14	映画におけるデジタル保存と活用	『風たちの午後』［デジタルリマスター版］DCP の収集等	FIAF 会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，IT 関連研究教育機関，映画製作会社，映画関連団体，放送局，映像機器メーカー，現像所，IT 関連会社等
15	映画の収集のための原版の所在ならびに権利帰属等の情報収集と調査	特集上映「1980 年代日本映画——試行と新生」等企画上映に伴う新規フィルム購入	映画製作会社等諸団体
16	映画資料を整理するとともに，その画像をデジタル化し，活用することを目的とする事業	「デジタル資料閲覧システム」の充実等	—

17	東京と鉄道に関する文化・記録映画とホームムービー	東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ月曜シネサロン＆トーク	東京国際フォーラム
18	こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	「こども映画館」，「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」及び「F シネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！」の実施	一般社団法人コミュニティシネマセンター
19	社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	優秀映画鑑賞推進事業の実施	—
20	日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元（科研費　基盤B　研究代表者：冨田美香，平成31年度～令和3年度）	フィルム及び文献調査	—
21	塚田嘉信コレクションを起点に初期映画史を読み直す（科研費　基盤 C　研究代表者：入江良郎，令和 2 年度～令和 4 年度）	映画史資料及び文献調査	—

エ　国立西洋美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成	展覧会及び講演会等の開催，図録の刊行	ロンドン・ナショナル・ギャラリー
2	中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	作品収集，作品及び文献調査，所蔵作品展・企画展，刊行物，講演発表，解説等	—
3	所蔵版画作品	作品収集，作品及び文献調査，展覧会の開催，刊行物，講演発表，解説等	—
4	美術館教育	教育普及プログラムの実施，鑑賞教育教材制作，インターンシップ，ボランティア指導，解説等	—
5	ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	教育普及プログラムの実施，文献及び図面調査	ル・コルビュジエ財団
6	美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築―方法の改善・発展と実践（科研費　基盤 C 研究代表者：高嶋美穂，令和元年～令和 5 年）	所蔵作品の保存のための基礎調査	—
7	松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作（科研費　基盤 B　研究代表者：川口雅子，令和 2 年～令和 5 年）	作品及び文献調査	—

オ　国立国際美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	所蔵作品	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	—
2	現代美術の動向	所蔵作品展の企画構成，作品の収集活動	—
3	ヤン・ヴォーについて	企画展「ヤン・ヴォー　ーォヴ・ンヤ」を企画構成，開催，図録の発行	—
4	ボイス，パレルモについて	企画展「ボイス＋パレルモ」の開催，図録の発行	豊田市美術館，埼玉県立近代美術館
5	イギリスにおけるヨーロッパ美術のコレクション形成	共催展「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」の開催，図録の発行	ロンドン，ナショナル・ギャラリー
6	ミケル・バルセロについて	企画展「ミケル・バルセロ展」の開催，図録の発行	長崎県美術館，三重県立美術館，東京オペラシティアートギャラリー
7	写真家　鷹野隆大について	令和 3 年度以降の企画展の開催準備	—
8	松澤宥について	令和 3 年度以降の企画展の開催準備	長野県信濃美術館
9	所蔵作品のキュレーションについて	「They Do Not Understand Each Other」展(大館美術館(中国・香港))を共同研究・共同開催	シンガポール美術館（シンガポール），大館美術館（香港）
10	アジア圏におけるタイムベースド・メディアの研究	「They Do Not Understand Each Other」展(大館美術館(中国・香港))を共同研究・共同開催	シンガポール美術館（シンガポール），大館美術館（香港）

11	パフォーマンスについて	「They Do Not Understand Each Other」展(大館美術館(中国・香港))を共同研究・共同開催	シンガポール美術館（シンガポール），大館美術館（香港）
12	児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	「先生のための鑑賞プログラム 2020」を開催	—
13	美術館教育	新型コロナウイルス感染症感染予防対策を踏まえた各種鑑賞ツアー，オンラインワークショップ，視覚障害者対象鑑賞補助ツール製作，ユニバーサルプログラム企画	—
14	所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充，整備	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムにおける所蔵作品情報の充実	—
15	映像，電子機器等を用いた所蔵作品の保存修復と情報管理	ナム・ジュン・パイク《鳥籠の中のケージ》（1994）の保存修復	—

オ　国立新美術館

	調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
1	日本の現代美術の動向	企画展「李禹煥」（仮称）の開催準備	—
2	海外の現代美術の動向	令和3年度以降の企画展の開催準備	—
3	日本のマンガ，アニメ，ゲーム	企画展「MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮　2020」の開催	一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構
4	日本のファッションとデザイン	企画展「ファッション イン ジャパン1945-2020―流行と社会」の開催準備	島根県立石見美術館
5	古典と現代	企画展「古典×現代 2020―時空を超える日本のアート」展の開催	國華社
6	佐藤可士和	企画展「佐藤可士和展」の開催	—
7	カラヴァッジョとカトリック改革	企画展「カラヴァッジョ《キリストの埋葬》展」の開催準備（中止）	バチカン美術館・図書館
8	15 世紀～19 世紀の西洋近世・近代絵画	企画展「メトロポリタン美術館展　西洋絵画の 500 年」の開催準備	メトロポリタン美術館
9	20 世紀初頭のフランス美術・建築	企画展「オルセー美術館展」（仮称）の開催準備	オルセー美術館
10	イヴ・サンローラン研究	企画展「イヴ・サンローラン展」（仮称）の開催準備	イヴ・サンローラン美術館
11	19 世紀，20 世紀のフランス美術	企画展「エルミタージュ美術館展」（仮称）の開催準備	エルミタージュ美術館
12	庵野秀明	企画展「庵野秀明展」の開催準備	—
13	アンリ・マティス	企画展「マティス 自由なフォルム」の開催準備	ニース市マティス美術館
14	ニューヨーク近代美術館のコレクション形成史	企画展「ニューヨーク近代美術館展」（仮称）の開催準備	ニューヨーク近代美術館
15	パブロ・ピカソ	企画展「ピカソ展」（仮称）の開催準備（中止）	ポンピドゥーセンター
16	19 世紀，20 世紀のドイツ美術	企画展「ルートヴィヒ美術館展」（仮称）の開催準備	ルートヴィヒ美術館，ケルン
17	美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）	企画展ジュニアガイドを制作・配布/建築ツアー，ワークショップ，学校を対象としたガイダンス等を開催/建築ガイドアプリ，オンラインで体験できる制作キット等を配信	—
18	日本の近・現代美術資料	日本の近・現代美術に関する資料の収集，公開に向けた整理	—
19	戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	「日本の美術展覧会記録1945-2005」の公開	—
20	美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	秋山画廊関係資料，瀬木慎一関係資料，近藤竜男資料等の整理と編成記述	—

21	美術情報の収集・提供システム	展覧会情報収集・提供サービス「アートコモンズ」の公開	―
22	美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	国立国会図書館「ジャパンサーチ」への展覧会情報の提供	―
23	日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究（科研費　基盤研究C 研究代表者：米田尚輝　令和元年～令和3年）	日本の現代美術における作家による理論的著作と作品との影響関係の考察	―
24	写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術――昭和戦前期を中心に（科研費　基盤研究C 研究代表者：谷口英理　令和元年～令和3年）	戦前期の作家資料に含まれる写真資料の保存・活用の方針検討	甲南学園長谷川三郎記念ギャラリー，福沢一郎記念館
25	長谷川三郎と福沢一郎の写真資料に関する調査研究（公益財団法人ポーラ美術振興財団　美術館職員の研究助成　研究代表者：伊藤佳之　研究分担者：谷口英理）	戦前期の作家資料に含まれる写真資料の保存・活用の方針検討	甲南学園長谷川三郎記念ギャラリー，福沢一郎記念館
26	近現代日本のセメント美術に関する研究（科研費　挑戦的研究（萌芽）　研究代表者：坂口英伸，令和元年～令和3年）	作品および文献調査を実施し，その研究成果の一部を『美術運動史研究会ニュース』第182号にて発表	―
27	戦後日本における野外彫刻の写真資料に関するデジタル化とデータベース構築(2)(公益財団法人ポーラ美術振興財団美術館職員の調査研究助成，研究代表者：坂口英伸，令和2年)	紙焼写真のデジタル化とそのデータベース化の実施	太平洋セメント株式会社

別表７　展覧会図録における執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み，共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については，ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

ア　東京国立近代美術館

（本館）

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	「イントロダクション：なぜ美術に「眠り」が重要なのか」，章解説，作品解説，作家解説	古舘遼（研究員）	眠り展：アートと生きること　ゴヤ，ルーベンスから塩田千春まで
2	「あやしい絵」を巡るブックガイド	長名大地（研究員）	あやしい絵展
3	「『あやしい絵』通史」，作品解説，作家解説，コラム「なぜ『あやしい絵』には女性が多く登場するのか？」	中村麗子（主任研究員）	あやしい絵展
4	「日本におけるロセッティ，ビアズリー，ミュシャ―『あやしい絵展』を深く鑑賞するための受容史」	山田歩（研究補佐員）	あやしい絵展

（国立工芸館）

	タイトル	執筆者氏名（職名）	展覧会名
1	喜多川平朗《唐草文上代羅》他作品解説 13 件，板谷波山他作家解説 67 件	今井陽子（主任研究員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
2	鹿児島寿蔵《紙塑人形　黄葉》作品解説 1 件	岸本紗和子（研究補佐員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
3	松田権六《秋野泥絵平卓》他作品解説 13 件	北村仁美（主任研究員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
4	鹿島一谷《布目象嵌露草文銀四分一接合水指》他作品解説 4 件	小島美里（研究補佐員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
5	鎌倉芳太郎《紅型竹文麻地夏長着》他作品解説 3 件	島田里都子（研究補佐員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
6	板谷波山他作家解説 67 件	高嶋優希（主査）	工の芸術― 素材・わざ・風土
7	作品解説長野垤志《松林の図肩衝釜》他作品解説 13 件	中尾優衣（主任研究員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
8	高村豊周《朱銅まゆ花瓶》他作品解説 9 件	野見山桜（客員研究員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
9	論文「皇居のほとりから，工芸の「まちのなかへ―工の芸術―素材・わざ・風土」，コラム解説，章解説，作品解説	花井久穂（主任研究員）	工の芸術― 素材・わざ・風土

10	板谷波山他作家解説 67 件	真山陽理子 （研究補佐員）	工の芸術― 素材・わざ・風土
11	章解説，コラム解説	中尾優衣 （主任研究員）	うちにこんなのあったら展
イ　京都国立近代美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「京都国立近代美術館コレクションにみる二十四節気」	池田祐子 （学芸課長）	京のくらし――二十四節気を愉しむ
2	「森口邦彦のフランス時代―友禅・着物に見出した可能性をめぐって」	池田祐子 （学芸課長）	人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン交差する自由へのまなざし
3	「森口邦彦―友禅を継ぐ，そして自由へ」，章解説	大長智広 （研究員）	人間国宝 森口邦彦　友禅／デザイン交差する自由へのまなざし
4	「建築の残欠―大正から現代，分離派建築会が生きた証を展示する」，登場人物・章・作品解説	本橋仁 （特定研究員）	分離派建築会 100 年 建築は芸術か？
ウ　国立映画アーカイブ			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	展示品解説文	岡田秀則 （主任研究員）	公開 70 周年記念 映画『羅生門』展
エ　国立西洋美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「スペイン絵画の発見」，3 章解説，作品解説	川瀬佑介 （主任研究員）	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展
2	コラム「ゴッホの「ひまわり」の連作を巡って」	久保田有寿 （特定研究員）	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展
オ　国立国際美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	「ヤン・ヴォー：展示から読み解くその世界」	植松由佳 （主任研究員）	ヤン・ヴォー　ーォヴ・ンヤ
2	サン・ペール礼拝堂を巡って	安來正博 （学芸課長代理）	ミケル・バルセロ
3	ミケル・バルセロを訪ねて―物質とともに	山梨俊夫 （館長）	ミケル・バルセロ
4	声と息：ヨーゼフ・ボイスとブリンキー・パレルモについてのいくつかの断章	福元崇志 （主任研究員）	ボイス＋パレルモ
5	ボイス以後のボイス	福元崇志 （主任研究員）	ボイス＋パレルモ
6	ヨーゼフ・ボイス：拡張する彫刻	福元崇志 （主任研究員）	ボイス＋パレルモ
7	霊媒的：ボイスのアクション	福元崇志 （主任研究員）	ボイス＋パレルモ
8	再生するイメージ：ボイスのドローイング	福元崇志 （主任研究員）	ボイス＋パレルモ
カ　国立新美術館			
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	展覧会名
1	MANGA⇔TOKYO から MANGA 都市 TOKYO へ（MANGA⇔TOKYO 展　展覧会報告）	真住貴子 （主任研究員）	MANGA 都市 TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮 2020
2	章解説 5 本，プロジェクト解説 36 本，参考文献	宮島綾子 （主任研究員）	佐藤可士和
3	プロジェクト解説 13 本，参考文献	米田尚輝 （主任研究員）	佐藤可士和

4	「ストリートからヴァーチャル空間へ――1990 年代以降のファッションに見られる装う場の変化」（論文），巻頭エッセイ，章解説，節解説，作品解説，年表，参考文献	小野寺奈津 （特定研究員）	ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会
5	「TD（トップデザイナー）６設立から東京コレクションへ―戦前から現代までの日本のファッションショー」（論文），巻頭エッセイ，章解説，節解説，作品解説，年表，参考文献	本橋弥生 （主任研究員）	ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会

別表８　研究紀要における執筆

ア　東京国立近代美術館				
（本館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「『ニッポン新聞』にみる北脇昇の思考の軌跡（前編）」	大谷省吾 （美術課長）	『東京国立近代美術館研究紀要』25 号	R3.3.31
2	「所蔵作品研究　荒川修作《新たなしるしのはじまり》（Beginning of a New Mark）―矢印のゆくえ―」	小川綾子 （研究補佐員）	『東京国立近代美術館研究紀要』25 号	R3.3.31
3	［資料紹介］夢土画廊関係資料について	長名大地 （研究員） 石川明子 （研究補佐員）	『東京国立近代美術館研究紀要』25 号	R3.3.31
（国立工芸館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1.	【講演会記録】 CODA ミュージアム　カリン・レインダース館長来日記念講演会「現代オランダのアート・ジュエリー：現況と展望」	島田里都子 岸本紗和子 （研究補佐員）	『東京国立近代美術館研究紀要』第 24 号	R3.3.31
2.	【研究ノート】近代漆芸における Ut pictura poesis 六角紫水の場合	北村仁美 （主任研究員）	『東京国立近代美術館研究紀要』第 24 号	R3.3.31
イ　国立西洋美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1.	More than models and muses: The women of John Everett Millais' domestic circle and their contributions	浅野菜緒子 （特定研究員）	国立西洋美術館研究紀要 No.25	R3.3.31
2.	美術作品に対する自然科学的調査―非接触調査法を中心に	高嶋美穂 （特定研究員）	国立西洋美術館研究紀要 No.25	R3.3.31

別表９　館ニュースにおける執筆

ア　東京国立近代美術館				
（本館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	「コロナ禍の教育普及活動（２） ICT を活用したスクールプログラムの新展開	一條彰子 （主任研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
2	「浅見貴子《梅に楓図》」	都築千重子 （主任研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
3	「速水御舟《寒牡丹写生図巻》」	鶴見香織 （主任研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31

4	「吉田克朗《触“体―47”》」	古舘遼 （研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
5	「杉戸洋《the secret tower》」	保坂健二朗 （主任研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
6	「コロナ禍の教育普及活動（1） 代替プログラムでの新たな試み	細谷美宇 （特定研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
（国立工芸館）				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	国立工芸館における作家アトリエの再現展示：「松田権六の仕事場」	北村仁美 （主任研究員）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
2	新しい国立工芸館	唐澤昌宏 （工芸館長）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
3	新しいコレクション　金子潤《Untitled（13-09-04)》	唐澤昌宏 （工芸館長）	『現代の眼』635 号	R3.3.31
イ　京都国立近代美術館				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	新収蔵品紹介	梶岡秀一 （主任研究員）	『京都国立近代美術館ニュース視る』507 号	R2.9.30
2	新収蔵品紹介	大長智広 （研究員）	『京都国立近代美術館ニュース視る』507 号	R2.9.30
ウ　国立映画アーカイブ				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	デジタル時代における無声映画の適正な速度	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 9 号	R2.7.1
2	大曾根辰夫と松竹京都撮影所	大澤浄 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 9 号	R2.7.1
3	松竹映画 100 年の歩み	濱田尚孝 （特定研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 9 号	R2.7.1
4	アイリーン・バウザーの仕事	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 10 号	R2.10.1
5	近森眞史氏インタビュー「フィルムの質感が伝えるもの」	佐野亨 （客員研究員） 冨田美香 大澤浄 （主任研究員） 玉田健太 森宗厚子 （特定研究員） 山本一郎 （特定専門員）	『NFAJ ニューズレター』第 10 号	R2.10.1
6	「コレクション研究 日本のディズニー映画ポスター（1959-1967）」	岡田秀則 （主任研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 11 号	R3.1.1
7	コロナ禍と世界のフィルムアーカイブ	岡島尚志 （館長）	『NFAJ ニューズレター』第 11 号	R3.1.1

8	1980 年代──日本映画の再編成	大澤浄 （主任研究員） 玉田健太 森宗厚子 （特定研究員） 佐野亨 （客員研究員）	『NFAJ ニューズレター』第 11 号	R3.1.1

エ　国立西洋美術館

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	2019 年度収蔵作品について エドゥアール・マネ《嵐の海》	陳岡めぐみ （主任研究員）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20
2	2019 年度収蔵作品について フランシスコ・デ・スルバラン《聖ドミニクス》	川瀬佑介 （主任研究員）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20
3	松方コレクション展を終えて	陳岡めぐみ （主任研究員）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20
4	国立西洋美術館の臨時休館について ― 甦るル・コルビュジエの前庭 ―	馬渕明子 （館長）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20
5	スクール・ギャラリートーク 盲学校との鑑賞活動	松尾由子 （特定研究員）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20
6	開催報告「明治の工芸／平成の工芸 ― 150 年の時代を超えた日本のわざと装飾の美 ― 」	飯塚隆 （主任研究員）	『ZEPHYROS』第 83 号	R2.8.20

オ　国立国際美術館

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名	発行年月日
1	黄昏を暁と呼びうるか　―中之島映像劇場について③―	田中晋平 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 237 号	R2.4.1
2	館蔵品紹介　青木陵子《オブジェクトリーディング》	福元崇志 （主任研究員）	国立国際美術館ニュース 237 号	R2.4.1
3	スクリーンの行方と自主上映　―中之島映像劇場について④―	田中晋平 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 238 号	R2.9.1
4	館蔵品紹介　須藤由希子《プールと団地》	安來正博 （学芸課長代理）	国立国際美術館ニュース 238 号	R2.9.1
5	ナショナル・ギャラリーの魔術	山梨俊夫 （館長）	国立国際美術館ニュース 239 号	R2.11.1
6	〈運ぶ〉映画と動体視力　―中之島映像劇場について⑤―	田中晋平 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 239 号	R2.11.1
7	館蔵品紹介　フェリックス・ゴンザレス＝トレス《「無題」（ラストライト）》	中西博之 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 239 号	R2.11.1
8	バルセロのいる風景　―ミケル・バルセロ展に寄せて―	安來正博 （学芸課長代理）	国立国際美術館ニュース 240 号	R3.3.1
9	《TOCHKA》と死の記憶　―中之島映像劇場について⑥―	田中晋平 (客員研究員)	国立国際美術館ニュース 240 号	R3.3.1
10	館蔵品紹介　米田知子《藤田嗣治の眼鏡―日本出国を助けたシャーマン GHQ 民政官に送った電報を見る》	植松由佳 (主任研究員)	国立国際美術館ニュース 240 号	R3.3.1

別表 10　館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

ア　東京国立近代美術館						
（本館）						
A. 学会等発表						
	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	趣旨説明「指導者研修の 15 年」	美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修 15 周年シンポジウム	一條彰子 （主任研究員）	R3.2.14	オンライン	716
2	事例紹介「どこにいても美術館とつながる～母島中学校との連携」	美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修 15 周年シンポジウム	一條彰子 （主任研究員）	R3.2.14	オンライン	716
3	事例発表「ガイドスタッフ 40 名，オンラインに挑戦する」	全国美術館会議教育普及研究部会第 54 回会合	一條彰子 （主任研究員） 細谷美宇 （特定研究員）	R2.12.15	オンライン	100
4	オンラインプログラム紹介「鑑賞素材 BOX について」	全国美術館会議教育普及研究部会第 54 回会合	一條彰子 （主任研究員）	R2.12.15	オンライン	100
5	デジタル教材「鑑賞素材 BOX」を使った新しい鑑賞のかたち	日本美術教育連合美術教育力養成講座３	一條彰子 （主任研究員）	R3.1.9	オンライン	40
6	「彼らはダリの何に惹かれたのか」	「ショック・オブ・ダリ展」（三重県立美術館）	大谷省吾 （美術課長）	R3.2.27	三重県立美術館	40
7	【事例報告】東京国立近代美術館アートライブラリの再開に向けて	アートドキュメンテーション学会	長名大地 （研究員）	R2.6.7	オンライン	26
8	東京国立近代美術館リポジトリの公開	アートドキュメンテーション学会	長名大地 （研究員）	R2.7.11	オンライン	23
9	美術資料のデジタル化：東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵の会場写真を中心に	アートミュージアム・アンヌアーレ 2020	長名大地 （研究員）	R2.11.4	オンライン	95
10	アート活動のアーカイブ：P+ARCHIVE の活動を中心に	アートミュージアム・アンヌアーレ 2020	長名大地 （研究員）	R2.11.5	オンライン	45
11	美術館資料としての写真：東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵 「抽象と幻想」展関連写真を中心に	シンポジウム「画家の写真資料　保存と情報共有の実際」	長名大地 （研究員）	R3.1.30	オンライン	43
12	企業とのパートナーシップによる支援について	一般社団法人全国美術館会議第 35 回学芸員研修会	滝本　昌子 （渉外・広報課長）	R3.3.5	国立新美術館	300
13	「眠り展で目指したこと」，ディスカッションのコーディネーター	「国際地域学研修VI6」（美術展研修）佐々木悠介准教授	古舘遼 （研究員）	R3.1.14, R3.1.23	東洋大学（Web ミーティングシステム利用）	16
14	東京国立近代美術館の解説ボランティア MOMAT ガイドスタッフ」が選ぶイチオシ作品＠Youtube	Covid-19-Museum Online Café #9	細谷美宇 （特定研究員）	R2.12.13	オンライン	15
15	トークセッション　兼子裕代×増田玲	POETIC SCAPE「兼子裕代展｜Appearance」関連オンラインイベント	増田玲 （主任研究員）	R2.7.19	POETIC SCAPE	無観客開催（web で動画公開）
16	対談　圓井義典×増田玲×伊藤義彦	PGI「圓井義典　天象（アパリシオン）」展関連イベント	増田玲 （主任研究員）	R2.10.31	PGI	無観客開催（web で書起し公開）

17	生誕 100 年 石元泰博写真展　対談シリーズ Vol. 5 森山明子×増田玲	「生誕 100 年　石元泰博写真展」	増田玲（主任研究員）	R2.12.7	東京オペラシティアートギャラリー	無観客開催（web で動画公開）
18	「やわらかく，動きのある展覧会づくりへ」	アートト	三輪健仁（主任研究員）	R2.11.14	アートト	15
19	「【ONLINE TALK EVENT】デイヴィッド・シュリグリー×三輪健仁」	NADiff	三輪健仁（主任研究員）	R2.12.12	NADiff	35

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	発行者	発行年月日
1	「静物としての動物」	大谷省吾（美術課長）	広島市現代美術館編『無辜の絵画　靉光・竣介と戦時下の画家』（国書刊行会）	R2.5.30
2	「吹動風車的現代主義之風　阿部金剛及其周囲人，事」	大谷省吾（美術課長）	黄亜歴・陳允元編『共時的星叢―風車詩社与新精神的跨界域流動』（大雁文化事業股份有限公司，台湾）	R2.11.
3	「2 つの共同制作《浦島物語》と《鴨川風土記序説》について」	大谷省吾（美術課長）	弘中智子・清水智世編『さまよえる絵筆―東京・京都　戦時下の前衛画家たち』(みすず書房)	R3.2.25
4	「デジタル画像は電子甲虫の夢を映すか？」	増田玲（主任研究員）	伊奈英次写真集『残滓の結晶』（東京綜合写真専門学校出版局）	R2.12.17
5	「写真表現の現在を考える」	増田玲（主任研究員）	『はじめて学ぶ芸術の教科書 写真２　現代写真―行為・イメージ・態度』（京都芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎）	R3.2.15
6	章扉解説「IV 日本美術の今を創る―近代・現代」，「竹内栖鳳の風景表現について―明治末年までを中心に」	中村麗子（主任研究員）	板倉聖哲・髙岸輝（編）『日本美術のつくられ方　佐藤康宏先生の退職によせて』（羽鳥書店）	R2.12.18

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「歴史の沼に触れる意思―絵画と映画のコラボレーション」	鈴木勝雄（主任研究員）	第 19 回中之島映像劇場「野田真吉の暁」パンフレット（国立国際美術館）	R2.10.1

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「近代日本美術史は，作品の現存しない作家をいかに扱うことができるか？」	大谷省吾（美術課長）	『近代画説』29 号（明治美術学会）	R2.12.19
2	「Photo-dessins et collages d'Ei-kyu」	大谷省吾（美術課長）	『revue A』9 号（Marsa Publications）	R2.12
3	モネとマティスを巡るとっておきブックガイド	長名大地（研究員）	「モネとマティス：もうひとつの楽園」展図録（ポーラ美術館）	R2.5.12
4	れふぁれんす三題噺：東京国立近代美術館アートライブラリにおけるレファレンス	長名大地（研究員）	『図書館雑誌』114 巻 8 号	R2.8
5	東京国立近代美術館アートライブラリの特殊コレクション：美術館の活動と所蔵資料の形成	長名大地（研究員）	『専門図書館』303 号	R2.12
6	「「現代絵画としての版画」をめぐる一試論－東京国際版画ビエンナーレと辰野登恵子を中心に－」	都築千重子（主任研究員）	「多摩美の版画，50 年」展図録（多摩美術大学）	R3.1.6

7	「展評 宮川知宙」	桝田倫広 （主任研究員）	『TOKAS-Emerging 2020』（トーキョーアーツアンドスペース）	R2.10
8	「展評 GengoRaw」	桝田倫広 （主任研究員）	『TOKAS-Emerging 2020』（トーキョーアーツアンドスペース）	R2.10
9	「展評 水上愛美」	桝田倫広 （主任研究員）	『TOKAS-Emerging 2020』（トーキョーアーツアンドスペース）	R2.10
10	「ピーター・ドイグ展の新型コロナウィルス（感染予防対策以外）の対応について」	桝田倫広 （主任研究員）	『ZENBI 全国美術館会議機関紙』 Vol.19	R3. 3. 1
11	「レヴュー 前川修著『イメージを逆撫でする　写真論講義　理論編』」	増田玲 （主任研究員）	『映像学』104 号（日本映像学会）	R2.7.25

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「近代美術の眼　ソル・ルウィット《ウォール・ドローイング#769　黒い壁を覆う幅 36 インチ（90cm）のグリッド。角や辺から発する円弧，直線，非直線から二種類を体系的に使った組み合わせ全部。》」	小川綾子 （研究補佐員）	読売新聞都内版	R2.2.13
2	「近代美術の眼　野田英夫《都会》」	都築千重子 （主任研究員）	読売新聞都内版	R2.11.14
3	「日経アートアカデミア　横山大観「生々流転」―日本画の巨匠 この 1 点(オンライン講座)	鶴見香織 （主任研究員）	日本経済新聞社	R2.9
4	「近代美術の眼　白井雨山《箭調べ》」	鶴見香織 （主任研究員）	読売新聞都内版	R2.12.12
5	「近代日本画に探る『あやしさ』」	中村麗子 （主任研究員）	『月刊アートコレクターズ』142 号（生活の友社）	R3.1.25
6	「美しいだけじゃない　動乱の時代　心も揺れて」	中村麗子 （主任研究員）	『毎日新聞』朝刊	R3.3.18
7	「『あやしい絵』に個性と人間の本質を見る」	中村麗子 （主任研究員）	『美術の窓』451 号（生活の友社）	R3.3.19
8	「あやしい絵展」	中村麗子 （主任研究員）	『新美術新聞』1563 号（美術年鑑社）	R3.3.21
9	「『あやしい絵』の秘密に迫る」（アートダイアリー078）	中村麗子 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.3.25
10	「近代美術の眼　ウジェーヌ・アジェ《「20 Photographs by Eugène Atget」より　サン・リュスティク通り》」	堀田文 （研究補佐員）	読売新聞都内版	R3.3.13
11	「こんにち，絵画を見ることについて―ピーター・ドイグを起点に」	桝田倫広 （主任研究員）	『月刊美術』No.545（サン・アート）	R3. 1. 20
12	解説「英国絵画史 4 二つの世界大戦とにじみだすイギリスらしさ」	桝田倫広 （主任研究員）	『芸術新潮』（新潮社）	R3.2.25
13	解説「英国絵画史 5 解体する帝国とスター誕生 ベーコン，ホックニー，フロイド」	桝田倫広 （主任研究員）	『芸術新潮』（新潮社）	R3.2.25
14	解説「英国絵画史 6 ターナ賞の先鋭化と YBAs 大暴れ」	桝田倫広 （主任研究員）	『芸術新潮』（新潮社）	R3.2.25
15	解説「英国絵画史 7 越境する絵画たち」	桝田倫広 （主任研究員）	『芸術新潮』（新潮社）	R3.2.25
16	作品解説「CURATOR'S NOTE 奥村雄樹」	桝田倫広 （主任研究員	11 Stories on Distanced Relationships: Contemporary Art from Japan	R3.3.31
17	作品解説「CURATOR'S NOTE 野口里佳」	桝田倫広 （主任研究員	11 Stories on Distanced Relationships: Contemporary Art from Japan	R3.3.31
18	作品解説「CURATOR'S NOTE 柳井信乃」	桝田倫広 （主任研究員	11 Stories on Distanced Relationships: Contemporary Art from Japan	R3.3.31
19	「近代美術の眼　植田正治《カコとミミの世界》」	増田玲 （主任研究員）	読売新聞都内版	R2.7.11

（国立工芸館）

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	「備前焼の魅力と作風の展開―桃山時代から現代まで―」	愛知県陶磁美術館	唐澤昌宏（工芸館長）	R2.8.8	愛知県陶磁美術館　講堂	115
2	「備前焼の魅力と作風の展開―桃山から現代まで―」	岡山県立美術館	唐澤昌宏（工芸館長）	R2.10.11	岡山県立美術館 2 階ホール	130
3	特別対談　隠﨑隆一×唐澤昌宏	岡山県立美術館	唐澤昌宏（工芸館長）	R2.10.11	岡山県立美術館 2 階ホール	130
4	「国立工芸館のコレクションと日本伝統工芸展」	第 67 回日本伝統工芸展金沢展関連イベント	唐澤昌宏（工芸館長）	R2.10.25	石川県立美術館ホール	167
5	「国立工芸館とコレクション」	石川県博物館協議会	唐澤昌宏（工芸館長）	R2.12.16	石川県立美術館ホール	38
6	「つくり手の言葉から作家（表現）の工芸を考える」	学士会	唐澤昌宏（工芸館長）	R3.3.22	学士会館ホール	41

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	発行者	発行年月日
1.	「Takenobu Igarashi Foundational Years」ほか 7 件	野見山桜（客員研究員）	Thames&Hudson/ Takenobu Igarashi:A to Z	R2.9.22

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	野口光彦の「御所人形」試論	今井陽子（主任研究員）	特別展　こどものかたち：創作人形の力展―平田郷陽・野口光彦を中心に―（岩槻人形博物館）	R2.10.3
2	「想いの造形―和田的の白磁」	唐澤昌宏（工芸館長）	『和田的陶展』図録（髙島屋）	R2.4
3	「東京国立近代美術館工芸館（国立工芸館）のコレクションと活動」	唐澤昌宏（工芸館長）	『陶説』809 号（日本陶磁協会）	R2.9.1
4	「青銅―畠山耕治の金属表現」	唐澤昌宏（工芸館長）	『畠山耕治「青銅」』展図録（髙島屋）	R2.10.7
5	「白磁・青白磁―和田的による想いの造形」	唐澤昌宏（工芸館長）	『陶説』811 号（日本陶磁協会）	R2.11.1
6	特集 コレクターの眼差し―モノの向こうに何を見るか「採集し，再構築する人――杉浦非水のコレクション」	中尾優衣（主任研究員）	『美術フォーラム 21』42 号（一般社団法人 美術フォーラム 21）	R2.12.15

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「国立工芸館開館記念 近代工芸作家の茶道具」（作品解説・分担執筆）	今井陽子（主任研究員）	『淡交』令和 2 年増刊号通巻 926 号（淡交社）	R2.10.15
2	日本伝統工芸展特集記事	唐澤昌宏（工芸館長）	『朝日新聞』（朝日新聞社）	R2.9.15
3	「近代の工芸作家と茶の湯のうつわ」	唐澤昌宏（工芸館長）	『淡交』令和 2 年増刊号通巻 926 号（淡交社）	R2.10.15
4	「国立工芸館開館記念 近代工芸作家の茶道具」（作品解説・分担執筆）	唐澤昌宏（工芸館長）	『淡交』令和 2 年増刊号通巻 926 号（淡交社）	R2.10.15
5	「国立工芸館の石川移転に込めた想い」	唐澤昌宏（工芸館長）	『美術年鑑 2021』（美術年鑑社）	R3.1.1
6	「国立工芸館開館記念 近代工芸作家の茶道具」（作品解説・分担執筆）	北村仁美（主任研究員）	『淡交』令和 2 年増刊号通巻 926 号（淡交社）	R2.10.15
7	工芸とアートのあいだ⑤ 青の氷裂（清水卯一《青瓷大鉢》）	中尾優衣（主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 5 月号（No.785）	R2.4.7

8	工芸とアートのあいだ⑥ 研ぎの魅力（田口善国《水鏡蒔絵水指》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 6 月号（No.786）	R2.5.7
9	工芸とアートのあいだ⑦ 江戸切子の輝き（小林菊一郎《うろこ文切子鉢，小鉢》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 7・8 合併号（No.787）	R2.7.7
10	工芸とアートのあいだ⑧ 花ひらく金工（二代横山彌左衛門（孝純）《菊花文飾壺》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 9 月号（No.787）	R2.8.6
11	工芸とアートのあいだ⑨ 華を纏う（森口華弘《上代紬地友禅菊華文訪問着》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 10 月号（No.789）	R2.9.7
12	近代美術の眼 吉岡堅二《椅子による女》	中尾優衣 （主任研究員）	「読売新聞」令和 2 年 9 月 19 日	R2.9.19
13	工芸とアートのあいだ⑩ 命を生む蒔絵（松田権六《蒔絵竹林文箱》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 11 月号（No.790）	R2.10.7
14	「国立工芸館開館記念 近代工芸作家の茶道具」（作品解説・分担執筆）	中尾優衣 （主任研究員）	『淡交』令和 2 年増刊号通巻 926 号（淡交社）	R2.10.15
15	工芸とアートのあいだ⑪ 躍動する竹（生野祥雲斎《竹華器 怒濤》）	中尾優衣 （主任研究員）	『ミセス』令和 2 年 12 月号（No.791）	R2.11.7
16	アートダイアリー075「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ うちにこんなのあったら展 気になるデザイン×工芸コレクション」	中尾優衣 （主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R2.12.25
17	「国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ うちにこんなのあったら展 気になるデザイン×工芸コレクション」	中尾優衣 （主任研究員）	「新美術新聞」令和 3 年 2 月 11 日号	R3.2.5
18	松田権六《長生の器》	野見山桜 (客員研究員)	読売新聞	R2.10.10
19	展覧会スポットライト「工の芸術―素材・わざ・風土」	花井久穂 （主任研究員）	炎藝術 144 号（阿部出版）	R2.11.1

イ　京都国立近代美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	「これからの博物館に求められる姿」	令和 2 年度博物館長研修基調講演	柳原正樹 （館長）	R2.9.30	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター3 階講堂	50
2	「「共生」の時代における文化施設のあり方について」	CONNECT⇄展 スペシャル鼎談	柳原正樹 （館長）	R2.11.16	京都市京セラ美術館 中央ホール	WEB 配信再生回数：449
3	「もっと知りたい！関西のミュージアム　京のくらし―二十四節気を愉しむ展」	京都新聞 COM・佛教大学四条センター	池田祐子 （学芸課長）	R2. 9. 3	京都新聞 COM	150
4	森口邦彦記念講演会「フランスに留学して」聞き手	京都国立近代美術館	池田祐子 （学芸課長）	R2. 11. 15	京都国立近代美術館 1 階講堂	40
5	ジャポニスム学会 40 周年記念フォーラム「ジャポニスム研究の可能性―歴史と現在」第 2 部第 4 セッション「ジャポニスム研究のこれからと可能性」座長	ジャポニスム学会	池田祐子 （学芸課長）	R3. 2. 21	オンライン	約 110
6	「もっと知りたい！関西のミュージアム　森口邦彦展」	京都新聞総合研究所提携講座	大長智広 （研究員）	R2.11.16	仏教大学	150
7	「ことば」をもった大正時代の建築家たち	京都国立近代美術館	本橋仁 （特定研究員）	R3.1.16	京都国立近代美術館	20(会場)+150(ネット)

8	巨大は細部が宿すか？菊竹清訓の建築を，架構と加工の点から考える	島根県立美術館	本橋仁 （特定研究員）	R3.2.21	島根県立美術館	WEB 配信 再生回数：700

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	発行者	発行年月日
1.	「分離派の誕生―ミュンヘン，ベルリンそしてウィーン」	池田祐子 （学芸課長）	田路貴浩（編）『分離派建築会―日本のモダニズム建築誕生』（京都大学学術出版会）	R2.10.20
2.	「ユーゲントシュティール」「ウィーン工房」「ドイツ工作連盟」	池田祐子 （学芸課長）	石田勇治（編集代表）『ドイツ文化事典』（丸善出版）	R2.10.30
3.	Das Kunstgewerbemuseum Berlin und Japan im Kontext der Gründung des Museums für Ostasiatische Kunst Berlin	池田祐子 （学芸課長）	Yuko Nakama (Hg.), *Kunst in Berlin und der Aufbruch der deutschen Moderne*, Internationales Institut für Sprach- und Kulturstudien, Ritsumeikan Universität, Kyoto	R3.3.21
4.	うつらうつらする技術　20 年代ドイツと 70 年代日本を俯瞰する	本橋仁 （特定研究員）	福島加津也，冨永祥子，本橋仁，佐脇礼二郎（編）『Holz Bau　ホルツ・バウ　近代初期ドイツ木造建築』（ガデン出版）	R2.8
5.	自由無礙なる様式の発見―板垣鷹穂・堀口捨己・西川一草亭	本橋仁 （特定研究員）	田路貴浩（編）『分離派建築会―日本のモダニズム建築誕生』（京都大学学術出版会）	R2.10.30
6.	感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和 2 年度実施報告書	松山沙樹 （特定研究員）	新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会	R3.3.31

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1.	プロモーションからステートメントへ 近代における家具の「選択」可能性の発生と展示手法の関係について	本橋仁 （特定研究員）	『家具道具室内史』12 号，pp.15-33（家具道具室内史学会）	R2.7.31

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「図録用講評」	柳原正樹 （館長）	「第 22 回雪梁舎フィレンツェ賞展」図録（雪梁舎美術館）	R2.8.8
2	「創立 75 周年記念展によせて」	柳原正樹 （館長）	「創立 75 周年記念京都工芸美術作家協会展－煌・KIRAMEKI－」図録巻頭メッセージ（京都工芸美術作家協会）	R3.1.15
3	「京都国立近代美術館のコレクション―三つの特徴と活動指針」	池田祐子 （学芸課長）	『須田記念 視覚の現場』第 3 号（一般財団法人きょうと視覚文化振興財団）	R2.8.30
4	大石早矢香展によせて	大長智広 （研究員）	「大石早矢香」展（京都高島屋）図録（大石早矢香）	R2.6.24
5	連帯の喧伝へのカウンターパンチ	本橋仁 （特定研究員）	『住宅建築』6 月号（建築資料研究社）	R2.6

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「コロナと美術力」	柳原正樹 （館長）	新美術時評（新美術新聞 No.1539）	R2.6.21

2	「芸術が活性化への起爆剤」	柳原正樹 （館長）	京都のメディアがつなぐ「未来のコンパス Project」「新たな可能性」特集（京都新聞朝刊）	R2.8.2
3	「展覧会によせてー老当益壮の美ー」	柳原正樹 （館長）	今井政之卒寿展（新美術新聞 No.1547）	R2.9.21
4	「停止した美術界」	柳原正樹 （館長）	新美術時評（新美術新聞 No.1547）	R2.9.21
5	「丑年に想うこと」	柳原正樹 （館長）	会報誌「ぶんか」2021　1 月号 第 621 号（富山県民会館文化友の会）	R2.12.27
6	「凍てつく絵画」	柳原正樹 （館長）	新美術時評（新美術新聞 No.1560）	R3.2.21
7	インタビュー原稿（タイトルなし）	柳原正樹 （館長）	広報誌「藝文とやま」（一般社団法人富山芸術文化協会）	R3.3
8	「上野リチ・リックス」	池田祐子 （学芸課長）	『CONFORT 建築とテキスタイル　特集：もっとテキスタイル』No. 176，2020 年 12 月号	R2.12.1
9	展覧会レビュー	平井啓修 （主任研究員）	毎日新聞	R2.5.27～ R3.4.7
10	「絹谷幸二の思想と作品」	平井啓修 （主任研究員）	『毎日新聞』夕刊	R3.3.17
11	「茶席でよく見る　絵掛物の画家」	平井啓修 （主任研究員）	『淡交テキスト「絵の掛物」』（淡交社）	R3.1.1， 2.1，3.1
12	アートダイアリー73「人間国宝 森口彦　友禅／デザイン交差する自由へのまなざし」	大長智広 （研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R2.11.13
13	触知の世界へ　新宮さやかの現在	大長智広 （研究員）	「新宮さやか」展リーフレット（目黒陶芸館）	R2.12.6
14	植葉香澄展によせて	大長智広 （研究員）	「植葉香澄 ZEPHYR」展リーフレット（アートフロントギャラリー）	R3.1.13
15	建築設計事務所になった コンクリートブロックの家	本橋仁 （特定研究員）	『TOTO 通信』2020 年秋号（TOTO）	R2.10
16	ナンバーC-17 の家を探しに	本橋仁 （特定研究員）	京都新聞	R2.3.6
17	新しい世界にふれる鑑賞プログラム 京都国立近代美術館「感覚をひらく」事業から	松山沙樹 （特定研究員）	『ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol.18』（全国美術館会議）	R2.9.1

ウ　国立映画アーカイブ

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名 （職名）	日付	場所	聴講者数 （人）
1	ジャン・ドゥーシェ，ある映画批評家の肖像	アンスティチュ・フランセ東京	岡田秀則 （主任研究員）	R2.7.19	アンスティチュ・フランセ東京	50
2	Prevention and Management of Natural and Human Disasters in Film Archives: Natural Disasters (Day 2 Session)	国際フィルムアーカイブ連盟（FIAF）	岡島尚志 （館長）	R2.9.29	オンライン・シンポジウム	300
3	ミシェル・ピコリ追悼特集トーク	アンスティチュ・フランセ横浜	岡田秀則 （主任研究員）	R2.10.11	アンスティチュ・フランセ横浜	40
4	Visual Archives: Ethics and Best Practices	Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development	岡島尚志 （館長）	R2.10.22	オンライン・セミナー	100
5	松竹映画 100 年 松竹京都の歴史	第 12 回京都ヒストリカ国際映画祭	大澤浄 （主任研究員）	R2.10.23～ 11.15	（オンライン動画）	225

6	4K8K 時代の映像アーカイブ	公益社団法人 映像文化製作者連盟	三浦和己 （主任研究員）	R2.10.26	オンライン（凸版印刷株式会社 本所事業所）	60
7	マキノ映画における京都の花街・舞妓表象　―万博から「祇園小唄 繪日傘 第一話 舞ひの袖」(1930)へ―	「大正期京都のロマン主義―吉井勇・花街・国展・映画」シンポジウム	冨田美香 （主任研究員）	R2.11.7	京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室	30
8	Multiple versions of Silent Films: Unstable concept of“Original”	Saving Memory:Making Silent Films Talk to Us	大傍正規 （主任研究員）	R2.12.4	14th International Silent Film Festival Manila Online Webinar	50
9	演劇博物館所蔵「大正・昭和初期映画館チラシ」のカタロギングと研究活用：国立映画アーカイブの事例と比較して	早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点公募研究課題「映画宣伝資料を活用した無声映画興行に関する基礎研究」	佐崎順昭 （客員研究員）	R2.12.23	早稲田大学早稲田キャンパス 6 号館 2 階会議室	3
10	国立映画アーカイブにおけるコレクション形成ー映画フィルムの整理と目録作成を行う意義について	映画の復元と保存に関するオンラインワークショップ 2021	大傍正規 （主任研究員）	R3.1.23	オンライン	350
11	映画監督田中絹代と彼女の作品：同時代の評価より	한국영상자료원　영화강좌 (韓国映像資料院　映画講座)	冨田美香 （主任研究員）	R3.2.19	オンライン	902
12	①「映画資料の魅力～映画宣材は如何にして生まれるか？」 ②「映画資料をめぐる現状とその課題―全国ネットワーク化に向けて」	全国映画資料アーカイブサミット 2021	岡田秀則 （主任研究員）	R3.3.2	オンライン	250
13	演劇博物館所蔵「大正・昭和初期映画館チラシ」が埋める無声映画史の隙間	早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点公募研究課題「映画宣伝資料を活用した無声映画興行に関する基礎研究」	岡田秀則 （主任研究員）	R3.3.11	オンライン	25

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	発行者	発行年月日
1	From Travel to Digitisation: Scattered Thoughts on the Virus Age and the Film Archive	岡島尚志 （館長）	Journal of Film Preservation No. 103 (International Federation of Film Archives)	R2.10
2	「映画からテレビまで，現像を支えた東洋現像所　現像技師奥村朗，須佐見成」	冨田美香 （主任研究員）	谷川建司編『映画人が語る　日本映画史の舞台裏』（森話社，2020）	R2.10
3	Fuji	岡田秀則 （主任研究員）	Physical Characteristics of Early Films as Aids to Identification, New Expanded Edition (Fédération Internationale des Archives du Film)	R2.12

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	レヴュー　中村秀之著『暁のアーカイヴ――戦後日本映画の歴史的経験』	大澤浄 （主任研究員）	『映像学』第 104 号	R2.7.1
2	「甦った世界の映画　フランス」	岡田秀則 （主任研究員）	『甦った世界の映画』（神戸映画アーカイブ実行委員会）	R2.12.1

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「映画は小さかった 観客とスクリーンのあいだ」	岡田秀則（主任研究員）	「てんとう虫／express」（UCカード）	R2.10.1
2	日本映画の重要史料探せ　初文献の完本や初公開の地の写真発見	本地陽彦（客員研究員）	「日本経済新聞」	R2.10.17
3	「 NOBODY 全号解説　NOBODY 第 30 号」	玉田健太（特定研究員）	『NOBODY』第 48 号	R2.10.31
4	「イーストウッドをフィルムで見よう！」	玉田健太（特定研究員）	『芸術新潮』第 851 号	R2.11.25
5	「《現実》と《虚構》を切り返す―アーカイバル・ドキュメンタリーの最前線」	岡田秀則（主任研究員）	「キネマ旬報」2020 年 12 月上旬号（キネマ旬報社）	R2.12.1
6	作品解説「折鶴お千」「団栗と椎の実」「鴎／海燕」	佐崎順昭（客員研究員）	「甦った世界の映画」（神戸映像アーカイブ実行委員会）	R2.12.1
7	作品解説「黄金の弾丸」	佐崎順昭（客員研究員）	「甦った神戸の映画『黄金の弾丸』 オンライン配信」（神戸映像アーカイブ実行委員会）	R2.12.11
8	アートダイアリー76「中国映画の熱い歴史」	大澤浄（主任研究員）	「文化庁広報誌 ぶんかる」（文化庁）（Web）	R3.1.29
9	書評「活動写真弁史」	岡田秀則（主任研究員）	「日本経済新聞」	R3.1.30
10	「インタビュー 檜垣紀六」	岡田秀則（主任研究員）	「キネマ旬報」2021 年 2 月下旬号（キネマ旬報社）	R3.2.15
11	作品解説「忠臣蔵」	入江良郎（主任研究員）	京都映画賞創設記念・二条城撮影所誕生 111 周年記念　活動写真弁士による「最古の『忠臣蔵』特別上映会」	R3.3.21

エ　国立西洋美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	国立西洋美術館と盲学校の鑑賞活動について	令和２年度　第５回全国盲学校　図工・美術研究会	松尾由子（特定研究員）	R2.8.7	オンライン ZOOM	50
2	「膠着剤について」	アフガニスタン仏頭に関する研究会	高嶋美穂（特定研究員）	R2,9.29	東京芸術大学、オンライン開催	50
3	「彩色材料について」	アフガニスタン仏頭に関する研究会	高嶋美穂（特定研究員）	R2,9.29	東京芸術大学、オンライン開	50
4	「日本人にとってのジャポニスム」	ジャポニスム学会（40 周年記念フォーラム）	馬渕明子（館長）	R3.2.21	オンライン開催	272

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「口頭 11　クロード・モネ作 ≪睡蓮，柳の反映≫ における材料・技法についての科学的調査」	高嶋美穂（特定研究員）	『文化財保存修復学会第 42 回大会研究発表集』（文化財保存修復学会第 42 回大会実行委員会）	R2.7.10

【査読有り】論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1.	“Millais as a Sartorialist: Costuming and Dressing in the Early Works by John Everett Millais”	浅野菜緒子（特定研究員）	『ヴィクトリア朝文化研究』第 18 号（日本ヴィクトリア朝文化研究学会）	R2.11.20
2.	「ピーテル・ブリューゲル（父）作《サウロの回心》――同時代事件の投影という視点より」	中田明日佳（主任研究員）	『京都美術史学』2 月号（京都美術史学会）	R3.3.1

【査読無し】論文掲載				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「IFLA ダブリン大会へのおさそい(2)40 年を迎える美術図書館分科会 」	川口雅子 （主任研究員）	『図書館雑誌』114 巻 5 号	R2.5.20
2	「脱コード化をもとめてきた着衣たち，それでも再コード化を欲する展覧会のゲーム――パンデミック下の（ドレス・）コードのなかで」	新藤淳 （主任研究員）	『Fashion Talks...』［服飾研究］第 12 号（公益財団法人京都服飾文化研究財団）	R2.11.11
3	「海外博物館だより「大英博物館における保存修復マネジメント・システム」	邊牟木尚美 （主任研究員）	『博物館研究　第 56 巻　第 2 号』（公益財団法人　日本博物館協会）	R3.1.25
4	「三菱一号館美術館の 10 年とジャポニスム」	馬渕明子 （館長）	三菱一号館美術館の 10 年（三菱一号館美術館）	R3.4
5	「失われた松方コレクションのマティスの行方―アンリ・マティス《ニース郊外の風景》（姫路市立美術館）の来歴調査報告」	陳岡めぐみ （主任研究員）	『姫路市立美術館研究紀要』令和 2 年度	R3.3.31
その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表				
	タイトル	執筆者氏名 （職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「表現の自由」とは何か	馬渕明子 （館長）	美術手帖 4 月号（美術出版社）	R2.4.1
2	「ピカソ略年表」	久保田有寿 （特定研究員）	「作家ピカソ」展図録（インスティトゥト・セルバンテス東京）	R2.4
3	「名画」の理由　展覧会を深く楽しむための 5 章	川瀬佑介 （主任研究員）	『芸術新潮』2020 年 4 月号(新潮社)	R2.4.25
4	「新美術時評」	馬渕明子 （館長）	新美術新聞（美術年鑑社）	R2.4～隔月連載
5	「内藤コレクション展 II　中世からルネサンスの写本祈りと絵」	中田明日佳 （主任研究員）	『うえの』5 月号（上野のれん会）（Web）	R2.5.1
6	緊急寄稿シリーズ　新型コロナウイルスと美術の現場 02 問われる展覧会の「今後」	川瀬佑介 （主任研究員）	『芸術新潮』2020 年 6 月号(新潮社)	R2.5.25
7	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展	川瀬佑介 （主任研究員）	『うえの』6 月号（上野のれん会）（web）	R2.6.1
8	「諏訪敦のオレたち静物画探検隊　第 2 回　静物ヲ考ヘル」	渡辺晋輔 （学芸課長）	『芸術新潮』2020 年 7 月号（新潮社）	R2.6.25
9	「芸術が訴える「偏見」に気付ける？ アートキュレーターと考える Black Lives Matter と多様性」	浅野菜緒子 （特定研究員）	「ELLEgirl」（ハースト婦人画報社）（Web）	R2.6.30
10	常設展示室特集展示　松方コレクションとイギリス美術	袴田紘代 （主任研究員）	『うえの』7 月号（上野のれん会）（web）	R2.7.1
11	「内藤コレクション III 写本彩飾の精華　天に捧ぐ歌，神の理」	中田明日佳 （主任研究員）	『うえの』8・9 月号（上野のれん会）（Web）	R2.8.1
12	「西美式　名画の見かた」	渡辺晋輔 （学芸課長）	『女性のひろば』2020 年 11 月号（日本共産党中央委員会）	R2.10.3
13	「生まれ変わる国立西洋美術館－休館のお知らせ」	馬渕明子 （館長）	「うえの」11 月号（上野のれん会）（Web）	R2.11.1
14	ロンドン・ナショナル・ギャラリー展出品作の額縁	川瀬佑介 （主任研究員）	『国立国際美術館ニュース』239 号	R2.11. 1
15	「部会報告 情報・資料研究部会」	川口雅子 （主任研究員）	『Zenbi　全国美術館会議機関誌』vol. 19	R3.3.1

オ　国立国際美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	「形なき作品の収蔵は美術館をどう変えるか」	国立民族学博物館共同研究（若手）「感性と制度のつながり――芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	橋本梓（主任研究員）	R2.5.31	オンライン開催	20

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「もの，こと，わけ―そこに「ある」作品と「おこる」作品」	橋本梓（主任研究員）	丸善出版『美学の事典』	R2.12.25

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「THEY DO NOT UNDERSTAND EACH OTHER」	植松由佳（主任研究員）	「THEY DO NOT UNDERSTAND EACH OTHER」展冊子（大館美術館，香港）	R3. 5.25
2	「資源化せよ」	橋本梓（主任研究員）	美術手帖（美術出版社）	R3.3.5

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	アートダイアリー 069「ヤン・ヴォー ーォヴ・ンヤ」展	植松由佳（主任研究員）	「文化庁広報誌　ぶんかる」（文化庁）（Web）	R.3.5.7
2	選ばないことを選ぶ―「芦屋の時間 大コレクション展」	福元崇志（主任研究員）	『大阪日日新聞』	R2.10.27
3	ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻―マルチプルという手段	福元崇志（主任研究員）	『ドイツ文化事典』丸善出版	R2.11.4
4	ゲルハルト・リヒターの絵画―イメージの原点を問う	福元崇志（主任研究員）	『ドイツ文化事典』丸善出版	R2.11.4
5	ベッヒャー夫妻とその遺産―戦後ドイツ写真の趨勢	福元崇志（主任研究員）	『ドイツ文化事典』丸善出版	R2.11.4
6	版画的に描くということ–大八木夏生の場合	福元崇志（主任研究員）	『OYAGI Natsuki Works 2018-2020』	R2.11.30
7	KAVC レビュー：『ピンボケの影像』	福元崇志（主任研究員）	『ART VILLAGE VOICE』vol.95，神戸アートビレッジセンター	R2.12.28
8	薬師川千晴	福元崇志（主任研究員）	『VOCA 展 2021 現代美術の展望―新しい平面の作家』「VOCA 展」実行委員会	R3.3.12
9	ページめくれば 池澤夏樹著「スティル・ライフ」	山梨俊夫（館長）	『京都新聞　朝刊』	R2.4.12
10	とらのもん往来	山梨俊夫（館長）	『週刊文教ニュース』	R2.6.1
11	美術館のいま（1）	山梨俊夫（館長）	『アートエリアＢ1 オンラインプログラム』	R2.6.20
12	美術館っておもしろい	山梨俊夫（館長）	『東京新聞』	R2.7.4
13	「あいちトリエンナーレの電凸対策に学ぶ」	山梨俊夫（館長）	『ZENBI 全国美術館会議機関誌』vol.18	R2.9.1
14	Museum Talk 2020	山梨俊夫（館長）	『Museum Talk 2020』	R2.9.2

カ　国立新美術館

A. 学会等発表

	タイトル	学会等名	発表者氏名（職名）	日付	場所	聴講者数（人）
1	「第3部 アーカイヴ／コレクションのためのデータベース」（コメンテーター）	第 3 回 多摩美術大学アートアーカイヴシンポジウム「メディウムとしてのアートアーカイヴ」	谷口英理（特定研究員）	R2.12.5	多摩美術大学	300
2	「長谷川三郎の写真資料」／「質疑・意見交換」	オンラインシンポジウム「画家の写真資料　保存と情報共有の実際」	谷口英理（特定研究員）	R3.1.30	福沢一郎記念館	45
3	絵画画像のデジタル的な「復元」に関する計量的考察	日本色彩学会第 51 回全国大会	室屋泰三（主任研究員）	R2.6.27	京都工芸繊維大学	—
4	再帰的 2 分割による階段関数系を用いた絵画画像群のクラスター分析	日本色彩学会令和 2 年度研究会大会	室屋泰三（主任研究員）	R2.12.12	オンライン	100
5	絵画画像の特徴的色彩領域に基づく再帰的階段関数系による色彩分析の予備的試行	日本色彩学会画像色彩研究会令和 2 年度研究発表会	室屋泰三（主任研究員）	R3.3.13	国立新美術館／オンライン	11

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍，研究報告書等の発行

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「長谷川三郎における〈前衛〉と〈伝統〉の接続―モダン・フォトグラフィ的視覚言語を経由した抽象表現―」	谷口英理（特定研究員）	『さまよえる絵筆―東京・京都戦時下の前衛画家たち』（みすず書房）	R3.2.26

【査読有り】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	「クロード・モネとオクターヴ・ミルボー：国際絵画展からモネ・ロダン合同展の美術批評をめぐって(1884-1889年)」	亀田晃輔（研究補佐員）	『日仏美術学会会報』第 39 号	R2.10.1

【査読無し】論文掲載

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	絵はがきを視覚資料として読み解く：セメント彫刻《楊柳観音》の制作から撤去まで	坂口英伸（アソシエイトフェロー）	『美術運動史研究会ニュース』第 183 号（美術運動史研究会）	R2.12.20

その他（研究志向の薄い機関紙，美術雑誌，新聞，ウェブサイト等）の発表

	タイトル	執筆者氏名（職名）	掲載誌名（発行者）	発行年月日
1	湿度，照明…古今の展示環境の違いに苦心　「古典×現代2020」展実現までの軌跡	長屋光枝（学芸課長）	朝日新聞 Re ライフ.net (Web)	R2.7.15
2	時を超える対話	長屋光枝（学芸課長）	『美術の窓』8 月号（生活の友社）	R2.7.20
3	佐藤可士和さんのクリエイティブディレクションの驚異――展覧会はどこまで続く?!	宮島綾子（主任研究員）	朝日新聞 Re ライフ.net (Web)	R3.3.17
4	「第 54 回教育普及研究部会会合報告」	吉澤菜摘（主任研究員）	「全国美術館会議ホームページ」（全国美術館会議）（Web）	R3.3.22

別表 11　所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア　東京国立近代美術館			
（国立工芸館）			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「国立工芸館へようこそ」	開催年月日	令和 2 年 12 月 8 日（火）
場所	金沢市生涯学習センター	聴講者数	30 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：今井　陽子（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）		
内容	国立工芸館所蔵の工芸作品を紹介しながら，工芸作品の鑑賞の本質とその可能性について検証。一部ワークショップ形式をとり，参加者の能動的な鑑賞意を引き出すことを試みた。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「国立工芸館とコレクション」	開催年月日	令和 2 年 12 月 16 日（水）
場所	石川県立美術館ホール	聴講者数	38 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸館長）		
内容	国立工芸館のコレクションの特徴を紹介した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	石川県立九谷焼研究所　研修会	開催年月日	令和 2 年 11 月 27 日（金）
場所	多目的室	聴講者数	14 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：花井　久穂（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）		
内容	「工の芸術」展の出品作品を中心に，板谷波山・富本憲吉と九谷の関わりについてレクチャーした。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	石川県在名企業産業交流研究会「工芸作品の石川からの全国発信」	開催年月日	令和 3 年 2 月 24 日（水）
場所	国立工芸館　多目的室	聴講者数	23　人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：花井　久穂（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）		
内容	国立工芸館開館記念展の立ち上げについて。「工芸作品の石川からの全国発信」をテーマに，基本理念と新しいロゴ・広報印刷物・図録制作のビジュアルデザインの考え方をレクチャーした。		
イ　国立国際美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「They Do Not Understand Each Other」展関連オンラインイベント「Curator and Artists' Talk: Trust in the Public」	開催年月日	令和 2 年 8 月 8 日（土）
場所	オンライン	聴講者数	聴講者数不明
講師・パネリスト等の氏名（職名）	植松由佳（主任研究員），高山明（アーティスト，出品作家），関川航平（アーティスト，出品作家）		
内容	大館美術館（香港）で開催された「They Do Not Understand Each Other」展に関連し，企画者である植松由佳（主任研究員）と同展出品作家・高山明，関川航平によるオンライン・イベントを開催した。		

別表 12　シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア　東京国立近代美術館			
（本館）			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	ピーター・ドイグ　トークイベント	開催年月日	令和 2 年 9 月 28 日（月）～
場所	東京国立近代美術館講堂において無観客で開催されたトークイベントをオンライン配信	聴講者数	集計不可
講師・パネリスト等の氏名（職名）	出演者：ピーター・ドイグ（作家） ゲスト：小野正嗣（小説家）		

内容	小説家の小野正嗣氏をゲストに招き，作家本人によるトークイベントを開催した。		
イ　京都国立近代美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	森口邦彦先生 友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし 特別講演会	開催年月日	令和２年 10 月 30 日（金） 令和２年 11 月 27 日（金）
場所	京都国立近代美術館　１階　講堂	聴講者数	65 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：森口邦彦		
内容	展覧会「森口邦彦 友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」の関連イベントとして，THE COMPE きものと帯実行委員会との共催により，森口邦彦氏を講師に迎え講演会を実施した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	記念講演会「フランスに留学して」	開催年月日	令和２年 11 月 15 日（日）
場所	京都国立近代美術館　１階　講堂	聴講者数	36 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：森口邦彦 聞き手：池田祐子（当館学芸課長）		
内容	展覧会「森口邦彦 友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」の関連イベントとして，森口邦彦氏を講師に迎え，当館池田学芸課長を聞き手として講演会を実施した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	記念講演会「伝統に想うこと」	開催年月日	令和２年 11 月 22 日（日） 令和２年 11 月 23 日（月）
場所	京都国立近代美術館　１階　講堂	聴講者数	80 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	講師：森口邦彦 聞き手：生田ゆき（文化庁文化財調査官）		
内容	展覧会「森口邦彦 友禅／デザイン―交差する自由へのまなざし」の関連イベントとして，森口邦彦氏を講師に迎え，文化庁文化財調査官の生田ゆき氏を聞き手として講演会を実施した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	シンポジウム「分離派建築会 ― モダニズム建築への道程」	開催年月日	令和３年１月９日（土）
場所	京都国立近代美術館　１階　講堂	聴講者数	23 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	登壇者：田路貴浩（京都大学教授），足立裕司（神戸大学名誉教授），加藤耕一（東京大学教授），梅宮弘光（神戸大学教授）		
内容	展覧会「分離派建築会 100 年 建築は芸術か？」の関連イベントとして，京都大学教授の田路貴浩氏，神戸大学名誉教授の足立裕司氏，東京大学教授の加藤耕一氏，神戸大学教授の梅宮弘光氏を迎え，シンポジウムを実施した。		
ウ　国立映画アーカイブ			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント ピクチャレスク・ジャパン――世界が見た明治の日本――」	開催年月日	令和２年 10 月 24 日（土）～ 令和２年 10 月 25 日（日）
場所	国立映画アーカイブ　長瀬記念ホール OZU	聴講者数	381 人
講師・パネリスト等の氏名（職名）	小松弘（早稲田大学文学学術院教授）「ピクチャレスク・ジャパン ―映画を通した外からのまなざし―」 平野正裕（元横浜開港資料館･横浜市史資料室員）「『日本の祭　横浜開港五十年祭』について」 森岡健治（平取町立二風谷アイヌ文化博物館長）「『日本のアイヌ』の映像について」 大島幹雄（サーカス学会会長）「1914 年日本の軽業師たち ―ヨーロッパで活躍していた日本人軽業師・ 曲芸師たち群像―」		
内容	上映作品についての論考。		
エ　国立新美術館			
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業　連続ウェビナー 「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー 第１回：美術分野におけるコロナ以降の海外発信，国際交流とは？	開催年月日	令和２年８月７日（金）
場所	国立新美術館　３階講堂（オンライン配信）	聴講者数	415 人（ライブ視聴者数） （見逃し配信再生回数：324 回）

講師・パネリスト等の氏名（職名）	ペーター・アンダース（ゲーテ・インスティトゥート東京所長） ジュード・チェンバース（クリエイティブ・ニュージーランド国際事業部長） 湯浅真奈美（ブリティッシュ・カウンシル アーツ部長） モデレーター：片岡真実（森美術館 館長／日本現代アート委員会 座長）		
内容	新型コロナウィルス感染症によるパンデミックを受けて，世界の美術館のほとんどが臨時休館を余儀なくされ，感染症防止体制を整備しての再開以降も，国境をまたぐ活動についてはしばらく制限が続くことが予想されている。「文化庁アートプラットフォーム事業」の目的でもある自国作家の海外発信は，諸外国においても重要な文化政策のひとつであり，コロナ以降の海外発信や国際交流はどのような形になるのかについて，ドイツ，イギリス，ニュージーランドの文化施策担当者と議論した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業　連続ウェビナー 「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー 第２回：「コロナ以降」の国際展とは？	開催年月日	令和２年９月 10 日（木）
場所	国立新美術館　３階講堂（オンライン配信）	聴講者数	202 人（ライブ視聴者数） （見逃し配信再生回数：234 回）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	藤川哲（山口大学 人文学部 教授） ユン・マ（ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ アーティスティック・ディレクター） 逢坂恵理子（国立新美術館 館長／横浜トリエンナーレ 組織委員会 副委員長） モデレーター：植松由佳（国立国際美術館 主任研究員／日本現代アート委員会 副座長）		
内容	アーティストや関係者の渡航，リサーチ，レジデンス，輸送・展示設営，さらには地域コミュニティとの交流などが前提となる国際展は，「コロナ以降」，そのあり方を変えていくことが予想される。この状況は，国際展の開催意義そのものについても再考を促すことにもなり，現在進行形での模索や試行が続く中，行政，各機関，またアーティストや美術関係者が様々な問題に直面している内容について，国内外の国際展関係者や研究者が議論した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	東京国際映画祭×MANGA 都市 TOKYO 展　対談「東京の中のアニメ／アニメの中の東京」	開催年月日	令和２年 10 月４日（日）～ 令和２年 11 月９日（月）
場所	オンライン配信（東京国際映画祭公式 YouTube にて）	聴講者数	1032 回視聴
講師・パネリスト等の氏名（職名）	司会：数土直志（ジャーナリスト） パネリスト：森川嘉一郎（明治大学准教授，MANGA 都市 TOKYO 展ゲストキュレーター）， 藤津亮太（アニメ評論家，東京国際映画祭ジャパニーズ・アニメーション部門プログラミング・アドバイザー）		
内容	MANGA 都市 TOKYO 展と同時期に開催されていた東京国際映画祭とのコラボレーションウェビナーとして配信した。展覧会と映画祭のジャパニーズ・アニメーション部門のそれぞれが目指したものを共有し，アニメーションの舞台としての都市/東京の表現の可能性，キャラクターと都市の関係に見る特徴，東京都と地方，東京と世界の今後について幅広く討議した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業　連続ウェビナー 「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー 第３回：「コロナ以降」の展覧会づくりとは？	開催年月日	令和２年 10 月 29 日（木）
場所	国立新美術館　３階講堂（オンライン配信）	聴講者数	184 人（ライブ視聴者数） （見逃し配信再生回数：197 回）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	原田真由美（読売新聞西部本社事業推進室長） 村田大輔（カンザス大学美術史学部博士課程） 横山由季子（金沢 21 世紀美術館学芸員） モデレーター：成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員／日本現代アート委員会委員）		
内容	コロナ禍によるソーシャルディスタンスの確保は美術館の展覧会製作・運営の現場にも新しいチャレンジを求めることとなった。とりわけ美術館や主催者の主要収入源のひとつでもあるチケット収入が，入場者数の制限により減少することが想定され，ブロックバスターと呼ばれる大量動員型の展覧会ではその収支構造に既に多大な影響を及ぼしている。このことは，日本の美術館・博物館の歴史において独自に発展してきた，マスコミ各社との共同で展覧会をつくるというあり方も浮き彫りにしている。「コロナ以降」も持続可能な展覧会づくりとは，どのようなビジネスモデルなのか，海外の美術館のようにコレクションをうまく活用し，常設展を主眼とした美術館の可能性も含め，美術館における展覧会製作に携わる専門家が議論した。		

ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業　連続ウェビナー 「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー 第４回：「コロナ以降」の美術とは？アーティストの視点から見る表現・支援の課題	開催年月日	令和 2 年 12 月 4 日（金）
場所	国立新美術館　講堂（オンライン配信）	聴講者数	148 人（ライブ視聴者数） （見逃し配信再生回数：202 回）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	川久保ジョイ（アーティスト） 向井山朋子（ピアニスト／アーティスト） 若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任准教授） モデレーター：大舘奈津子（芸術公社／一色事務所／日本現代アート委員会 委員）		
内容	コロナ禍がもたらしたニューノーマルの中，作品の展示を可能にする美術館やギャラリーという場の物理的な制限，作品輸送や渡航制限など国境を越えた人と物の移動に対する制限は，具体的な表現にどのような影響を及ぼすのか。また，コロナ禍が明らかにしたグローバル化や新自由主義が浸透した経済的・社会的構造の脆弱さは，格差社会や人種差別といった既存課題を急速に浮き彫りにし，さらには気候変動問題に向けた国際社会の対応も急務となっている。今回，世界を数か月で変えたパンデミックは，これからの美術表現にどのように反映されていくのか。また，こうしたアーティストの活動を持続可能にする支援方法とは何かなど，アーティストの視点を中心に議論した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	文化庁アートプラットフォーム事業　連続ウェビナー 「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー 第５回：「コロナ以降」の美術とは？新たな批評性の展開	開催年月日	令和 3 年 1 月 28 日（木）
場所	SAAI Wonder Working Community（有楽町）	聴講者数	282 人（ライブ視聴者数） （見逃し配信再生回数：134 回）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	ジーベシュ・バグチ（アーティスト／ラクス・メディア・コレクティブ） ホー・ツーニエン（アーティスト） ヒト・シュタイエル（アーティスト） モデレーター：アンドリュー・マークル（ライター／編集者／日本現代アート委員会 委員）		
内容	前回のアーティストによる議論に続き，コロナ禍が明らかにしたグローバル化や新自由主義が浸透した世界の経済的・社会的構造の変化について掘り下げ，国際情勢の様々な動きにより浮き彫りとなった社会構造と文化施設の関係性や，そこから私たちが学べること，さらにはコロナ禍がそれらの動きにもたらす影響や文化芸術機関が抱える課題について，国際的な視点から議論した。		
ｾﾐﾅｰ･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名	「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」　トークイヴェント	開催年月日	令和 3 年 3 月 21 日（日）
場所	国立新美術館　講堂／オンライン配信	聴講者数	40 人（講堂） 40 人（ライブ視聴者数） （YouTube 再生回数：604 回 3 月 24 現在）
講師・パネリスト等の氏名（職名）	丸龍文人（FUMITO GANRYU デザイナー） 山縣良和（writtenafterwards デザイナー／coconogacco 代表） 栗野宏文（ユナイテッドアローズ上級顧問クリエイティブディレクション担当）		
内容	日本博との共催で「ファッション イン ジャパン 1945-2020―流行と社会」のプレイヴェントとして 3 月 16 日に国立新美術館でファッションショーを合同開催した二人のデザイナーに，ショーの意図や両者のこれからの展望を聞いた（展覧会は 3 月 20 日に島根県立石見美術館で開幕）。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため，抽選で若干名の聴講者を迎えつつ，YouTube のライブ配信および録画により幅広く公開した。		

別紙

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

Ⅰ 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術（映画を含む）に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。
以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 令和2年度における役員報酬についての業績反映のさせ方（業績給の仕組み及び導入実績を含む。）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。 令和2年度においては、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

③ 役員報酬基準の内容及び令和2年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額（965,000円）及び地域手当（俸給月額の10％）の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の170、12月に支給する場合においては100分の165を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。
令和2年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き下げ（年間0.05ヶ月分）を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額（761,000円）及び地域手当（東京都特別区20％）の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の170、12月に支給する場合においては100分の165を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。
令和2年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き下げ（年間0.05ヶ月分）を実施した。

理事（非常勤）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和2年度においては改定は行っていない。

監事（非常勤）

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。なお、令和2年度においては改定は行っていない。

2　役員の報酬等の支給状況

役名	令和2年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
		報酬（給与）	賞与	その他（内容）	就任	退任	
法人の長	千円 18,513	千円 11,580	千円 5,075	千円 1,158（地域手当） 147（通勤手当） 552（単身赴任手当）			
A理事	千円 15,485	千円 9,132	千円 4,308	千円 1,826（地域手当） 219（通勤手当）			◇
B理事（非常勤）	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0（　　）			
C理事（非常勤）	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0（　　）			
A監事（非常勤）	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0（　　）			
B監事（非常勤）	千円 1,440	千円 1,440	千円 0	千円 0（　　）			

注1：「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。
注2：「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。
　　退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「＊※」、該当がない場合は空欄

3　役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術（映画を含む。）に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。
そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。
また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額（2,337万円）と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額（約1,800万円）とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額（約1,500万円）とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事（非常勤）

理事（非常勤）については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の理事（非常勤）の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事（非常勤）

監事（非常勤）については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事（非常勤）の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員の報酬水準は妥当であると考えられる。

4　役員の退職手当の支給状況（令和元年度中に退職手当を支給された退職者の状況）

区分	支給額（総額）	法人での在職期間		退職年月日	業績勘案率	前職
法人の長	千円 該当なし	年	月			
理事	千円 該当なし	年	月			
理事 （非常勤）	千円 該当なし	年	月			
監事 （非常勤）	千円 該当なし	年	月			

注：「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
　　退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後
　　独立行政法人等の退職者「＊※」、該当がない場合は空欄

5　退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

区分	判断理由
法人の長	該当なし
理事	該当なし
理事 （非常勤）	該当なし
監事 （非常勤）	該当なし

注：「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6　業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

Ⅱ 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方（業績給の仕組み及び導入実績を含む。）

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

給与種目	制度の内容
俸給月額（昇格）	従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。
俸給月額（昇給）	昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。
賞与：勤勉手当（査定分）	基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合（成績率）に基づき支給される。

③ 給与制度の内容及び令和2年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当（扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当）としている。
期末手当については、期末手当基準額（俸給＋扶養手当＋地域手当＋役職段階別加算額＋管理職加算額）に、6月に支給する場合においては100分の130、12月に支給する場合においては100分の125を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。
勤勉手当については、勤勉手当基準額（俸給＋地域手当＋役職段階別加算額＋管理職加算額）に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。
また、令和2年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、期末手当支給率の引き下げ（年間0.05ヶ月分）、③扶養手当額および住居手当額の改定等を実施した。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

区分	人員	平均年齢	令和2年度の年間給与額（平均）			
			総額	うち所定内	うち通勤手当	うち賞与
常勤職員	人 90	歳 44.6	千円 7,805	千円 5,777	千円 149	千円 2,028
事務・技術	人 41	歳 39.5	千円 6,139	千円 4,531	千円 165	千円 1,608
研究職種	人 49	歳 48.8	千円 9,199	千円 6,820	千円 135	千円 2,379
技能・労務職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
任期付職員	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
指定職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
再任用職員	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
研究職種	人 －	歳 －	千円 －	千円 －	千円 －	千円 －
非常勤職員	人 34	歳 43.4	千円 5,755	千円 5,697	千円 146	千円 58
事務・技術	人 15	歳 48.2	千円 5,060	千円 4,929	千円 133	千円 131
研究職種	人 19	歳 39.7	千円 6,304	千円 6,304	千円 156	千円 0

注1：常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

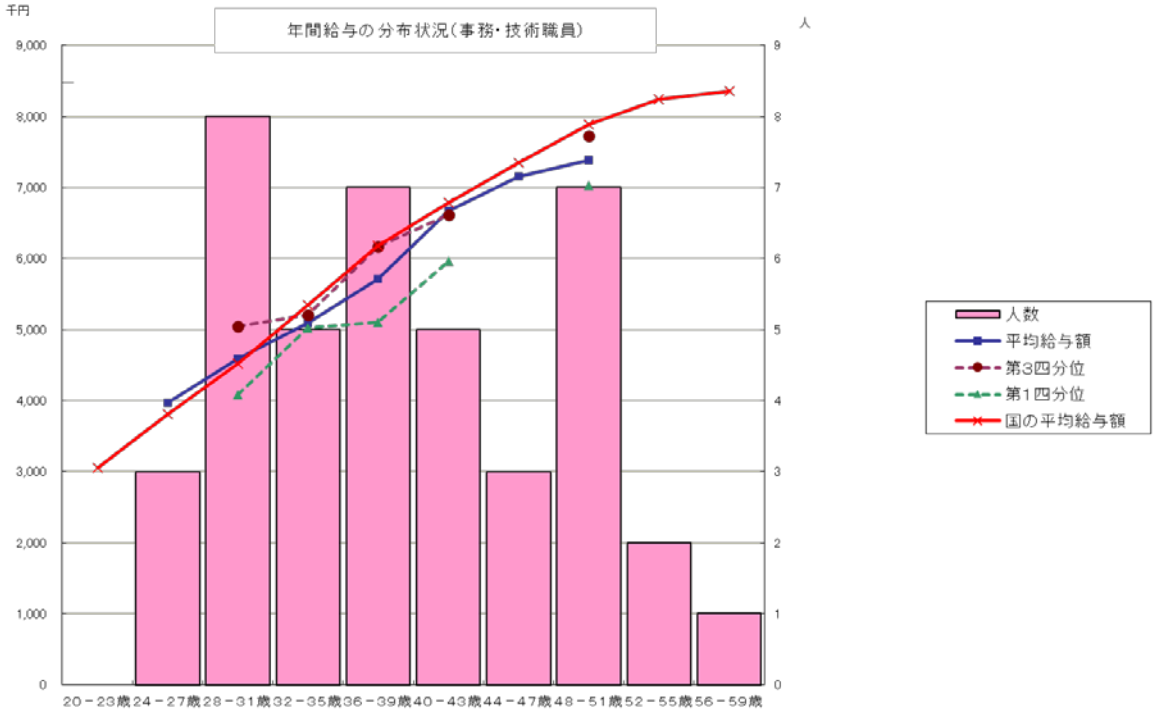
注2：技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3：技能・労務職種の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、職種のみ記載している。

注4：任期付き職員及び再任用職員の該当者はいずれも2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、該当者のいる職種のみ記載している。

注5：常勤職員、非常勤職員のうち医療職種（病院医師）、医療職種（病院看護師）及び教育職種（高等専門学校教員）、在外職員については、該当する者がないため欄を省略した。

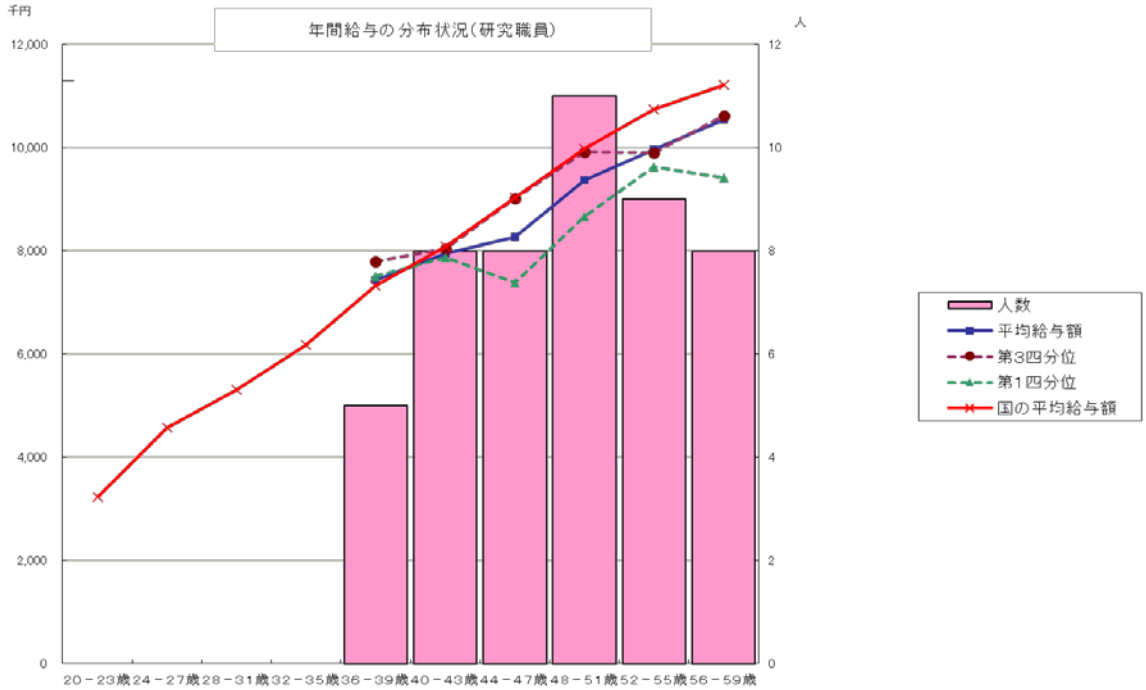
② 年齢別年間給与の分布状況（事務・技術職員／研究職員）〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1：①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2：年齢24-27歳、44-47歳、52-55歳及び56歳-59歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。

注3：年齢52-55歳及び56歳-59歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均給与額を表示していない。



③ 職位別年間給与の分布状況（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
本部課長	2	－	－	－	－
本部室長	2	－	－	－	－
本部係長	6	44.7	6,368	7,025	5,104
本部主任	2	－	－	－	－
本部係員	6	30.5	4,648	5,104	4,003
地方室長	5	49.5	7,758	8,218	7,260
地方係長	7	43.1	6,395	8,037	5,410
地方主任	4	39.0	5,538	－	－
地方係員	7	28.9	4,356	5,046	3,707

注1：地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2：本部課長、本部室長、本部主任の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

（研究職員）

分布状況を示すグループ	人員	平均年齢	年間給与額		
			平均	最高～最低	
	人	歳	千円	千円	千円
代表的職位					
副館長	2	－	－	－	－
学芸課長	6	52.7	10,815	11,722	9,584
主任研究員	39	47.9	8,703	10,098	6,263
研究員	2	－	－	－	－

注1：副館長、研究員の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

④ 賞与（令和2年度）における査定部分の比率（事務・技術職員／研究職員）

（事務・技術職員）

区分			夏季（6月）	冬季（12月）	計
一般職員	一律支給分（期末相当）		% 57.0	% 56.7	% 56.8
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% 43.0	% 43.3	% 43.2
		最高～最低	% 46.9～39.3	% 45.3～40.2	% 46.1～39.7

注：事務・技術職員の管理職員は該当する者がないため、欄を省略した。

（研究職員）

区分			夏季（6月）	冬季（12月）	計
管理職員	一律支給分（期末相当）		% 48.6	% 47.4	% 48
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% 51.4	% 52.6	% 52
		最高～最低	% 53.0～49.8	% 53.6～51.5	% 52.3～51.7
一般職員	一律支給分（期末相当）		% 58.0	% 56.8	% 57.4
	査定支給分（勤勉相当）（平均）		% 42.0	% 43.2	% 42.6
		最高～最低	% 46.6～40.0	% 47.9～40.7	% 46.1～40.8

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案　96.6 ・年齢・地域勘案　88.5 ・年齢・学歴勘案　95.1 ・年齢・地域・学歴勘案　87.8
国に比べて給与水準が高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　80.4% (国からの財政支出額　9,173百万円、支出予算の総額　11,404百万円:令和2年度予算) 累積欠損額　0円(令和2年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合　8.19% (支出総額(令和2年度決算ベース)　11,821,770千円、給与・報酬等支出総額968,560千円) 管理職の割合　0%(常勤職員数41名中0名) 大卒以上の割合　90.2%(常勤職員数41名中37名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を3.4ポイント下回っており、令和2年度の事務・技術職員の給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めてい
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

研究職員

項目	内容
対国家公務員 指数の状況	・年齢勘案　94.5 ・年齢・地域勘案　93.2 ・年齢・学歴勘案　94.2 ・年齢・地域・学歴勘案　92.9
国に比べて給与水準が高くなっている理由	該当なし
給与水準の妥当性の検証	【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合　80.4% (国からの財政支出額　9,173百万円、支出予算の総額　11,404百万円:令和2年度予算) 累積欠損額　0円(令和2年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合　8.19% (支出総額(令和2年度決算ベース)　11,821,770千円、給与・報酬等支出総額968,560千円) 管理職の割合　0%(常勤職員数41名中0名) 大卒以上の割合　90.2%(常勤職員数41名中37名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を5.5ポイント下回っており、令和2年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 法人の職員の給与水準は、職務の特性や国家公務員、民間企業の従業員の給与等を勘案し、設定の考え方を明らかにすることが求められており、国家公務員と比べて給与水準が高い法人は、その合理性及び妥当性について、説明責任を果たすべきこととされている。(独立行政法人改革等に関する基本的な方針(平成25年12月24日閣議決定)) 当該法人は、国家公務員の給与及び業務の実績等を総合的に勘案したうえで、職員の給与水準を設定しており、法人における給与水準の妥当性の検証結果から、適切な対応が執られていると考える。引き続き、適切な給与水準の設定に努めてい
講ずる措置	引き続き適正な給与水準を維持する。

4 モデル給与

（扶養親族がいない場合）
○ 22歳（大卒初任給）
月額 182，200円 年間給与 2，732，000円
○ 35歳（本部主任）
月額 317，640円 年間給与 5，241，000円
○ 50歳（本部室長）
月額 443，880円 年間給与 7，524，000円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当（配偶者6，500円、子1人につき10，000円）を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

Ⅲ 総人件費について

区　分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 947,002	千円 961,379	千円 978,610	千円 992,376	千円 968,560
退職手当支給額 (B)	千円 119,129	千円 48,506	千円 62,137	千円 40,753	千円 42,737
非常勤役職員等給与 (C)	千円 415,260	千円 474,297	千円 515,028	千円 528,945	千円 528,002
福利厚生費 (D)	千円 198,057	千円 205,032	千円 219,167	千円 227,097	千円 223,920
最広義人件費 (A＋B＋C＋D)	千円 1,679,448	千円 1,689,214	千円 1,774,942	千円 1,789,171	千円 1,763,219

注：中期目標管理法人及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

人事院勧告を踏まえた期末手当支給率の引き下げ等の影響、および常勤職員の欠員を補充しなかったことにより「給与、報酬等支給総額」は対前年度比2.7％減となり、「非常勤役職員給与」も対前年度比0.2％減となった。
また、これに伴い社会保険料額等による「福利厚生費」（前年度比△1.4％）の減少があった。
一方で「退職手当支給額」は増加（前年度比4.9％）した。
これらを総合して、「最広義人件費」は対前年度比1.5％減となった。

Ⅳ その他

特になし。